本書の見かた

本書ではお車の各装置や装備の正しい取り扱いかたと、快適ドライブ情報やお手入れのしかた、万一のときの応急処置などを記載しています。

◎ **お車を安全・快適にお使いいただくため、ご使用前に必ずお読みください。**
◎ **「警告」「注意」は安全のために特に重要です。よく読んでお守りください。**

- 本書の中で使用しているマークと意味は次のようになっています。

安全のために守っていただきたいこと。	
⚠ 警告	守らないと生命の危険または重大な傷害につながるおそれがあります。
⚠ 注意	守らないと傷害または事故につながるおそれがあります。
お車のために守っていただきたいこと。	
アドバイス	守らないと車両破損につながるおそれや正規性能を確保できないことがあります。
お車を使ううえで知っておいていただきたいこと。	
知識	知っておくとお車やいろいろな装備を上手に使うことができ便利です。

- コントロールパネルのスイッチは****、操作画面に表示されるメニューや項目は****と表示しています。
- 参照して読んでいただきたいページなどを、➔マークで表示しています。
- 日産販売会社で取り付けられた装備（ディーラーオプション）については、その装備に付属の取扱説明書をお読みください。
- 点検・整備、保証については別冊のメンテナンスノートをお読みください。
- 別冊のナビゲーションシステム取扱説明書も合わせてお読みください。
- その他、ご不明な点はカーライフアドバイザー（営業部員）にお申しつけください。

- 交通ルールやマナーを守って運転しましょう。
- 自然環境保護に配慮してください。
- 本書と別冊のメンテナンスノートはお車の中に保管してください。
- お車をゆずられるときは次に所有される方のために、本書をお車に付けておいてください。
- 車両の仕様変更により、本書の内容が実車と一致しない場合がありますのであらかじめご了承ください。

目次

外観フロント

車両前方から見た外観の名称と配置図です。

パワーウインドー→P.316
サンルーフ★→P.318
ワイパー→P.332
エンジンフード→P.391
アラウンドビュー
モニターカメラ★→別冊
方向指示器　兼
非常点滅表示灯→P.331 (交換P.418)
フォグランプ→P.330 (交換P.418)
ヘッドランプ→P.324 (交換P.418)
車幅灯→P.324 (交換P.418)
デイライト→P.324, 別冊
ドアミラー→P.73
方向指示器　兼
非常点滅表示灯→P.331
(交換P.418)
サイドブラインド
モニターカメラ★→別冊
ドア→P.303
タイヤ→P.360, 398

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

外観リヤ

車両後方から見た外観の名称と配置図です。

ハイマウントストップランプ→P.418

トランク→P.309

リヤデフォッガー→P.376

チャイルドセーフティドアロック→P.307

燃料補給口→P.312

番号灯→P.324（交換P.418）

制動灯/尾灯→P.324（交換P.418）

方向指示器　兼　非常点滅表示灯→P.331（交換P.418）

尾灯→P.324（交換P.418）

バックビューモニターカメラ→別冊

後退灯→（交換P.418）

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

車室内

車室内の名称と配置図です。

マップランプ→P.338
サンルーフスイッチ★→P.318
オーバーヘッドコンソール→P.340
ルームミラー→P.71
サンバイザー→P.336
ロックノブ→P.306
パワーウインドー
スイッチ→P.316
センターコンソール
ボックス→P.342
電源ソケット→P.350
メディアハブ→別冊
前席シート→P.57
シートベルト→P.64
SRSカーテンエアバッグシステム→P.38
リヤパーソナルランプ→P.339
アシストグリップ→P.351
リヤセンターアームレスト→P.63
後席用カップホルダー→P.344
後席用灰皿→P.347
後席シート→P.63

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

運転席まわり

運転席まわりの名称と配置図です。

ワイパーウォッシャースイッチ→P.332

ライトスイッチ→P.324

方向指示器スイッチ→P.331

フォグランプスイッチ→P.330

トリップ切り替え
スイッチ→P.268

イルミネーション
コントロールスイッチ→P.253

ステアリングスイッチ
（オーディオ、ナビゲーション
システム）→別冊

エンジンフード
オープナー→P.391

VDC OFFスイッチ→P.103

車両接近通報装置
一時停止スイッチ→P.113

トランクオープナースイッチ→P.310

ステアリングスイッチ→P.122, 133, 163, 171, 208, 273

パーキングブレーキ→P.90

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

インストルメントパネル①

インストルメントパネルまわりの名称と配置図です。

オーディオ/ナビゲーションシステム/エアコン→別冊
助手席SRSエアバッグシステム→P.31
グローブボックス→P.341
発炎筒→P.385
前席シートヒータースイッチ★→別冊
パワースイッチ→P.76
メーター→P.250
運転席SRSエアバッグシステム→P.31
チルト・テレスコピックステアリング→P.70
マルチファンクションスイッチ→別冊

インストルメントパネル②

インストルメントパネルまわりの名称と配置図です。

非常点滅表示灯スイッチ

リヤデフォッガースイッチ→P.376

前席用灰皿/シガーライター→P.346, 348

前席カップホルダー→P.343

パドルシフト★→P.82

セレクトレバー→P.78

ドライブモードセレクター→P.98

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

ハイブリッドシステムについて

日産ハイブリッドシステム

安全にご利用いただくために

画面表示について

はじめに

この車両のハイブリッドシステムは、ガソリンエンジン、モーター、リチウムイオンバッテリーを効率的に組み合わせ、大幅な燃費向上と動力性能を達成させた日産独自の高性能ハイブリッドシステムです。

日産ハイブリッドシステムについて

リチウムイオンバッテリー
高電圧配線（オレンジ色）
インバーター
高電圧配線（オレンジ色）
電動エアコン
コンプレッサー
モーター（トランスミッションに内蔵）
12Vバッテリー

ハイブリッドシステムの作動

メーター内の走行可能表示灯（➔ 表示灯 (P.264)）が点灯していれば、ガソリンエンジンが停止していても発進できます。

発進･低速走行

モーターだけで走行します。

通常走行（中高速）

ガソリンエンジンとモーターを燃費効率が最適になるように自動制御します。
リチウムイオンバッテリーの残量が少ない場合は、走行しながらモーターで発電させて充電します。

急加速走行

ガソリンエンジンとモーターの両方を使い、力強く加速します。

減速時、制動時

タイヤの回転力をモーターで電気エネルギーに変換し、リチウムイオンバッテリーに充電します。（回生ブレーキ）

停止時

エンジンを停止し、ガソリンを節約します。

その他

低速走行中又は停車中でも次の場合はガソリンエンジンが始動します。

- リチウムイオンバッテリーの残量が少ないとき
  （発電のため）
- エンジン冷却水の温度が低いとき
  （暖機のため）
- セレクトレバーを P にし、運転席シートベルトを外して運転席ドアを開けたとき
  （電源ポジションのOFF忘れを防止するため）

効率のよい走行のしかた

- 加減速はスムーズに行ってください。
  急加速、急減速を控えるとリチウムイオンバッテリーの残量低下を抑えられます。
- 長時間停車するときや車を離れるときはセレクトレバーを必ずPにしてください。また、渋滞走行時などはD又はマニュアルシフトゲートのままで走行してください。
- メーター（➔P.272）およびナビゲーションシステムの画面に表示される燃費表示を参考にして走行してください。
  詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。

回生ブレーキについて

回生ブレーキとは

- セレクトレバーがD又はマニュアルシフトゲートで走行中に次の場合は、減速するとともにタイヤの回転力をモーターで電気エネルギーに変換し、リチウムイオンバッテリーを充電します。
  - アクセルペダルから足を離しているとき
  - ブレーキペダルを踏んだとき
  - ブレーキシステム又はハイブリッドシステムに異常がないとき
- 指定以外のタイヤ･ロードホイールを装着した場合は、回生ブレーキが正常に作動しないことがあります。
  ➔ 回生協調ブレーキについて (P.110)

リチウムイオンバッテリーの充電について

- リチウムイオンバッテリーの残量が低下するとエンジンが始動し、自動的に充電を行うため、電気自動車のような外部からの充電は必要ありません。
  ただし、車両を長期間放置すると少しずつ放電するため、少なくとも２～３か月に一度、約30分間は運転してください。（リチウムイオンバッテリーがダメージを受け、使用できなくなるおそれがあります。）
  万一、リチウムイオンバッテリーがあがり、ハイブリッドシステムを始動できない場合は、日産販売会社に連絡してください。
- 長時間停車するときや車を離れるときはセレクトレバーを必ずPにしてください。渋滞時なども D 又はマニュアルシフトゲートで走行してください。セレクトレバーがN、D、Rでアクセルペダルおよびブレーキペダルを共に踏んでいない状態（例えば、セレクトレバーがDのままパーキングブレーキのみで停車する状態など）で長時間放置するとシステムが停止する場合があります。

ハイブリッドシステム特有の音や振動について

ハイブリッドシステム始動後は、次のような特有の音や振動が発生する場合がありますが異常ではありません。

- エンジンルームからのモーター音
- ハイブリッドシステムの始動･停止による、車両後方からの音
- ガソリンエンジンの始動･停止による音や振動
- アクセルペダルから足を離したときやブレーキを踏んだときの作動音やモーター音
- 急加速時のエンジン音
- 後席背もたれの左右両端にある空気取入口からのファンの作動音
- エアコンの作動音
- 歩行者に車両の接近を知らせるための音
  ➔ 車両接近通報装置 (P.113)

知識

- 従来のガソリンエンジン車と比較して、アイドリング時のエンジン回転数は高めに設定されています。 これはアイドリング中でもリチウムイオンバッテリーを充電するためで、異常ではありません。

高電圧部品には触れない

高電圧部位、サービス･プラグ、高電圧の配線（オレンジ色）およびそのコネクターに触れたり、取り外し、分解などは絶対に行わないでください。重大な傷害を受けるおそれがあります。

冷却用空気取入口をふさがない

後席背もたれの右側にリチウムイオンバッテリーを、左側にDC/DCコンバーターを冷却するための空気取入口があります。
性能低下や車両故障につながるため、荷物や衣類などを置いて取入口をふさがないでください。また、液体や砂など、異物が入らないように注意してください。

空気取入口

リチウムイオンバッテリーに水をかけない

トランクルーム内にふたのないバケツや水槽など、水がこぼれるおそれがあるものは置かないでください。リチウムイオンバッテリーに水がかかると故障の原因になります。

事故がおきたときは

- ハイブリッドシステムを停止し、車両が移動しないようにするため、次のようにしてください。
  - ブレーキペダルを踏み、セレクトレバーをPにする。
  - パーキングブレーキをかける。
  - 電源ポジションをOFFにする。
- 車体が大きく破損･変形しているとき、破損の状態によっては漏電や感電のおそれがあります。高電圧部位（リチウムイオンバッテリーなど）およびこれらを接続する配線（オレンジ色）には絶対に触らないでください。
- 万一、車両火災が発生したときは、電気火災にも使用可能な消火器（ABC消火器など）を使用して消火してください。水をかける場合には、消火栓などから水を大量にかけてください。

車検、点検整備のとき

必ず日産販売会社にご相談ください。

廃車にするとき

高電圧部品を搭載しているため、廃車する場合は必ず日産販売会社にご相談ください。

エネルギーモニター

ハイブリッドシステムの作動状況や燃費に関する情報などを、メーター内のアドバンスドドライブアシストディスプレイおよびナビゲーションシステムの画面に表示します。

エネルギーモニターについて

メーター内のアドバンスドドライブアシストディスプレイ（➔P.250）とナビゲーションシステムの画面にエンジン、リチウムイオンバッテリーおよびタイヤ間のエネルギーの流れを表示します。
ナビゲーション画面については、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。
画面は実際の表示とは異なる場合があります。
※オレンジ色表示がエンジン、青色表示がリチウムイオンバッテリーのエネルギーの流れを示します。

	アドバンスドドライブアシストディスプレイ
リチウムイオンバッテリーのエネルギーで走行している状態（青色表示）	

エネルギーモニター

	アドバンスドドライブアシストディスプレイ
回生ブレーキを使って、リチウムイオンバッテリーを充電している状態 （青色表示）	
エンジンのエネルギーで走行と充電の両方をしている状態 （オレンジ色表示）	

エネルギーモニター

	アドバンスドドライブアシストディスプレイ
エンジンとリチウムイオンバッテリー、両方のエネルギーで走行している状態 （青色表示+オレンジ色表示）	
エンジンのエネルギーで走行している状態 （オレンジ色表示）	

エネルギーモニター

	アドバンスドドライブアシストディスプレイ
エンジンのエネルギーでリチウムイオンバッテリーを充電している状態 （オレンジ色表示）	
エンジンと回生ブレーキ、両方のエネルギーで充電している状態 （青色表示+オレンジ色表示）	

エネルギーモニター

	アドバンスドドライブアシストディスプレイ
エネルギーの流れがない状態	
リチウムイオンバッテリーの残量表示	多い 少ない

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

SRSエアバッグについて

ポップアップエンジンフードについて

お子さまの安全のために

運転する前に

始動する

走行する

（次のページへ続く）

SRSエアバッグ

SRS エアバッグは、シートベルトと併用することで安全性を高めます。
シートベルトは必ず着用してください。

SRSエアバッグの作動

SRSエアバッグは、電源ポジションがONのときに作動可能です。
電源ポジションをONにしたあと、約7秒間はメーター内のSRSエアバッグ警告灯が点灯し、システムチェックを行うため、SRSエアバッグは作動しません。警告灯が消灯してから走行してください。
SRSエアバッグは、正面衝突時や側面衝突時において、乗員がシートベルトを正しく着用していても重大な傷害を受けるおそれのあるような衝撃を受けた場合に作動します。しかし衝撃が車体で吸収または分散され、車両の損傷は大きくても乗員への衝撃が強くならない場合には、必ずしも作動するとはかぎりません。

⚠ 警告

- 電源ポジションをONにしてもSRSエアバッグ警告灯が点灯しないときや、点灯または点滅を続けるときは、放置したまま走行しないでください。SRSエアバッグが正常に作動せず、重大な事故につながるおそれがあります。日産販売会社にご相談ください。

アドバイス

- 廃車にするときやSRSエアバッグを廃棄するときは必ず日産販売会社にご相談ください。
- SRSエアバッグは、一度膨らむと再使用できません。日産販売会社で交換してください。

知識

- SRSとは、「Supplemental Restraint System」の略でシートベルトの補助拘束装置の意味です。

SRSエアバッグの注意事項

⚠ 警告

- SRSエアバッグはシートベルトを補助する装置です。SRSエアバッグだけでは、身体の飛び出しなどを防止することはできません。SRSエアバッグの効果を発揮させるため、必ずシートベルトを正しい姿勢で正しく着用してください。
- 乗車するときは必ず次のことをお守りください。守らないと、SRSエアバッグが誤って作動したり正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。
  - ハンドルまわり、車両前部、インストルメントパネルまわり、フロントシートまわり、センターピラー（ロックピラー）まわり、センターコンソールまわり、ルーフサイド部などのSRSエアバッグ格納部を修理するときは、日産販売会社にご相談ください。また、SRSエアバッグ格納部に傷がついていたりひび割れがあるときは、そのまま使用せず日産販売会社で交換してください。
  - SRSエアバッグ格納部に過度の衝撃を与えないでください。
  - 電気テスターを使ってSRSエアバッグの回路診断をしたり、回路を変更しないでください。
  - エアロパーツなどを取り付けたりサスペンションを改造するときは、日産販売会社にご相談ください。不適正な改造をすると衝撃を正しく検知できません。
- 助手席には、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けることはできません。SRSエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。やむをえず助手席に取り付けるときは、シートをできるだけ後ろに下げ、必ず前向きに取り付けてください。
  ➔ チャイルドシート (P.47)

⚠ 警告

● チャイルドシートは走行する前に確実に固定されていることを確認してください。固定方法および取り扱いかたは、チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。

SRSエアバッグ

⚠ 注意

- SRSエアバッグは膨らんだあと高温になるため、30分以内はさわらないでください。やけどをするおそれがあります。
- SRSエアバッグは高温のガスにより高速で膨らむため、事故の状態によっては、擦過傷、打撲、やけどなどを負うことがあります。
- SRSエアバッグが膨らむとき、作動音や白煙が出ますが火災ではありません。また、発生するガスによりむせることがありますが毒性はありません。ただし、SRSエアバッグ作動時の残留物（カス）などが目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く水で洗い流してください。皮膚の弱い方などは、まれに皮膚に刺激を感じることがあります。

運転席･助手席SRSエアバッグシステム

車両前方から強い衝撃を受けたときSRSエアバッグが瞬時に膨らみ、乗員の頭部にかかる衝撃を緩和します。

格納場所

運転席SRS エアバッグは、ハンドル部に格納されています。
助手席SRS エアバッグは、助手席側インストルメントパネル部に格納されています。
乗員がいなくても運転席と同時に作動します。

格納場所

SRSエアバッグが作動するとき

次のような衝撃が強いときに作動します。

- 25km/h以上の速度で厚いコンクリートのような壁に正面衝突したとき
- 車両前方左右、約30°以内の方向から強い衝撃（上記と同等）を受けたとき

次のような車両下部に強い衝撃を受けたときも作動することがあります。（車両の損傷は少なくても乗員への衝撃は強いとき）

- 高速で縁石などに衝突したとき
- 深い穴や溝に落ち込んだとき
- ジャンプして地面にぶつけたとき

⚠ 注意

- 助手席SRSエアバッグが作動した衝撃で前面ガラスが割れることがあります。

知識

- 運転席、助手席SRSエアバッグは膨らんだあとすぐにしぼむので、視界の妨げになることはありません。

運転をするときは

SRSエアバッグが作動しにくいとき

次のような衝撃が弱いときは作動しないことがあります。
衝突したものが変形したり移動したときや、衝突した物の形状や衝突の状態によって衝突時の衝撃が緩められたときは、作動しにくくなります。

- 停車している同クラスの車に約50km/h以下の速度で衝突したとき
- 衝突時に折れない電柱などに約30km/h 以下の速度で正面衝突したとき
- トラックなどの荷台の下にもぐり込んだようなとき
- 斜め前方からガードレールなどに衝突したとき

SRSエアバッグが作動しないとき

一度、SRSエアバッグが作動したあとに衝突しても作動しません。また、次のようなときは作動しません。

- 横方向や後ろから衝突されたとき
- 横転、転覆したとき

運転席･助手席SRSエアバッグシステムの注意事項

警告

運転席SRSエアバッグシステム

- ハンドルから顔をできるだけ（約30cm 以上）離し、ハンドルにもたれかかるなどSRSエアバッグ格納部に手や顔、胸などを不必要に近づけないでください。また、内がけでのハンドル操作はしないでください。

- 不適正なハンドルに交換したり、センターパッド部（SRSエアバッグ格納部）にステッカーなどを貼らないでください。

⚠ 警告

ステッカー

● 前面ガラスにアクセサリーなどを付けないでください。

助手席SRSエアバッグシステム

● インストルメントパネル（SRSエアバッグ格納部）に手や足を置いたり、顔や胸などを近づけないでください。また、お子さまをSRSエアバッグ格納部の前に立たせたりひざの上に抱いたりせず、後席に乗せてください。

● チャイルドシートは後席シートに取り付けてください。やむを得ず助手席シートに取り付けるときは、シートをできるだけ後ろに下げ、必ず前向きに取り付けてください。乳児用チャイルドシートなど後ろ向きにしか使用できないシートは必ず後席シートに取り付けてください。

● チャイルドシートは走行する前に確実に固定されていることを確認してください。固定方法および取り扱いかたは、チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。

⚠ 警告

● インストルメントパネル上面および前面にステッカーなどを貼ったり、アクセサリーや芳香剤などを置かないでください。

ステッカー

運転席・助手席SRSサイドエアバッグシステム

車両側面から強い衝撃を受けたとき、衝撃を受けた側のSRSサイドエアバッグが瞬時に膨らみ、乗員の主に胸部にかかる衝撃を緩和します。

格納場所

SRSサイドエアバッグは、シート背もたれ側面（外側）に格納されています。助手席は乗員がいなくても作動します。

⚠ 警告

- ドアにもたれるなど、前席シート背もたれ側面（外側）のSRSサイドエアバッグ格納部に近づかないでください。特にお子さまが窓から腕を出したり、前席シートの背もたれを抱えたりしないように注意してください。
- 前席ドアをガラスが割れるほど強く閉めないでください。SRSエアバッグが誤作動するおそれがあります。
- 前席シートのSRSサイドエアバッグ格納部付近に傘やカバンなどを置かないでください。
- シートカバーは、前席シート背もたれ側面を覆わないものをお使いください。日産純正シートカバーをおすすめします。

SRSエアバッグが作動するとき

次のような衝撃が強いときに作動します。

- 一般的な乗用車に25km/h以上の速度で側面に真横から衝突されたとき

SRSエアバッグが作動しにくいとき

次のような衝撃が弱いときは作動しないことがあります。
衝突したものが変形したり移動したときや、衝突した物の形状や衝突の状態によって衝突時の衝撃が緩められたときは、作動しにくくなります。

- 側面に斜め方向から衝突されたとき
- 側面にバイクが真横から衝突したとき
- エンジンルーム（トランクルーム）に衝突されたとき
- 横転、転覆したとき
- 斜め前方から衝突したとき
- 電柱などに衝突したとき

SRSエアバッグが作動しないとき

一度、SRSエアバッグが作動したあとに衝突しても作動しません。また、次のようなときは作動しません。

- 停車中や走行中の車に正面衝突したとき
- 後ろから衝突されたとき

SRSカーテンエアバッグシステム

車両側面から強い衝撃を受けたとき、衝撃を受けた側のSRSカーテンエアバッグが瞬時に膨らみ、乗員の主に頭部にかかる衝撃を緩和します。

格納場所

SRSカーテンエアバッグは左右のルーフサイドに格納されています。助手席側は乗員がいなくても作動します。

格納場所

⚠ 警告

- ドアにもたれるなど、SRSカーテンエアバッグ格納部に近づかないでください。特にお子さまが窓から腕を出したり、前席シートの背もたれを抱えたりしないように注意してください。
- 前席ドアをガラスが割れるほど強く閉めないでください。SRSエアバッグが誤作動するおそれがあります。
- センターピラー（ロックピラー）まわり、ルーフサイド部などのSRSカーテンエアバッグ格納部付近に、アクセサリーやハンガーなどを取り付けないでください。

SRSエアバッグが作動するとき

次のような衝撃が強いときに作動します。

- 一般的な乗用車に25km/h以上の速度で側面に真横から衝突されたとき

SRSエアバッグが作動しにくいとき

次のような衝撃が弱いときは作動しないことがあります。
衝突したものが変形したり移動したときや、衝突した物の形状や衝突の状態によって衝突時の衝撃が緩められたときは、作動しにくくなります。

- 側面に斜め方向から衝突されたとき
- 側面にバイクが真横から衝突したとき
- エンジンルーム（トランクルーム）に衝突されたとき
- 横転、転覆したとき
- 斜め前方から衝突したとき
- 電柱などに衝突したとき

SRSエアバッグが作動しないとき

一度、SRSエアバッグが作動したあとに衝突しても作動しません。また、次のようなときは作動しません。

- 停車中や走行中の車に正面衝突したとき
- 後ろから衝突されたとき

ポップアップエンジンフード

歩行者と衝突し、ある一定のレベルを超えた衝撃が車両前部に加わったとき、エンジンフードの後端が瞬時に持ち上がり、エンジンフード下の部品との空間を広く保つことで歩行者の頭部がエンジンフードへ衝突したときの衝撃を緩和します。

- 電源ポジションがONのとき作動します。

ポップアップエンジンフードが作動するとき

次のような衝撃を受けたときに作動します。

- 走行中、フロントバンパーに歩行者と同等、もしくはそれ以上の衝撃を受けたとき
（作動するときの車の速度は車種によって異なる場合があります。また、衝突したときにフロントバンパーに痕跡が残らないような場合でも、ある一定のレベルを超えた衝撃が加われば作動します。）

次のような車両下部やバンパー下部に衝撃を受けたときも作動することがありますので、車両下部やバンパー下部に衝撃を受けそうな路面を走行するときは速度を落として注意して走行してください。

- 縁石に衝突したとき
- 深い溝や穴に落ち込んだとき
- ジャンプして地面にぶつけたとき
- 駐車場のスロープや落下物などにフロントバンパーをぶつけたとき
- 踏み切りなどのうねりのある路面にフロントバンパーをぶつけたとき

ポップアップエンジンフードが作動しにくいとき

次のような場所に衝突したときは衝撃を感知しにくいため、作動しないことがあります。

- 走行中、フロントバンパーの左右の角や側面に歩行者がぶつかったとき
（作動するときの車の速度は車種によって異なる場合があります。）

ポップアップエンジンフード

ポップアップエンジンフードが作動しないとき

一度、ポップアップエンジンフードが作動したあとに衝突しても作動しません。また、次のようなときにも作動しません。

- ポップアップエンジンフードが作動する速度の範囲外で走行中フロントバンパーに衝撃を受けたとき
（作動するときの車の速度は車種によって異なる場合があります。）
- 横方向や後ろから衝撃を受けたとき
- 横転、転覆したとき
（作動するときの車の速度は車種によって異なる場合があります。）

ポップアップエンジンフードの注意事項

警告

- ポップアップエンジンフードの部品や配線を修理したり、電気テスターを使ってシステムの回路診断をしないでください。誤って作動したり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- フロントバンパーの交換やエアロパーツの取り付けなどを行うときは、日産販売会社にご相談ください。不適正な改造をすると衝撃を正しく検知できません。
- 不適正なエンジンフードに交換しないでください。正常に作動しなくなるおそれがあります。
- ポップアップエンジンフードが作動したときは、フードオープナーを引かないでください。
フードオープナーを引くと、さらにフードが上がり視界の妨げとなるため危険です。
また、フードを無理に押し戻さないでください。作動したフードは手動で下げることができないため、フードが変形したり、思わぬケガをするおそれがあります。ポップアップエンジンフードが作動したときは、必ず日産販売会社にご相談ください。
- フロントバンパーに衝撃が加わったときは、ポップアップエンジンフードが作動しなくてもセンサーが故障している可能性があるため、必ず日産販売会社にご相談ください。

注意

- 電源ポジションをON後、約7秒間はメーター内のポップアップエンジンフード警告灯が点灯し、システムチェックを行うため、ポップアップエンジンフードは作動しません。警告灯が消灯してから走行してください。
- 廃車にするときやポップアップエンジンフードのアクチュエータを破棄するときは、必ず日産販売会社にご相談ください。アクチュエータの作動により、思わぬ傷害を受けるおそれがあります。

ポップアップエンジンフード

アドバイス

- ポップアップエンジンフードは、一度作動すると再使用できません。日産販売会社で交換してください。

お子さまを乗せるときは

お子さまを乗せるときは、次のことに注意してください。

お子さまは後席に

- 助手席に乗せるのは避けてください。お子さまの動作が気になったり、スイッチ、レバー類のいたずらなど安全運転の妨げになるおそれがあります。また、助手席SRSエアバッグの格納部に近づいていると、万一の事故などでSRSエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。

お子さまにもシートベルトを着用

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。お子さまを抱いていると、衝突時などに支えることができず重大な傷害を受けるおそれがあります。
➔ シートベルトのつけかた (P.64)
- シートベルトが首や顔に当たったり、腰骨に掛からないような小さなお子さまには、チャイルドシートをお使いください。
➔ チャイルドシート (P.47)

チャイルドシートは後席に

- チャイルドシートは後席に取り付け、走行する前に確実に固定されていることを確認してください。固定方法および取り扱いかたは、チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。
- 助手席には、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けることはできません。SRSエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。やむをえず助手席に取り付けるときは、シートをできるだけ後ろに下げ、必ず前向きに取り付けてください。
- チャイルドシートは使用していないときでもシートにしっかりと固定するか、荷室などに収納してください。車室内に放置したままにすると、急ブレーキ時などに思わぬ事故につながるおそれがあります。

お子さまを乗せるときは

ドア、ウインドーなどは大人が操作

- ドア、ウインドーなどの開閉は、お子さまには操作させないでください。開閉時に手、首、足などを挟んだりして、重大な傷害につながるおそれがあります。
- チャイルドセーフティードアロック（➔P.307）やパワーウインドーロックスイッチ（➔P.316）を使用し、お子さまが操作できないようにしてください。

窓やサンルーフ★から手や顔を出さない

- お子さまが手や顔を出さないように注意してください。急ブレーキ時に窓枠などにぶつかったり、車外の障害物に当たったりして、重大な傷害につながるおそれがあります。

車室内にお子さまだけを残さない

- 車から離れるときは、必ずお子さまを一緒に降ろしてください。炎天下では車室内が高温になり、生命にかかわるおそれがあり危険です。
- お子さまのいたずらで車の発進、火災など、思わぬ事故につながるおそれがあります。

チャイルドシート

チャイルドシートの固定機構を使ってチャイルドシートを固定することができます。

チャイルドシートの種類

乳児用チャイルドシート： ECE R44基準のグループ0、0⁺に相当します。
チャイルドシート： ECE R44基準のグループ0⁺、Ⅰに相当します。
ジュニアチャイルドシート： ECE R44基準のグループⅡ、Ⅲに相当します。

- 乳児用チャイルドシート、チャイルドシート、ジュニアチャイルドシートの総称として「チャイルドシート」と呼んでいます。
- この車はECE R44の基準に適合したISO FIX対応チャイルドシート固定専用アンカーを標準装備しています。

⚠ 警告

- 助手席には、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けることはできません。SRSエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。やむをえず助手席に取り付けるときは、シートをできるだけ後ろに下げ、必ず前向きに取り付けてください。

①

① エアーバッグ警告ラベル

AIRBAG

⚠ 注意

- お子さまの年齢や体格にあった、適切なチャイルドシートをお選びください。
- 固定方法および取り扱いかたは、チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。

知識

- ECE　R44はチャイルドシートに関する国際法です。ECE　R44の基準に適合した汎用（ユニバーサル）チャイルドシートには、認可マークが貼られています。

認可マーク	説明
ECE R44/04	法規番号
UNIVERSAL	チャイルドシートのカテゴリー (UNIVERSALは汎用品の認可であることを表します。)
-18kg Y	対象となるお子様の体重範囲
E○	当該装置を認可した国番号
04＊＊＊＊	当該装置認可番号

チャイルドシートの質量グループ

ECE　R44の基準に適合するチャイルドシートはお子さまの体重により次のように分類されます。

質量グループ	お子さまの体重
グループ0	0kgまで
グループ0^{+}	13kgまで
グループⅠ	9〜18kgまで
グループⅡ	15〜25kgまで
グループⅢ	22〜36kgまで

アンカーの位置

後席シートの左右にはISO FIX対応チャイルドシートを取り付けるためのアンカー（固定装置）が装備されています。

- ISO FIX対応チャイルドシート用ロアアンカーは、マークの下側にあります。
- テザーアンカーは、リヤパーセルにあります。
- 取り付けかたおよび取り外しかたは、チャイルドシートに付属の取扱説明書をお読みください。

マーク

⚠ 警告

- チャイルドシートを取り付けるときは、アンカー部周辺に異物がないことや、シートベルトなどのかみ込みがないことを確認してください。異物やシートベルトなどをかみ込むとチャイルドシートが固定されず、衝突時や急ブレーキ時にお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。
- チャイルドシートは確実に固定してください。確実に固定されていないと、衝突時や急ブレーキ時にお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠ 注意

- ISO FIX対応チャイルドシートを取り付けるときは、ヘッドレストをロックする位置まで上げてください。

チャイルドシート適合表

チャイルドシートの固定方法には、シートベルトで取り付ける方法と、
ISO FIX対応チャイルドシート固定専用アンカーで取り付ける方法があります。
次の表から各着席位置でどのチャイルドシートが使用できるかを確認してください。

シートベルトで取り付けるチャイルドシートについて

■ 選択の目安

質量グループ	着席位置		
	前席（助手席）	後席	
		左右席	中央席
0 （10kgまで）	X	U	X
0⁺（13kgまで）	X	U	L
Ⅰ （9～18kg）	UF※1	U	X
Ⅱ （15～25kg）	UF※1	U	X
Ⅲ （22～36kg）	UF※1	U	X

U　：この質量グループでの使用を認可された汎用（ユニバーサル）区分のチャイルドシートに適合しています。
UF　：この質量グループでの使用を認可された汎用（ユニバーサル）区分の前向きチャイルドシートに適合しています。
L　：次の表に記載されている日産純正チャイルドシートの取り付けが可能です。
X　：チャイルドシートを取り付けることはできません。
※1　：チャイルドシートを取り付けるときは、必ず座面を最上段にしてください。
➔ 前席シートの調節 (P.57)

■ 日産純正チャイルドシート

質量グループ	取り付け向き	商品名
0⁺（13kgまで）	後向き	チャイルドセーフティシート（E4 04443812）

⚠ 注意

- 表に記載されていないチャイルドシートを使用するときは、チャイルドシート製造業者または販売業者にご相談ください。

ISO FIX専用アンカーで取り付けるチャイルドシートについて

質量グループ	サイズ等級	固定具	ISO FIX位置（車両側）後席左右
キャリコット	F	ISO/L1	X
	G	ISO/L2	X
0 （10kgまで）	E	ISO/R1	X
0^{+}（13kgまで）	E	ISO/R1	IL
	D	ISO/R2	X
	C	ISO/R3	X
Ⅰ （9～18kg）	D	ISO/R2	X
	C	ISO/R3	X
	B	ISO/F2	IUF
	B1	ISO/P2X	IUF
	A	ISO/F3	IUF
Ⅱ （15～25kg）	-	(1)	X
Ⅲ （22～36kg）	-	(1)	X

IUF　：この質量グループでの使用を認可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの前向きチャイルドシートに適合しています。
IL　：この質量グループでの使用を認可された、次の表に記載されている「日産純正 ISO FIX対応ベビーシート」に適合しています。
X　：チャイルドシートを取り付けることはできません。
(1)　：サイズ等級表示の無いチャイルドシートの各シート位置でのISO FIX対応チャイルドシート固定機構の取り扱いについては販売業者にご相談ください。

⚠ 警告

- チャイルドシートを取り付けるときは、アンカー部周辺に異物が無いことや、シートベルトなどのかみ込みがないことを確認してください。異物やシートベルトなどをかみ込むとチャイルドシートが固定されず、衝突時や急ブレーキ時にお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。
- チャイルドシートは確実に固定してください。確実に固定されていないと、衝突時や急ブレーキ時にお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠ 注意

- ISO FIX対応のチャイルドシートをすでにお持ちの場合、ご使用前にECE R44の基準に適合していることを確認してください。詳しくは、日産販売会社にご相談ください。

■ 日産純正ISO FIX対応チャイルドシートについて

質量グループ	サイズ等級	固定具	商品名	取り付け向き	カテゴリー
0+ （13kgまで）	E	ISO/R1	日産純正 ISO FIX対応ベビーシート（H8000-79923）	後向き	準汎用

注意

- 日産純正ISO FIX対応ベビーシートの取り付けには別売りのベースキットが必要です。

各種注意事項について

⚠ 注意

- ガソリンや可燃性ガスの入ったスプレー缶などは積まないでください。引火や爆発するおそれがあり危険です。
- ウインドーにアクセサリーを取り付けると、視界の妨げになったり、吸盤がレンズの働きをして火災を起こしたり、SRSエアバッグが作動したときアクセサリーが飛んでケガをするなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- エンジン本体、駆動系などこの車両の持っている性能を十分に引き出すためには、ならし運転が必要です。
  走行距離約1,600kmまでは適度な車速、エンジン回転数で運転してください。
- 車の性能や機能に適さない部品を装着したり、自己流のエンジン調整や配線、市販の不適合品のマフラー取り付けなどを行わないでください。故障や火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 日産が国土交通省に届け出をした部品以外の物を装着すると、違法改造になることがあります。
- 次のような場合には日産販売会社にご相談ください。
  - 適切でない電装品や無線機などを取り付けないでください。電子機器部品に悪影響を及ぼしたり、誤った配線は故障や火災など、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、12Vバッテリー端子に電装品やアース線などを直接つながないでください。12Vバッテリーが上がる可能性があります。
  - ハンドルの取り外しや交換を不適切に行うと、SRSエアバッグが正常に作動しなかったり、不意に作動したりして、思わぬ傷害を受けるおそれがあります。
  - 排気音が大きくなったときは、排気管が腐食したり路面干渉などで損傷しているおそれがあるため、日産販売会社で点検を受けてください。排気管に穴が開いたまま走行を続けると、高温の排気ガスが漏れ、排気ガスが車内に侵入したり、火災につながるおそれがあります。

運転するときに注意すること

⚠ 注意

– 事故などでランプが破損したまま走行しないでください。内部に水などが入ると、発煙し火災につながるおそれがあります。

● 無用な空ぶかしをしたり、エンジンをかけたまま仮眠をしないでください。万一、セレクトレバーがP以外に入っていると、急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあります。 また、無意識にセレクトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして思わぬ事故やエンジン過熱による火災などにつながるおそれがあり危険です。

● 操作部が露出しているガスライターをグローブボックスなどの小物入れに入れておいたり、床やシートのすき間に落としたままにしないでください。荷物を押し込んだときやシートを動かしたときに、ライターの着火ボタンが押されてガスが噴出し、火災につながるおそれがあります。また、ライターを使用したあと、すぐに収納すると火災を起こすおそれがあります。

● 灰皿を使ったあとは、マッチやタバコの火が消えていることを確認し、ふたを必ず閉めてください。また、紙くずなど燃えやすいものは入れないでください。出火するおそれがあります。

正しい運転姿勢

正しい運転姿勢をとれるよう、ハンドル、シート、ミラーを調節してください。

正しい運転姿勢について

⚠ 警告

- シート、ハンドル、ミラーの調節は、安全のため必ず走行前に行ってください。走行中に調節すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 調節したあとは、確実に固定されていることを確認してください。シートやハンドルが固定されていないと運転姿勢が突然変わり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- 背もたれと背中の間にクッションなどを入れないでください。運転姿勢が不安定になり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

前席シートの調節

■腰部の張り出し量の調節（運転席）

手動★

少ない　多い

●調節したい方向にレバーを動かします。

電動★

少ない　多い

●調節したい方向にスイッチを動かします。

■背もたれの角度調節

後ろへ　前へ

●調節したい方向にスイッチを動かします。

■前後位置の調節

後ろへ　前へ

●調節したい方向にスイッチを動かします

■上下位置の調節

全体が動く　前側が動く

●シート全体を調節するときはスイッチの後ろ側を、シートの前側を調節するときはスイッチの前側を動かします。

⚠ 警告

- 背もたれを倒したまま走行しないでください。シートベルトが効果を十分発揮せず、衝突時などに重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠ 注意

- 調節するときは、動いている部分に手や足などを近づけないでください。挟まれてケガをするおそれがあります。
- 背もたれを調節するときは、背もたれを支えながら調節してください。顔や身体にあたり思わぬケガをするおそれがあります。
- 車室内を清掃するときやシートの下に落としたものを拾うときなど、シートの下に手を入れるときは十分に注意してください。シートレールやシートフレームに当たりケガをするおそれがあります。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

ヘッドレストの使いかた

ヘッドレストの中心が、耳の高さになるように調節します。

- 上げるときは、そのままヘッドレストを引き上げ、下げるときは、ボタンを押しながらヘッドレストを下げます。

⚠ 警告

- ヘッドレストは外したまま走行しないでください。万一のとき、頭部への衝撃を防ぐことができなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- 取り付けるときは、前後の向きを間違えないでください。
- 取り付けたあとは、ヘッドレストを持ち上げ、抜け出さないことを確認してください。万一のとき、ヘッドレストが効果を十分発揮せず、思わぬケガをするおそれがあります。

■ ヘッドレストの脱着

- 取り外すときは、ボタンを押しながらヘッドレストを引き上げます。
- 取り付けるときは、ボタンを押しながらヘッドレストを差し込みます。

パーソナルドライビングポジションメモリーシステム★

パーソナルドライビングポジションメモリーシステムは、ログイン機能で認識されたユーザーのドライビングポジションを自動的に復帰させることができ、次のような機能があります。

➔ ログイン機能 (P.301)

- シートおよびハンドルの退避･復帰機能
- ログイン連動メモリー機能
- スイッチメモリー機能

知識

- すべての機能は、セレクトレバーがPのときに作動します。
- ハイブリッドシステム始動時は作動が一時停止しますが、ハイブリッドシステム始動後に再開します。
- 以下のいずれかの操作を行うと作動が停止します。
  – セレクトレバーをP以外にしたとき
  （シートの復帰機能は停止しません。）
  – シート、ハンドル、ドアミラーの調節スイッチを操作したとき
  – セットスイッチ、メモリースイッチのいずれかを押したとき
- 12Vバッテリーを外すと、記憶された設定が消去されます。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

■ シートおよびハンドルの退避・復帰機能

運転席シートとハンドルが自動的に動き、乗り降りを楽にします。

退避機能

電源ポジションをOFFにして運転席ドアを開けると、運転席シートとハンドルが乗り降りしやすい位置に動きます。

復帰機能

電源ポジションをONにすると、運転席シートとハンドルが選択しているユーザーの設定した位置に戻ります。

📖 知識

- 退避した位置でシート又はハンドルを調節すると、復帰機能は作動しません。
- 電源ポジションがACCのときは、携帯しているインテリジェントキーを前回使用したユーザーが、設定していた位置に戻ります。

■ ログイン連動メモリー機能

次の手順でログイン機能(➔P.301)に運転ポジション（シート、ハンドル位置、ドアミラー鏡面角度）を記憶することができます。

① あらかじめユーザー登録の完了しているインテリジェントキーを携帯し、電源ポジションをONにします。

② 運転席のシートポジション、ハンドルの位置、ドアミラーの角度を調節し、電源ポジションをOFFにします。

次回から、インテリジェントキーを携帯して電源ポジションをONにすると、自動的に記憶した運転ポジション（シート、ハンドル位置、ドアミラー鏡角度）を呼び出します。

📖 知識

- ログイン機能には運転ポジション以外（エアコン、ナビゲーションシステムなど）の設定も記憶されます。
➔ ログイン機能 (P.301)

■ スイッチメモリー機能

2名分の運転ポジション（シート、ハンドル位置、ドアミラー鏡面角度）をスイッチに記憶させ、呼び出すことができます。

記憶のしかた

① 正しい運転姿勢が取れる運転ポジションに調節します。
➔ ハンドル位置の調節 (P.70)
➔ 前席シートの調節 (P.57)
➔ ドアミラースイッチ (P.73)

② セットスイッチを押し、押してから5秒以内に記憶させたい方のメモリースイッチを1秒以上押します。
記憶させたスイッチの表示灯が約5秒間点灯します。

呼び出しかた

セレクトレバーを P にします。
記憶を呼び出したいメモリースイッチを呼び出しが開始するまで押し続けます。
呼び出し中はスイッチの表示灯が点滅し、完了すると約5秒間点灯します。

セットスイッチ
表示灯
メモリースイッチ

知識

- ログイン機能で記憶した運転ポジションとは別にスイッチに記憶されます。
- 運転ポジション以外の設定はスイッチに記憶しません。
- セットスイッチを押したとき、記憶されていると約5秒間表示灯が点灯します。
- 状況により、メモリースイッチを押してから呼び出しが開始するまで数秒かかることがあります。

■ 設定の切り替え

シートおよびハンドルの退避･復帰機能の作動･非作動をそれぞれ切り替えることができます。

① 電源ポジションをLOCKにします。
② セットスイッチを10秒以上押し続け、作動と非作動を切り替えます。

表示灯の点滅回数	設定状態
2回	作動
1回	非作動

知識

● シートおよびハンドルの退避･復帰機能はナビゲーションシステムでも設定を切り替えることができます。
詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。

後席シートの調節

■ ヘッドレストの使いかた

- ヘッドレストは、格納位置からロックする位置まで上げた状態で使います。
- 脱着のしかたは、前席シート（➔P.57）と同じです。

⚠ 注意

- ヘッドレストはロック位置まで上げ、確実に固定されていることを確認してから使用してください。格納状態では機能が十分に発揮できません。

■ リヤセンターアームレストの使いかた

- アームレストを前に倒して使います。
- 格納するときは引き上げます。

ELR（緊急固定）付3点式シートベルト

通常は身体の動きに合わせて伸縮しますが、衝突時など強い衝撃を受けると、ベルトが自動的にロックし身体を固定します。

シートベルトのつけかた

1	タングを持ってベルトをゆっくり引き出します。 ベルトを腰骨のできるだけ低い位置に掛け、たるみがないように密着させます。	
2	ベルトがねじれないようにして、タングをバックルに“カチッ”と音がするまで確実に差し込みます。	タング バックル
3	肩ベルトのアンカー位置の高さを調節します。（前席のみ） ● ノブを押しながらアンカー部を上下させ、ベルトが肩に確実に掛かる位置に調節し手を離します。 ● 手を離したあと、“カチッ”と音がするまで動かし固定させます。	ノブ アンカー
4	外すときは、バックルのボタンを押し、タングを持ってゆっくり戻します。	ボタン（赤色部）

警告

● 肩ベルトのアンカー位置は確実に肩に掛かるように調節してください。また、アンカーは確実に固定されていることを確認してください。ベルトが肩から外れたり、万一のときシートベルトが十分効果を発揮せず、重大な傷害につながるおそれがあります。

アドバイス

● ベルトがロックして引き出せないときは、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、再度ゆっくり引き出してください。

ロードリミッター付プリテンショナーシートベルト（後席中央を除く）

- 正面衝突など車両前方から強い衝撃を受けたとき、装着したシートベルトを瞬時に巻き取るプリテンショナーと乗員に加わるシートベルトの拘束力を一定レベルに保つロードリミッターが付いています。
- 運転席･助手席SRSエアバッグシステムと同時に作動します。
  ➔ SRSエアバッグ (P.27)
- 運転席および助手席にはダブルプリテンショナー機構が付いています。ラップアウタープリテンショナーが腰部シートベルトの緩みを引き込み、肩部のロードリミッター付プリテンショナーと合わせて乗員の拘束性能を高めます。

⚠ 警告

- プリテンショナーシートベルトの部品や配線を修理したり、電気テスターを使ってプリテンショナーのシステムの回路診断をしないでください。誤って作動したり、正常に作動しなくなるおそれがあります。

⚠ 注意

- 電源ポジションをON後約7秒間はシステムチェックを行うため、プリテンショナーは作動しません。SRSエアバッグ警告灯が消灯してから走行してください。

アドバイス

- 廃車にするときやプリテンショナーシートベルトを廃棄するときは、必ず日産販売会社にご相談ください。
- プリテンショナーが作動したとき作動音や白煙が出ますが、火災ではありません。
- プリテンショナーは、一度作動すると再使用できません。衝突を起こしたときは必ず日産販売会社で点検を受け、作動済みの場合は交換してください。

前席緊急ブレーキ感応型プリクラッシュシートベルト★

走行中、次のような場合に電動モーターでシートベルトを巻き取り、ベルトのたるみを減少させます。

- 走行中（約15km/h以上）に運転者のブレーキ操作が緊急ブレーキであることをシステムが判断したとき
- エマージェンシーブレーキ★（➔P.232）が作動したとき
- カーブを走行中（約30km/h以上）に車両が横滑りを起こしそうな状況であることをシステムが判断したとき
- 走行中（約60km/h）に運転者のハンドル操作が緊急回避であることをシステムが判断したとき

⚠ 警告

- 使用方法は通常のシートベルトと同じです。正しく着用しないと、システムの効果が十分発揮できず、重大な傷害につながるおそれがあります。
- システムを過信しないでください。常に周囲の状況、天候、路面状況に注意し、急ブレーキをかけなくても停止できるように心がけてください。

知識

コンフォート機能

- 次の場合には、電動モーターでシートベルトの巻き取りを補助します。
  - シートベルトを着用したとき
  - シートベルトを外したとき
  - 前席ドアを開けたとき
- コンフォート機能を連続作動させると、システム保護のために一時的に連続作動が行えなくなります。数分後に通常の作動に戻ります。
- シートベルトを外した場合に上記のシステム保護以外でシートベルトの巻き取りが作動しないときは、プリ

知識

クラッシュシートベルトのシステムに異常が考えられます。通常走行に支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

ELR（緊急固定）付3点式シートベルト

走行する前に全員が必ずシートベルトを着用してください。シートベルトは正しい姿勢で正しく着用しないと、シートベルトの効果が十分発揮できなかったり、ベルトによりケガなどをするおそれがあります。
使用方法、警告に従って正しく着用してください。

シートベルトの注意事項

⚠ 警告

- 走行する前に全員がシートベルトを着用してください。着用しないと、万一の事故時や急ブレーキ時に、生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。
- シートベルトを正しく着用しないと、万一のとき重大な傷害につながるおそれがあります。着用するときは以下のことを必ずお守りください。
  - 運転者は正しい運転姿勢で、同乗者は正しい着座姿勢で着用してください。
  - ベルトは1人用です。2人以上で1本のベルトを使わないでください。
  - ベルトはねじれた状態で着用しないでください。ねじれがあるとベルトの幅が狭くなり、万一のとき衝撃力が分散できず、局部的に強い力を受けることがあります。
  - 腰部ベルトは腰骨のできるだけ低い位置にぴったりと着用してください。ベルトが腰骨からずれていると、腹部に強い圧迫を受けることがあります。
  - 肩ベルトは脇の下を通さず、確実に肩に掛けてください。肩に十分掛かっていないと、上半身を拘束しないことがあります。
  - シートベルトをクリップなどで故意にたるみをつけ、身体から浮いた状態に調節しないでください。ベルトにたるみがあると、十分な効果を発揮しないことがあります。
- シートの背もたれを倒したまま走行しないでください。シートベルトが効果を十分発揮せず、衝突時などに身体がシートベルトの下に入り込み、ベルトにより重大な傷害を受けるおそれがあります。
- バックルや巻き取り装置の中に異物を入れないでください。シートベルトが正常に機能を発揮せず、万一のとき重大な傷害につながるおそれがあります。
- 妊娠中や疾患のある方も、万一のときのためにシートベルトを着用してください。ただし、局部的に強い圧迫を受けるおそれがありますので医師に相談し、注意事項を確認してください。妊娠中の方は、腰ベルトを腹部から避けて腰部のできるだけ低い位置にぴったりと着用してください。肩ベルトは、確実に肩を通し、腹部を避けて胸部

⚠ 警告

に掛かるように着用してください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。お子さまをひざの上に抱いていると、衝突時などにお子さまを支えることができず、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。
- シートベルトが首や顔に当たるなど、適正な着用ができない小さなお子さまには、チャイルドシートをお使いください。
  ➔ チャイルドシート (P.47)
- 一度強い衝撃を受けたシートベルトやベルト部分に傷がついたり破れたりしているシートベルトは、機能を十分発揮しないことがあります。事故などにより衝撃を受けたり傷がついた場合は、日産販売会社に点検を依頼してください。
- シートベルトの清掃は中性洗剤かぬるま湯で行い、乾かしてからお使いください。ベンジンやガソリンなどの有機溶剤は絶対に使わないでください。ベルトの性能が落ち、シートベルトが機能を十分発揮しないことがあります。

ハンドル

ハンドル位置の調節

スイッチを前後上下に押して調節します。

ホーンの使いかた

ホーンを鳴らすには、ハンドル中央のパッド面を押します。

⚠ 警告

- ハンドルの調節は、安全のため必ず走行前に行ってください。走行中に調節をすると、前方不注意となり危険です。

自動防眩式ルームミラー★

自動防眩式ルームミラーは、後続車両のヘッドランプの明るさに応じて反射率を自動的に調整します。

- ミラー本体を持ち、角度を調節して適切な位置に合わせます。
- 電源ポジションをONにすると自動防眩が作動し、後続車両のヘッドランプによるまぶしさが軽減されます。
（インジケーターⒷが点灯）
- スイッチⒶを押すと、自動防眩がOFFになります。
（インジケーターⒷが消灯）
- もう一度スイッチⒶを押すか、一度電源ポジションをOFFにし、再度電源ポジションをONにすると自動防眩がONになります。

警告

- ミラーの調節は安全のため必ず走行前に行ってください。また、防眩への切り替えは必要なときのみ行ってください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- ルームミラーに物をかけたり、ガラスクリーナーを使用しないでください。センサーⒸの感度が低下し、作動不良の原因となるおそれがあります。

運転をするときは

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

手動防眩式ルームミラー

ミラー本体を持ち、角度を調節して適切な位置に合わせます。
夜間など後続車のヘッドランプがまぶしいときは、防眩切り替えレバーを手前に引くと反射が弱くなります。
昼間など通常走行時は防眩切り替えレバーを元の位置に戻してお使いください。

⚠警告

- ミラーの調節は安全のため必ず走行前に行ってください。また、防眩への切り替えは必要なときのみ行ってください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

ドアミラースイッチ

ドアミラースイッチは運転席のアームレストにあります。
電源ポジションがACCまたはONのときに操作できます。

角度の調節

① 左右切り替えスイッチを調整する側に動かします。
(左側はL、右側はR)

② 角度調整スイッチを前後･左右に押して、後方が十分確認できる位置に調節します。

警告

- ドアミラーの調節は走行前に行ってください。走行中の調節は前方不注意となり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- ミラーの映像は実際より遠くに見えるので注意してください。

知識

ヒーター付ドアミラー

- 電源ポジションがONのとき、➔ リヤデフォッガースイッチ (P.376)を押すと、ドアミラーに内蔵されたヒーターが作動し霜やくもりを取ります。

ドアミラースイッチ

格納のしかた

開閉スイッチの左側を押すと、左右のミラー本体が格納されます。
開閉スイッチの右側を押すと、元に戻ります。

注意

- ミラーが動いているときは手を触れないでください。手を挟んだり、ミラーが故障するおそれがあります。
- ミラーを格納したまま走行しないでください。後方確認ができないため危険です。
- 手動で開閉すると走行中ミラーが前方または後方に倒れるおそれがあります。手動で開閉したあとは、走行前に開閉スイッチで開閉操作を行ってください。

知識

- 開閉スイッチ操作を連続して行うと、途中で停止することがありますが、故障ではありません。しばらくしてから作動させてください。
- 手動で開閉した場合、開閉スイッチの位置により、電源ポジションをACCまたはONにしたときにミラーが動き出すことがあります。

リバース連動下向きドアミラー★

セレクトレバーをRにすると(後退時)、左右のドアミラーの角度が後輪の外側付近を映すように作動します。
左右切り替えスイッチを左右どちらかにすると作動し、中立にあると作動が停止します。

① 電源ポジションをONにし、左右切り替えスイッチを左右どちらかに動かします。
② セレクトレバーをRにすると、ドアミラーが下向きに作動します。

セレクトレバーをR以外にするか、左右切り替えスイッチを中立位置にすると元の角度に戻ります。

知識

- 電源ポジションをON以外にしてもドアミラーは元の角度に戻ります。
- 使用している鏡面角度によっては、リバース時に鏡面が作動範囲まで動いたあとも動こうとしますが異常ではありません。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

各電源ポジションの働き

インテリジェントキーを携帯しているとき、ブレーキペダルを踏まずにパワースイッチを押すと電源ポジションが切り替わります。

電源ポジション	働き
LOCK	ステアリングロックが作動する位置
ACC	オーディオ、ドアミラーなどが使える位置
ON	すべての電装品が使える位置
OFF	電源が切れる位置

パワースイッチの切り替わりかた

LOCK → ACC → ON → (OFF) → LOCK

START STOP

アドバイス

- 次の条件がそろった状態で約30分経過すると自動的に電源ポジションがOFFになります。
  - 電源ポジションがACCのとき
  - 全ドアが閉まっているとき
  - セレクトレバーがPのとき

知識

- ブレーキペダルを踏みながらパワースイッチを押すと、ハイブリッドシステムが始動します。
  ➔ 始動のしかた (P.91)
- 電源ポジションがOFFのとき、いずれかのドアを開けるか、または閉めると電源ポジションがLOCKに切り替わります

ハイブリッドシステムの非常停止のしかた

緊急時など、走行中にハイブリッドシステムを強制的に停止させるときは、次のいずれかの操作を行ってください。

- パワースイッチをすばやく3回押す
- パワースイッチを2秒以上押し続ける

イモビライザー（盗難防止装置）

車両の盗難に対する防御性能を高めるために、インテリジェントキーに送信機を内蔵し、あらかじめ登録されているインテリジェントキー以外での始動を禁止するシステムです。

- イモビライザーが働いているときは、セキュリティーインジケーターが点滅します。
  ➔ 表示灯 (P.264)

セキュリティーインジケーター

警告

- 非常停止を行うときは、可能な限り減速してから行ってください。ハイブリッドシステムを停止するとブレーキの効きが悪くなり、ハンドルも重くなるため、車両のコントロールが難しくなります。

アドバイス

- 電源ポジションをONにしたときにセキュリティーインジケーターが点灯し続ける場合は、システムの異常が考えられます。日産販売会社で点検を受けてください。

知識

- インテリジェントキーに登録された信号は、インテリジェントキーごとに異なります。

セレクトレバーの操作

電源ポジションがONのとき、すべてのシフトポジションに切り替えることができます。

ボタン
P
R
N
D
マニュアルシフトゲート

セレクトレバー操作	
➡	ブレーキペダルを踏んだままボタンを押して操作します。
⇨	ボタンを押さずにそのまま操作します。
（斜線矢印）	ボタンを押して操作します。

⚠ 警告

- 次のような操作は、トランスミッションを破損し、思わぬ事故につながるおそれがありますので、絶対にしないでください。
  - 車が完全に停止する前にPに入れる
  - 車を前進させているときにRに入れる
  - 車を後退させているときにD、マニュアルシフトゲートに入れる

アドバイス

- ⇨の操作は、ボタンを押さないで操作する習慣をつけてください。ボタンを押して操作すると、意に反してP、Rに入れてしまうおそれがあります。
- Pから操作するとき、ボタンを押したままブレーキペダルを踏むと、セレクトレバーを動かせないことがあります。ボタンは、ブレーキペダルを踏んでから押してください。

📖 知識

● セレクトレバーを R に切り替えるとブザーが鳴ります。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

各シフトポジションの働き

シフトポジション	役割
P	**駐車およびハイブリッドシステムを始動するときの位置** 電源ポジションをOFFまたはLOCKに切り替えることができます。 （P以外では電源ポジションをLOCKにできません。）
R	**後退するときの位置** 車内でブザーが鳴り運転者に知らせます。 （車外の人に注意するものではありません）
N	**動力が伝わらない状態の位置** （Nでも停車中であればハイブリッドシステムを始動できますが、安全のためPで始動してください。）
D	**通常走行するときの位置** 速度に応じて1速〜7速に自動変速します。また走行状況によってアダプティブシフトコントロール（➔P.81）が働き、より適切に変速します。
マニュアルモード	**マニュアルモード走行するときの位置** 走行中に手動でシフトポジションを切り替えることができます。

アダプティブシフトコントロール

急な上り下りや、カーブが連続するような道路状況でも快適で安全な走りを実現できるよう自動的に適切なギヤチェンジを行います。

上り坂やカーブでの制御

変速回数の少ないなめらかな走行ができるように、坂の勾配やカーブに応じて低速ギヤを保持します。

下り坂での制御

フットブレーキを使う回数を低減させるように坂の勾配に応じて低速ギヤに切り替えます。

スポーティな走行での制御

アクセルペダルを踏み込んだときにもたつきのないスムーズな加速が得られるように、加減速を繰り返すような連続するカーブでは低速ギヤを保持します。

⚠ 注意

- トランスミッションが、走行開始直後で暖まっていないときや、低速で高負荷な走行を繰り返し過熱しているときは制御が作動しない場合があります。その場合は必要に応じてセレクトレバーをマニュアルシフトゲートに入れ、シフトダウンしてください。

マニュアルモードの使いかた

セレクトレバーまたはパドルシフト★を操作すると、マニュアルモードになります。
（ポジションインジケーターに、シフトポジション位置を表示します。）

知識

- 安全や走行性能を確保するために、セレクトレバーまたはパドルシフト★を操作しても希望するギヤに変速しなかったり、シフトポジションが自動的に切り替わる場合があります。
- セレクトレバーまたはパドルシフトを操作しても希望するギヤに変速しない場合は、ポジションインジケーターが点滅し、ブザーが鳴ります。
- 車両が停止すると、1速へ自動的にシフトダウンします。

■ シフトポジション位置の働き

シフトポジション	働き
1	1速に固定されます。より強いエンジンブレーキが必要なときに使います。
2	2速に固定されます。強いエンジンブレーキが必要なときに使います。
3	3速に固定されます。エンジンブレーキが必要なときに使います。
4	4速に固定されます。下り坂で軽いエンジンブレーキをかけたいときなどに使います。
5	5速に固定されます。上り坂でなめらかな走行をしたいときなどに使います。
6	6速に固定されます。
7	7速に固定されます。

■ 各シフトポジションの限界速度

シフトポジションを切り替えるときは、エンジンを回転させすぎないために、下表の速度を超えないようにしてください。

エンジン型式	シフトポジション					
	1	2	3	4	5	6
VQ35HR	65	100	160	180	180	180

⚠ 注意

- 限界速度を超えると、エンジンが破損するおそれがあります。

■ 切り替えかた

セレクトレバーで操作するとき

● セレクトレバーをマニュアルシフトゲートに入れ、前後に操作します。
- シフトポジションアップ:
  セレクトレバーを+（アップ）側に動かします。
- シフトポジションダウン:
  セレクトレバーを-（ダウン）側に動かします。

+(アップ)
-(ダウン)
マニュアル
シフトゲート

運転をするときは

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

パドルシフト★で操作するとき

- パドルシフトを手前に引いて操作します。
  - シフトポジションアップ
    右側のパドルシフトを引きます。
  - シフトポジションダウン
    左側のパドルシフトを引きます。

ダウンスイッチ
アップスイッチ

知識

- 次のときにパドルシフトで切り替えられます。
  - セレクトレバーが D で走行中（21km/h以上）のとき

■ 解除のしかた

- セレクトレバーをマニュアルシフトゲートからメインゲートに戻します。
- パドルシフト付車
  セレクトレバーが D でパドルシフトで切り替えているときは、パドルシフトを約2秒間手前に引きます。

知識

パドルシフト付車

- パドルシフトでマニュアルモードにしたあとに、セレクトレバーで解除したいときは、メインゲートからマニュアルシフトゲートに入れ、再度メインゲートに戻します。
- 次のとき、自動的にマニュアルモードが解除され、通常の D に戻ります。
  - セレクトレバーが D のとき、パドルシフトでマニュアルモードにして所定の距離を定速走行したとき

知識
– 車両が約12km/h以下になったとき

ナビ協調変速機能

ナビゲーションシステムの情報と前方の車両との車間距離をもとに、スムーズな走行ができるような変速を行います。

- ナビゲーションシステムの情報からカーブに近づいていることを検知すると、カーブをスムーズに通過できるように最適なギヤを自動で選択します。
- レーダーセンサーにより前方の車両を検知すると、スムーズな加減速ができるように最適なギヤを自動で選択します。

⚠ 注意

- ナビ協調変速機能は、車速を制限速度以下に保つものではありません。
- ナビ協調変速機能は、自動運転を行う機能ではありませんので、機能を過信しないでください。
- 次のような状況では、適切に作動しない場合があります。
  - ナビゲーションシステムが正確な自車位置を検出できていないとき
  - ナビゲーションシステムに登録されていない道路を走行しているとき
  - 道路状況などで、ナビゲーションシステムが実際のルートと異なるルートを認識しているとき
    詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。
- 次のような状況では、ナビ協調変速機能は作動しません。
  - 車速が約120ｋｍ/ｈ以上、または約60ｋｍ/ｈ以下のとき
  - 緩いカーブ（R200以上）を走行しているとき
  - セレクトレバーがD以外で走行しているとき

注意

– ナビ協調変速機能のシステムに異常があるとき

パーキングブレーキ

パーキングブレーキをかけると後輪が固定されます。

パーキングブレーキのかけかた

- パーキングブレーキをかけるときは、右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングブレーキペダルをいっぱいに踏み込みます。

ブレーキペダル
パーキングブレーキペダル

⚠ 警告

- パーキングブレーキをかけたまま走行しないでください。ブレーキが過熱しブレーキの効きが悪くなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- 駐車するときは、必ずパーキングブレーキをかけてください。
- パーキングブレーキをかけたあとにパーキングブレーキをかけ直したいときは、一度解除してから踏み込み直してください。

パーキングブレーキの解除

- 解除するときは、右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングブレーキペダルを“カチッ”と音がするまで踏み、ゆっくりと離します。

発進

インテリジェントキーが作動範囲内にあるときは、キーを取り出すことなく始動できます。
インテリジェントキーは、必ず運転者が携帯してください。

始動のしかた

1	アクセルペダルとブレーキペダルの位置を確認し、正しい運転姿勢（➔P.56）がとれるようにハンドル、シート位置を調節します。	ブレーキペダル / アクセルペダル
2	ブレーキペダルⒶをしっかりと踏みながら、パワースイッチⒷを1回押します。	Ⓑ Ⓐ
3	メーター内の走行可能表示灯が点灯し、ハイブリッドシステムが始動します。	

⚠ 警告

- ペダルの踏み間違いは思わぬ事故につながります。右足でアクセルペダルとブレーキペダルを交互に踏み、その位置を確実に覚えてください。

⚠ 注意

- 始動するときは、必ず運転席に座って行ってください。車外から行うと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

- ブレーキペダルを踏んだり離したりしたとき、“カチッ”と音が聞こえることがありますが異常ではありません。
- インテリジェントキーで作動範囲は、車両室内です。（トランク内は除きます。）

作動範囲（車内）

発進

発進のしかた

1	ブレーキペダルを右足でしっかりと踏んだまま、ボタンを押してセレクトレバーを動かします。 前進するときはD、またはマニュアルシフトゲートに入れます。 後退するときはRに入れます。	ボタン
2	シフトポジションが切り替わったことを目で確認します。	
3	パーキングブレーキペダルを踏み、パーキングブレーキを解除します。	
4	ブレーキペダルを徐々にゆるめ、アクセルペダルをゆっくり踏み発進します。	

警告

- 発進時は、絶対にアクセルペダルを踏んだままセレクトレバーを操作しないでください。急発進し、重大な事故につながるおそれがあります。

注意

- セレクトレバーがP、N以外にあると、クリープ現象で車が動き出すので、ブレーキペダルをしっかりと踏んでください。

知識

- 急な上り坂で発進するときは、➔ヒルスタートアシスト (P.111)が作動します。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

走行のしかた

- セレクトレバーをDまたはマニュアルシフトゲートにしたまま走行します。
- アクセルペダルとブレーキペダルの操作で、加速、減速を行います。
  アクセルペダルの踏みかげんと走行速度や走行状況などにより、適切なギヤに自動変速されます。
- 高速道路の入り口などで急加速したいときは、アクセルペダルをいっぱいに踏み込みます。
  キックダウンし急加速します。
- 下り坂では、エンジンブレーキを併用して走行します。セレクトレバーがDのときブレーキペダルを踏むと坂の勾配に応じてシフトダウンし、エンジンブレーキが効きやすい状態にします。
  また、坂の勾配に応じてマニュアルモードに入れます。強いエンジンブレーキが必要な場合は、マニュアルモードの2速または1速にします。
- 勾配のゆるい下り坂では、マニュアルモードの4速または3速にすると、軽いエンジンブレーキが得られます。

⚠ 警告

- セレクトレバーがDのときは、低速ギヤを保持してエンジンブレーキが効きやすい状態に制御しますが、スピードが出すぎるときは坂の勾配に応じてマニュアルモードに入れてください。フットブレーキだけで使い続けると、フットブレーキに負担がかかり、過熱してブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。
- 走行開始直後でトランスミッションの油温が暖まっていないときや、アクセルペダルを深く踏み込んだ高負荷な状態で長く走り続けると低速ギヤを保持しない場合があります。その場合には、坂の勾配に応じてマニュアルモードを低速ギヤに入れてください。
- 滑りやすい路面では、急激なエンジンブレーキは効かせないでください。タイヤがスリップするおそれがあり危険です。
- リチウムイオンバッテリーの充電状態によっては、減速度合いが小さくなる場合があります。

⚠ 注意

- 走行中はセレクトレバーを N にしないでください。エンジンブレーキが全く効かなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、トランスミッションが故障する原因となります。
- 上り坂ではクリープ現象を利用した停車や、アクセルペダルを踏みながら停車状態を保つような停車はしないでください。
- 上り坂でセレクトレバーを D またはマニュアルシフトゲートのまま故意に車両を後退させたり、下り坂で R のまま故意に車両を前進させたりしないでください。事故につながるおそれがあります。
- 冠水路など深い水たまりは無理に走行しないでください。エンジン破損や車両故障につながるおそれがあります。

知識

- 極端に低車速で走行すると、車速がわずかに変化する場合がありますが、システム特有の動きで異常ではありません。

停車・駐車のしかた

1	停車するときは、セレクトレバーはDのままで、ブレーキペダルをしっかりと踏みます。	
2	そのまま駐車するときは、ブレーキペダルを踏んだままパーキングブレーキをかけます。	
3	セレクトレバーをPに入れ、目で確認します。 セレクトレバーをPに入れると駆動輪が固定されるため、車が動き出す心配がなく安全です。	
4	パワースイッチを1回押します。 電源ポジションがOFFになり、ハイブリッドシステムが停止します。	

⚠ 警告

- 停車中の空ぶかしはしないでください。万一、セレクトレバーがP、N以外にあると急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあります。停車後の再発進は、セレクトレバーの位置を目で確認してください。

⚠ 注意

- 枯れ草、紙、木材、油など燃えやすい物の上や近くには駐・停車しないでください。排気管や排気ガスは高温になるため着火するおそれがあり危険です。
- 車から離れるときは、必ずセレクトレバーをPに入れ、ハイブリッドシステムを停止してください。ハイブリッドシステムが作動したままで、セレクトレバーがP、N以外に入っていると、クリープ現象で車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込むと急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 長期間車両を駐車していると、小動物が巣を作り、思わぬ火災につながる可能性があります。

アドバイス

- 上り坂で停車するときは、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 炎天下で駐車するときは、車室内にライターや炭酸飲料の缶、サングラス、カメラなどを置いたままにしないでください。車室内が高温になり、爆発したり変形するおそれがあります。

ドライブモードセレクター

ドライブモードセレクターは5種類のドライブモード（PERSONAL、SPORT、STANDARD、ECO、SNOW）を備え、モードを選択することにより、エンジンやモーター、トランスミッションなどを各モードに適した特性で制御するシステムです。

ドライブモードの働き

ドライブモード	特徴	推奨する使用環境
PERSONAL	お好みの運転特性を設定したドライブモード	次の機能をお好みの設定で走行したいとき ● エンジン･トランスミッション ● ハンドルの重さと応答速度 ● アクティブレーンコントロール ● コーナリングスタビリティアシスト機能のON／OFF ※1
SPORT ※2	レスポンスが良い特性のドライブモード	登坂時やワインディングなどで、スポーティな走行をしたいとき
STANDARD ※3	幅広い走行状況に適したドライブモード	通常走行 ※4
ECO	おだやかな特性のドライブモード	燃費を考慮したおだやかな走行をしたいとき ※5、6
SNOW	滑りやすい路面環境に適したドライブモード	雪道やぬかるみなどの滑りやすい路面を走行するとき

※1　PERSONALでの運転特性の設定はナビゲーションシステムで行います。
　　詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。
※2　SPORTを選択したままだと、燃費が悪化することがあります。
※3　ハイブリッドシステム始動時は、毎回STANDARDが選択されます。
※4　通常時はSTANDARDで走行することをおすすめします。
※5　運転のしかたによっては必ずしも燃費が向上するわけではありません。
※6　燃費向上に適したドライブモードのため、加速力が低下することがあります。

モードの切り替えかた

- ハイブリッドシステム作動中にスイッチを上側または下側に押すと、ナビゲーション画面にモードリストが表示されます。
- モードを切り替えると、メーター内のディスプレイに切り替わったモードが表示されます。
- 走行状態によってはモードがすぐに切り替わらないことがあります。
- ドライブモードがECOで走行しているときは、メーター内のECOペダルインジケーターが走行状態によって点灯します。

PERSONAL
SPORT
STANDARD
ECO
SNOW

ECOペダルインジケーター

- メーター内にあります。
- ドライブモードセレクターでドライブモードをECOにしたときに、点灯･点滅します。
- アクセルペダルの操作に応じて表示灯の点灯･点滅を変えることでエコドライブをサポートします。

表示灯	説明
緑色点灯	エコ運転領域内のときに緑色点灯します。
緑色点滅	エコ運転領域を超えそうなとき、緑色点滅します。
消灯	エコ運転領域を超えたときは、緑色点滅から消灯に変わります。

知識

- 次の場合は、ECOペダルインジケーターが作動しません。
  - セレクトレバーがRのとき
  - 低車速または高車速のとき
  - インテリジェントクルーズコントロール★またはクルーズコントロール★が作動しているとき

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

ECOアクセルガイド

ドライブモードセレクターがECOのとき、メーター内のディスプレイを「燃費情報」に切り替えると表示します。

① 平均燃費
　リセットしてから次にリセットするまでの平均燃費を表示します。

② アクセルガイド
　走行中に、車速に応じたアクセルペダルの踏み加減を表示します。エコ運転領域内になるように調整することで、エコドライブにつながります。

燃費情報
平均　15.8 km/L
①
②

知識

- ナビゲーションシステムで、アクセルガイド表示と瞬間燃費表示を切り替えることができます。
  詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。

VDC（ビークルダイナミクスコントロール）

VDCは横滑りや尻振りを起こしそうになると横滑り状態をセンサーで判別し、走行時の車両安定性を向上させるシステムです。

VDCについて

- VDCの作動と表示灯
  - VDCが実際に作動しているとき、メーター内の警告灯 が点滅します。
  - VDCシステム内のトラクションコントロール機能のみが作動しているときも 警告灯 が点滅します。
  - 警告灯 が点滅したときは、車両が滑りやすい状態になっていますので特に慎重に運転してください。
- VDCには「ブレーキLSD」機能があります。これは滑りやすい路面などで駆動輪が空転した場合、空転している駆動輪にブレーキをかけることにより、もう一輪の駆動力を確保するLSD（リミテッドスリップデフ）機能です。
- VDC作動時は、ブレーキの作動により音や振動を発生する場合がありますが異常ではありません。

⚠ 注意

- この装置は車両の走行安定性を向上させるもので事故を防止するものではありません。VDCの作動にも限界があるため、滑りやすい路面やカーブの手前では特にスピードを落とし安全運転に心がけてください。
- 次のときはVDC警告灯が点灯し、VDCが正常に作動しないことがあります。
  - サスペンション、タイヤ、ブレーキなどを純正品以外に交換したり、改造したとき
  - サスペンション、タイヤ、ブレーキなどが著しく摩耗および劣化した状態で走行したとき
- 次のような状況では、VDC警告灯が点灯することがあります。この場合は一度電源ポジションをOFFにし、再度ハイブリッドシステムを始動すると消灯します。
  - 駐車場の入り口などにあるターンテーブルや動く物の上に車があるとき
  - 極端に傾いた特殊な路面（サーキット路に見られるバンクなど）を走行したとき
- VDC付車でも雪道などでは冬用タイ

⚠ 注意

ヤやタイヤチェーンを装着してください。

ブレーキ効き感向上機能

走行状態に応じて、運転者のブレーキ踏力に対する制動力を補正することによって、運転者の意思を反映するように『効きが良い』と感じられるブレーキ効き感を得ることができます。

左右制動力分配機能

ブレーキ操作時、カーブの大きさに応じて各車輪の制動力分配を制御することで、しっかりしたブレーキをかけることができます。

VDC OFFスイッチの使いかた

VDCの作動をやめたいときに使います。

- VDC OFFスイッチを押すと、VDCの働きを停止します。
（メーター内の表示灯 が点灯）
- もう一度スイッチを押すか、ハイブリッドシステムを再始動するとVDCは作動を回復し、メーター内の表示灯が消灯します。

OFF

アドバイス

- ぬかるみや雪道から脱出するときなどは、スリップ状態を感知し、アクセルペダルを踏み込んでも出力が上がらないことがあります。回転数を上げたいときはVDC OFFスイッチを押してシステムをOFFにしてください。
- VDC OFFスイッチを押すと、ABS機能およびブレーキLSD機能を除くVDCのすべての機能が停止します。

知識

- VDCが作動すると発進時や加速時に車体およびペダルにわずかな振動と作動音が発生しますが異常ではありません。
- 電源ポジションをONにしたときや、始動後最初の発進時に、エンジンルームから音が聞こえることがあり

知識

ますが、システムの作動をチェックしている音で異常ではありません。

コーナリングスタビリティアシスト機能

山道や高速道路のカーブで、運転者のハンドル操作やブレーキ操作に応じて、4輪それぞれのブレーキ制御を調整することによって、車両の動きをより滑らかにすると同時に、応答性を高めるなどして、安定感のあるコーナリングを実現します。

コーナリングスタビリティアシスト機能について

- ドライブモードセレクターでドライブモードをSPORTに設定すると、STANDARDに対し、各輪のブレーキ制御特性を変更することにより、運転者が挙動をコントロールする領域が広がります。また、PERSONALでは、コーナリングスタビリティアシスト機能のON／OFFが設定できます。
➔ ドライブモードセレクター (P.98)
- メーター内のディスプレイをシャシー制御に切り替えると、コーナリングスタビリティアシスト機能の作動を画面で確認することができます。
➔ アドバンスドドライブアシストディスプレイの見かた (P.267)

⚠ 注意

- コーナリングスタビリティアシスト機能は、全ての走行状況において効果があるわけではないため、機能を過信せず安全運転に心がけてください。

知識

- VDCがOFFのときは、コーナリングスタビリティアシスト機能は作動しません。
➔ VDC（ビークルダイナミクスコントロール）(P.101)

4WD（4輪駆動）車の扱いかた★

4WD車について

4WD車は、滑りやすい路面などで優れた走行性能を発揮しますが、万能ではありません。

走行するとき

- オフロード（不整地）走行やラリー走行用ではありません。走行するときは以下のことを必ずお守りください。
  - 渡河などの水中走行はしない
  - 砂地、ぬかるみなど、後輪が空転しやすいところでの連続走行はしない
  - 脱輪などにより車輪が宙に浮いているときは、むやみに空転させせない
- 運転操作は一般車と同様です。ハンドル、アクセルおよびブレーキペダルなどの操作は慎重に行い、安全運転に心がけてください。

タイトコーナーブレーキング現象

乾燥した舗装路を4WD状態で走行中、ハンドルをいっぱいに切って旋回するとブレーキをかけたような状態になることがあります。この現象をタイトコーナーブレーキング現象といいます。
この現象は旋回するとき前後輪に回転差が生じるために起きる4WD車特有の現象で異常ではありません。この現象が発生したときはハンドルの操作力が重くなります。

アドバイス

- タイトコーナーブレーキング現象が起きるとタイヤのスリップ音や駆動系のきしみ音などが発生することがあります。

知識

- 4WD車は、2WD車に対し、制動距離が短くなるわけではありません。
- 砂地などのオフロード走行や脱輪時の無理な操作などにより、前後輪間の回転数差が大きい（車輪が空転する）状態が続くと駆動系部品の油温が上昇します。
  この場合、駆動系部品の保護のため、2WDまたは弱4WDになりますが、通常の走行は可能です。ただしスピードは控えめにしてください。
  メーター内のディスプレイに「4WDシステム高油温　車両を安全なところに止めてください」という警告が表示されたときは、アイドリング状態でしばらく停車し、表示が消えると2WD状態から復帰し、通常通り走行できます。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

タイヤについて

- タイヤの交換は4輪とも同時に行い必ず指定サイズで同一の銘柄、パターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
- 摩耗差が大きいものやサイズが異なるタイヤを装着すると車の機構を破損するおそれがあります。
  冬用タイヤも必ず4輪同じものを装着してください。
  タイヤ交換は日産販売会社にご相談ください。

アテーサE-TS★

アテーサE-TSシステムは前輪と後輪の駆動力を最適な配分に制御し、FR車の優れた旋回性能と4WD車の安定性を両立させた4WDシステムです。電子制御の働きにより走行状態や路面状況に応じて前後輪の駆動力配分を0:100（後輪駆動状態）～50:50（4輪駆動状態）まで連続制御し、エンジンおよびモーターの出力（駆動力）をタイヤを通して路面に有効に伝えます。

アテーサE-TSについて

- アテーサE-TSシステムに異常があるとメーター内のディスプレイに「4WDシステム異常　取扱説明書を見てください」という警告を表示します。
- 走行中、前後輪の回転数の差が大きい状態が続き、駆動系部品の油温が異常に高くなると、メーター内のディスプレイに「4WDシステム高油温　車両を安全なところに止めてください」という警告を表示します。
- 前後輪のタイヤ径差が大きすぎると、メーター内のディスプレイに「タイヤサイズ異常　取扱説明書を見てください」という警告を表示します。
  ➔ ドライブインジケーター (P.278)

⚠ 注意

- 「4WDシステム異常　取扱説明書を見てください」という警告が表示されたときは、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。
- 「タイヤサイズ異常　取扱説明書を見てください」という警告が表示されたときは、装着タイヤの種類およびタイヤ空気圧などを点検してください。タイヤが異なるときは同一のタイヤを装着してください。また、タイヤ空気圧が不足のときは空気を入れてください。それでも表示が消えないときは日産販売会社で点検を受けてください。

アドバイス

- 「4WDシステム異常　取扱説明書を見てください」または「4WDシステム高油温 車両を安全なところに止めてください」という警告が表示されたときは、2WDまたは弱4WDになりますが、通常の走行は可能です。ただしスピードは控えめにしてください。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

回生協調ブレーキ

回生協調ブレーキについて

セレクトレバーがDまたはマニュアルシフトゲートで走行中にブレーキペダルを踏んでも回生ブレーキによる制動力が十分に得られないときは、摩擦ブレーキを制御することにより制動力を発生させます。

回生ブレーキについては、➔ 回生ブレーキについて (P.14)をお読みください。

知識

- 次の場合は回生協調ブレーキが作動しません。
  - ハイブリッドシステム、ブレーキシステム、ダイレクトアダプティブステアリングシステムのいずれかに異常があるとき
  - ABSまたはVDCが作動しているとき

ヒルスタートアシスト

ヒルスタートアシストは、坂道での発進を補助します。

ヒルスタートアシストについて

- 急な上り坂での発進時に、ブレーキペダルからアクセルペダルへの踏み替えの間に発生する車両の後退を一定時間保持し、発進を容易にするシステムです。
- セレクトレバーがP、N以外のとき、ブレーキペダルから足を離すと、約2秒間ブレーキ力を保持します。

⚠ 注意

- この装置は上り坂での発進を補助するものですが、機能を過信しないでください。凍結した坂や泥状の上り坂での発進は特に安全運転に心がけてください。
- この装置はブレーキペダルから足を離すと約2秒間ブレーキ力を保持しますが、その後ブレーキ力が解除されます。停車するときはブレーキペダルを踏み続けてください。駐車するときは確実にセレクトレバーをPに入れ、パーキングブレーキをかけてください。

アドバイス

- セレクトレバーを動かした直後は、ブレーキを踏んだ状態で約1秒待ってから発進してください。
  セレクトレバーをPからDまたはNからDに動かした直後は、ヒルスタートアシストが作動しないことがあります。

ヒルスタートアシスト

知識

- ヒルスタートアシストが作動しないときは、ブレーキシステム警告灯（黄色）、VDC警告灯のいずれかが点灯します。
- ヒルスタートアシストが作動しているとき、ブレーキペダルの踏みごたえが変化したり、音や振動が発生することがありますが、異常ではありません。

車両接近通報装置

車両接近通報装置は、低速走行中に車両が接近していることを音で歩行者に知らせます。

車両接近通報装置について

車両接近通報装置は、ハイブリッドシステムが始動中、次の場合に作動します。

- 発進時、車速が30km/h以内のとき
- 減速時、車速が25km/h以下になったとき
- セレクトレバーがRのとき

車両接近通報装置一時停止スイッチ

車両接近通報装置は、音を消すことができます。

- スイッチを押すと、一時的に音が出なくなります。
  （メーター内の表示灯が点灯）
- もう一度スイッチを押すか、ハイブリッドシステムを再始動すると、再び音が出るようになります。
  （メーター内の表示灯が消灯）

⚠ 注意

- 車両接近通報音は高速道路での渋滞など、周囲に音を出して注意を知らせる必要が明らかにない場合を除き、一時停止状態にしないでください。
- 車両接近通報装置を一時停止状態にして走行すると、車両の接近に歩行者が気付かず、事故の原因になるおそれがあります。
- 車両接近通報音が聞こえないときは、安全で静かな場所に停車し、音が聞こえるか点検してください。ブレーキペダルを確実に踏みながら、セレクトレバーをRにし、窓を開けて音が聞こえるか確認してください。車両前方から音が聞こえないときは、日産販売会社へご連絡ください。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

ダイレクトアダプティブステアリング

ダイレクトアダプティブステアリングは、車両の速度とハンドルの操舵量に応じて、ハンドルの操舵力と角度を制御するシステムです。

ダイレクトアダプティブステアリングについて

ドライブモードセレクターで、お好みの特性を選択することができます。

➔ ドライブモードセレクター (P.98)

アドバイス

- ハイブリッドシステム始動中、パワーステアリング警告灯が点灯したときは、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。このとき、ダイレクトアダプティブステアリングは作動しませんが、マニュアルステアリングの性能は確保されています。この場合は、ハンドルの操作力が重くなります。
- 停車中または極低速走行中にハンドル操作を繰り返したり、ハンドルに力をかけた状態を長く続けると、ダイレクトアダプティブステアリングシステムの過熱を防ぐためにシステムの働きを制限します。そのためハンドル操作力が重くなりますが、異常ではありません。しばらくハンドル操作を控えると、ダイレクトアダプティブステアリングシステムの温度が下がり、通常のハンドル操作力に戻ります。
  ダイレクトアダプティブステアリングシステムが過熱するようなハンドル操作を繰り返すと、ダイレクトアダプティブステアリングシステムが故障する原因となります。
- 指定のサイズではないタイヤまたはホイールを装着すると、ダイレクトアダプティブステアリングが正しく作動せず、パワーステアリング警告灯が点灯することがあります。
- 次の部品を純正品以外に交換したり改造すると、ダイレクトアダプティブステアリングが正しく作動せず、パワーステアリング警告灯が点灯することがあります。
  - ステアリング関連部品（ステアリングホイールなど）
  - サスペンション関連部品（ショックアブソーバー、ストラット、スプリング、ブッシュ類など）
  - タイヤ、ホイール（指定サイズ以外）
- パワーステアリング警告灯とVDC警告灯が同時に点灯したときは、すみやかに安全な場所に停車し、ハイブリッドシステムを一旦停止してから再始動してください。再始

アドバイス

動してもパワーステアリング警告灯が点灯し続けるときは、すみやかに日産販売会社へご連絡ください。

- ステアリングホイールまたはタイヤを取り外しているときは、電源ポジションをONにしないでください。
- 電源ポジションがON以外のときは、ハンドルをいっぱいまで切らないでください。
- ステアリングホイールにアクセサリーを取り付けたり、ステアリングホイールを交換したりしないでください。

知識

- 2輪のシャシダイナモ測定などを行うと、パワーステアリング警告灯が点灯することがあります。この場合は、ハイブリッドシステムを一旦停止し、再始動してからしばらく走行すると消灯します。
- 電源ポジションがONのときに比べると、OFFおよびACCのときのほうがハンドルの遊びが大きくなりますが、異常ではありません。
- ハイブリッドシステム始動直後、ハンドルがセンターからわずかにずれていることがありますが、異常ではありません。この場合、しばらく直進するとハンドルの位置は元に戻ります。
- 電源ポジションがOFFまたはACCのとき、ハンドルをいっぱいまで切ると、電源ポジションをONにしたときハンドルが少し戻されますが、異常ではありません。
- 次の場合、直進中でもハンドルがまっすぐにならないことがありますが、システムの保護機構によるもので異常ではありません。
  – 12Vバッテリーがあがったとき
  – ハイブリッドシステムが停止したとき
  – シャシダイナモの上で走行しているとき

知識

– ハンドルをいっぱいまで切った状態から、さらに切り増そうとしたとき
– 前輪が障害物に当たっているとき
保護機構による制御が終了するか、ハイブリッドシステムを一旦停止し再始動してからしばらく走行すると、ハンドルの位置は元に戻ります。

- 次のような場合、ハンドル付近から音が聞こえますが異常ではありません。
  – ハイブリッドシステムを始動または停止したとき
  – ハンドルをいっぱいまで切ったとき

アクティブレーンコントロール

アクティブレーンコントロールは、カメラによって車線に対する車両の進路のずれを検出し、高速道路などを走行するとき、より少ない修正操作で安定して走行するための機能です。

アクティブレーンコントロールについて

アクティブレーンコントロールは、車線認識カメラによって車線に対する車両の進路のずれを検出します。このずれを低減するために、前輪の角度とハンドルのトルクをわずかに補正することで、高速道路などを走行するとき、より少ない修正操作で安定して走行するための機能です。

⚠ 注意

- アクティブレーンコントロールは車線からの逸脱を自動的に回避したり、車線内での走行を自動的に維持するシステムではありません。
- アクティブレーンコントロールには限界がありますので、機能を過信しないでください。
  脇見運転やぼんやり運転などの前方不注意および雨、霧などの視界不良を補助するものではありません。周囲の状況に応じてハンドル操作を行い、常に安全運転に心がけてください。
- アクティブレーンコントロールを使用するときは、急なハンドル操作を避けてください。思わぬ事故につながるおそれがあります。また、アクティブレーンコントロールを使用しないときはシステムをOFFにしてください。
- 次のような状況では、思わぬ事故につながるおそれがありますので、システムを使用しないでください。
  – 悪天候（雨、霧、雪、風など）のとき
  – 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき

⚠ 注意

- 急なカーブ、急な上り坂･下り坂が繰り返されるとき
- 工事中の道路や車線規制がある道路を走行するとき
- 車線の幅が狭い道路を走行するとき
- 摩耗しているタイヤ、空気圧不足のタイヤ、タイヤチェーンを装着しているときや、純正品以外のタイヤを使用しているとき
- 純正品以外のステアリング部品やサスペンション部品を使用しているとき

● 次のような状況では、レーンマーカー（車線の右側および左側に引かれた線）を正確に検出できず、適切な作動ができない場合があります。

- 検出しにくいレーンマーカー（不明瞭なレーンマーカー、黄色のレーンマーカー、一般的でないレーンマーカー、水たまり･汚れ･雪などで隠れているレーンマーカー）がある道路を走行するとき
- 急なカーブのある道路を走行するとき
- 消されたレーンマーカーがまだ見えている道路を走行するとき

⚠ 注意

- 道路上に影、雪、水たまり、わだち、道路のつなぎ目、線状の補修痕などがあるとき（これらのものをレーンマーカーとして検出して警報したり、制御する場合があります）
- 車線の分岐･合流のある道路を走行したとき
- 自車がレーンマーカーに対してまっすぐに走行していないとき
- 先行車との車間距離が短く、車線認識カメラの検出範囲が遮られるとき
- 雨、雪、汚れなどがフロントガラスに付着しているとき
- 汚れなどでヘッドランプの明るさが不十分なときやヘッドランプの光軸調整が適切に行われていないとき
- 前方から強い光（太陽光など）を受けているとき
- 急な明るさの変化が起こったとき（トンネルの出入り口など）
- 料金所へ進入する、または料金所を通過するとき
- 車線幅が狭くなる、または広くなる道路を走行するとき

アクティブレーンコントロールの使いかた

① ナビゲーションシステムの ドライブモードセレクター をONにします。
アクティブレーンコントロール をタッチするごとにONとOFFが切り替わります。
詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。

② アクティブレーンコントロール がONのとき、車速が約70km/h以上になると作動します。
このとき、メーター内のディスプレイをシャシー制御画面に切り替えると、システムの作動状態を表示することができます。
➔ ドライブコンピューター (P.272)

ON／OFFの切り替え

- ナビゲーションシステムで次の操作をすると、システムのON／OFFが切り替わります。
MENU ⇒ ドライブモードセレクター ⇒ アクティブレーンコントロール
- ステアリングスイッチでショートカットメニューを呼び出してON／OFFを切り替えることもできます。
詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「ご使用前の確認と設定」の章をお読みください。

知識

- ハイブリッドシステムを停止するとアクティブレーンコントロールは自動的にOFFになります。
- 次の場合、アクティブレーンコントロールの作動が一時中断します。
  - ABSまたはVDC（トラクションコントロールは含まない）が作動しているとき
  - 方向指示器を使用しているとき（方向指示器を停止した後も約2秒間は作動しません）
  - 車速が約70km/hを下回っているとき
  - 炎天下に駐車したときなど、車線認識カメラが高温になったとき

  作動停止となった原因が全て改善され作動条件が満たされると、アクティブレーンコントロールの作動が再開します。

運転をするときは

警告表示

- アクティブレーンコントロールに異常があると、システムが自動的にOFFになり、メーター内のディスプレイに「シャシー制御システム故障 取扱説明書を見てください」と警告メッセージが表示されます。
  警告メッセージが表示されたときは、安全な場所に停車し、ハイブリッドシステムを一旦停止してから再始動させ、再びアクティブレーンコントロールをONにしてください。

アドバイス

- アクティブレーンコントロールがONにできない、又は警告メッセージが表示し続けるときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

車線認識カメラの取り扱い

システムを正しく作動させるために、次のことをお守りください。

- ルームミラー上方に装着されている車線認識カメラ周辺部のフロントガラスはいつもきれいにしておいてください。
- 車線認識カメラ周辺にステッカー（透明なものを含む）を貼ったり、アクセサリーなどを取り付けないでください。
- インストルメントパネル上に鏡などの光を反射しやすいものや白い紙などを置かないでください。太陽光が反射し、カメラの検知性能に影響がでるおそれがあります。
- 車線認識カメラ周辺に強い衝撃を与えないでください。また、レンズに触れたり、車線認識カメラを固定しているネジを取り外さないでください。故障、誤作動の原因になります。
  事故などで車線認識カメラ周辺部が変形した場合は、日産販売会社にご相談ください。

車線認識カメラ

LDP（車線逸脱防止支援システム）★

LDP（車線逸脱防止支援システム）は、車速が約70km/h以上で走行車線の右側もしくは左側のレーンマーカーに近づいたときに、警報とともにダイレクトアダプティブステアリング(➔P.114)の機能を用いて車両を車線内に戻す方向に制御力を短時間発生させることで、運転者が自車を車線内に戻す操作を促すシステムです。

LDP（車線逸脱防止支援システム）について

⚠ 注意

- LDP（車線逸脱防止支援システム）は車線からの逸脱を自動的に回避したり、車線内での走行を自動的に維持するシステムではありません。
- LDP（車線逸脱防止支援システム）には限界がありますので、機能を過信しないでください。
  脇見運転やぼんやり運転などの前方不注意および雨、霧などの視界不良を補助するものではありません。周囲の状況に応じてハンドル操作を行い、常に安全運転に心がけてください。
- LDP（車線逸脱防止支援システム）を使用するときは、急なハンドル操作を避けてください。思わぬ事故につながるおそれがあります。またLDP（車線逸脱防止支援システム）を使用しないときはシステムをOFFにしてください。
- 次のような状況では、思わぬ事故につながるおそれがありますので、システムを使用しないでください。
  - 悪天候（雨、霧、雪、風など）のとき
  - 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
  - 急なカーブ、急な上り坂･下り坂が繰り返されるとき
  - 工事中の道路や車線規制がある道路を走行するとき
  - 車線の幅が狭い道路を走行するとき
  - 摩耗しているタイヤ、空気圧不足のタイヤ、スペアタイヤ、タイヤチェーンを装着しているときや、純正品以外のタイヤを使用しているとき
  - 純正品以外のステアリング部品やサスペンション部品を使用しているとき
- 次のような状況では、レーンマーカーを正確に検出できず、適切な作動ができない場合があります。

⚠ 注意

– 検出しにくいレーンマーカー（不明瞭なレーンマーカー、黄色のレーンマーカー、一般的でないレーンマーカー、水たまり･汚れ･雪などで隠れているレーンマーカー）がある道路を走行するとき
– 急なカーブのある道路を走行するとき
– 消されたレーンマーカーがまだ見えている道路を走行するとき
– 道路上に影、雪、水たまり、わだち、道路のつなぎ目、線状の補修痕などがあるとき（これらのものをレーンマーカーとして検出して警報したり、制御する場合があります）
– 車線の分岐･合流のある道路を走行したとき
– 自車がレーンマーカーに対してまっすぐに走行していないとき
– 先行車との車間距離が短く、車線認識カメラの検出範囲が遮られるとき
– 雨、雪、汚れなどがフロントガラスに付着しているとき
– 汚れなどでヘッドランプの明るさが不十分なときやヘッドランプの光軸調整が適切に行われていないとき
– 前方から強い光（太陽光など）を受けているとき
– 急な明るさの変化が起こったとき（トンネルの出入り口など）

● 状況によっては外部の騒音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

LDP（車線逸脱防止支援システム）★

ステアリングスイッチ

● システムのON／OFFができます。

LDP（車線逸脱防止支援システム）の使いかた

① ナビゲーションシステムの運転支援のメニューで LDP（車線逸脱防止支援システム） をONにしているとき、スイッチを押すとシステムがONになります。
（メーター内ディスプレイのレーンインジケーター（緑色）が点灯します。）
詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。
② 車速が70km/h以上になると、作動を開始します。

ON／OFFの切り替え

ナビゲーションシステムで次の操作をすると、システムのON／OFFが切り替わります。

MENU ⇒ 運転支援 ⇒ 側方支援 ⇒ LDP（車線逸脱防止支援システム）

知識

- ステアリングにあるスイッチを押すと、LDP（車線逸脱防止支援システム）、BSI（後側方衝突防止支援システム）、インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）のON／OFFを同時に切り替えることができます。
- ナビゲーションシステムのON／OFF設定は、ハイブリッドシステムを停止しても再度設定を変更するまで、その状態が維持されます。
- ハイブリッドシステムを停止するとLDP（車線逸脱防止支援システム）は自動的にOFFになります。
- ナビゲーションシステムのON／OFF設定は、ハイブリッドシステムを停止しても再度設定を変更するまで、その状態が維持されます。
  また、ON／OFFの設定は、ログイン機能によりユーザーごとに設定が保存されます。
  詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。
  ➔ ログイン機能 (P.301)

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

知識

- 詳しい操作方法は、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。

システムの作動

走行車線の右側もしくは左側のレーンマーカーに近づくと、ブザー音、表示とともにステアリング制御を行い、車両を車線内に戻す方向に制御力を短時間発生させ、自車を車線内に戻す操作を促します。
（ブザーが“ポポポポ、ポポポポ…”と鳴り、メーター内ディスプレイのレーンインジケーターがオレンジ色に点滅します。）

知識

- 以下の場合は、警報もステアリング制御も行いません。
  - 方向指示器を使用しているとき（方向指示器を解除した後、約2秒間は作動しません）
  - 車速が約70km/hを下回っているとき
- 以下の場合は、ステアリング制御を行いません。
  - ブレーキペダルを踏んでいるとき
  - 車線変更に相当する程度に、ハンドル操作をしたとき
  - インテリジェントクルーズコントロール接近警報が鳴っているとき
  - PFCW（前方衝突予測警報）が作動しているとき
  - エマージェンシーブレーキが作動しているとき
  - 非常点滅表示灯を作動させているとき
  - カーブ路でスピードを出して走行しているとき
- ステアリング制御しているとき、運転者がアクセルペダルを踏み増すとステアリング制御を中止します。

警告表示

- 次の場合は、“ポー”というブザー音とともにメーター内のディスプレイに「作動範囲外のため現在使用できません」と警告が表示され、システムが自動的に停止します。
  - ドライブモードをSNOWにしたとき
  - ABS又はVDC（トラクションコントロールは含まない）が作動したとき
  - VDCをOFFにしたとき

  LDP（車線逸脱防止支援システム）を再び作動させる場合は、停止したときの状態が改善されてから、ステアリングスイッチで再びシステムをONにしてください。
  LDW（車線逸脱警報）が同時にONになっているときは、メーター内のディスプレイのレーンインジケーターが緑色から白に変わります。この場合、LDW（車線逸脱警報）の作動は停止しません。
- 次の場合は、メーター内のディスプレイに「車線認識カメラ·その周辺が高温のため使用できません」と警告が表示され、自動的に作動が停止します。
  - 炎天下に駐車したときなど、車線認識カメラが高温になった場合

  LDP（車線逸脱防止支援システム）を再び作動させる場合は、停止したときの状態が改善されてから、ステアリングスイッチで再びシステムをONにしてください。
- 次の場合は、“ポー”というブザー音とともにメーター内のディスプレイに「システム故障 取扱説明書を見てください」と警告が表示され、レーンインジケーターがオレンジ色に点灯し、システムが自動的に停止します。
  - LDP（車線逸脱防止支援システム）に異常があるとき

  LDP（車線逸脱防止支援システム）を再び作動させる場合は、安全な場所に停車して、ハイブリッドシステムを一旦停止して再始動し、再びシステムをONにしてください。

アドバイス

- システムをONにできない、または警告が表示し続けるときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

LDP（車線逸脱防止支援システム）★

車線認識カメラの取り扱い

➔ 車線認識カメラの取り扱い (P.121)をお読みください。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

LDW（車線逸脱警報）★

LDW（車線逸脱警報）は、車速が約70km/h以上で走行車線の右側もしくは左側のレーンマーカーに近づいたときに、警報によって運転者に注意を促します。
※レーンマーカーとは、車線の右側もしくは左側に引かれた線のことを示します。

LDW（車線逸脱警報）について

⚠ 注意

- LDW（車線逸脱警報）には限界がありますので、機能を過信しないでください。脇見運転やぼんやり運転などの前方不注意および雨、霧などの視界不良を補助するものではありません。周囲の状況に応じてハンドル操作を行い、常に安全運転に心がけてください。
- 次のような状況では、レーンマーカーを正確に検出できず、適切な作動ができない場合があります。
  - 検出しにくいレーンマーカー（不明瞭なレーンマーカー、黄色のレーンマーカー、一般的でないレーンマーカー、水たまり･汚れ･雪などで隠れているレーンマーカー）がある道路を走行するとき
  - 急なカーブのある道路を走行するとき
  - 消されたレーンマーカーがまだ見えている道路を走行するとき
  - 道路上に影、雪、水たまり、わだち、道路のつなぎ目、線状の補修痕などがあるとき（これらのものをレーンマーカーとして検出して警報する場合があります）
  - 車線の分岐･合流のある道路を走行したとき
  - 自車がレーンマーカーに対してまっすぐに走行していないとき
  - 先行車との車間距離が短く、車線認識カメラの検出範囲が遮られるとき
  - 雨、雪、汚れなどがフロントガラスに付着しているとき
  - 汚れなどでヘッドランプの明るさが不十分なときやヘッドランプの光軸調整が適切に行われていないとき
  - 前方から強い光（太陽光など）を受けているとき
  - 急な明るさの変化が起こったとき（トンネルの出入り口など）
- 状況によっては外部の騒音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

LDW（車線逸脱警報）の使いかた

ナビゲーションシステムで次の操作をすると、システムのON／OFFが切り替わります。

MENU ⇒ 運転支援 ⇒ 側方支援 ⇒ LDW（車線逸脱警報）

知識

- 詳しい操作方法は、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。

システムの作動

走行車線の右側もしくは左側のレーンマーカーに近づいたときに、警報によって運転者に注意を促します。
（ブザーが“ポポポポ、ポポポポ…”と鳴り、メーター内のディスプレイのレーンインジケーターがオレンジ色に点滅します。

知識

- 次の場合は、警報を行いません。
  - 方向指示器を使用しているとき（方向指示器を解除した後、約2秒間は作動しません）
  - 車速が約70km/h以下を下回っているとき

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

警告表示

- 次の場合は、メーター内のディスプレイのレーンインジケーターがオレンジ色に点灯し、自動的に作動が停止します。
  - LDW（車線逸脱警報）に異常があるとき

  LDW（車線逸脱警報）を再び作動させる場合は、安全な場所に停車して、ハイブリッドシステムを一旦停止して再始動し、再びシステムをONにしてください。
- 次の場合は、メーター内のディスプレイに「車線認識カメラ·その周辺が高温のため使用できません」と警告が表示され、自動的に作動が停止します。
  - 炎天下に駐車したときなど、車線認識カメラが高温になった場合

  LDW（車線逸脱警報）を再び作動させる場合は、停止したときの状態が改善されてから、再びシステムをONにしてください。

車線認識カメラの取り扱い

➔ 車線認識カメラの取り扱い (P.121)をお読みください。

アドバイス

- システムをONにできない、または警告が表示し続けるときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

BSI（後側方衝突防止支援システム）★

BSI（後側方衝突防止支援システム）は、隣接レーンに車両がいる時に運転者が車線変更を開始すると、ドアミラー付近の表示灯とブザーで警報するとともに、車両をもとの車線内に戻す方向に力を発生し、隣接車両との接触を回避するよう運転操作を支援するシステムです。

BSI（後側方衝突防止支援システム）について

- BSI（後側方衝突防止支援システム）は、リヤバンパー付近に取り付けられたレーダーセンサー①を使用し、隣の車線の車両を検知します。
  また、ルームミラー上方に取り付けられたカメラ②を使用し、走行している車線のレーンマーカーを検知します。
- レーダーセンサーは、自車両の左右にある検知範囲内にいる車両を検出することができます。
  検知範囲は、自車両のドアミラーからリヤバンパーの後方約3mと横方向約3mの範囲です。
- BSI（後側方衝突防止支援システム）は、約60km/h以上で作動します。
- 車両両側の検知範囲に車両を検知すると、検知した側のドアミラー付近にある表示灯が点灯します。
- 車両両側の検知範囲に車両を検知しているとき、自車両が検知している側のレーンマーカーに接近すると、警報音が鳴るとともにドアミラー付近にある表示灯が点滅します。
  同時にステアリングを制御し、自車両を車線中央へ戻すことを補助します。
- BSI（後側方衝突防止支援システム）は、方向指示器の作動にかかわらず作動します。

①
②

⚠ 注意

- BSI（後側方衝突防止支援システム）には限界がありますので、機能を過信しないでください。
  車線変更を行うときは、必ずドアミラーおよびルームミラーを使用し、さらに目視にて側方および後方を確認し、周囲の状況に応じてハンドル操作を行い、常に安全運転を心がけてください。
- BSI（後側方衝突防止支援システム）は、道路状況（レーンマーカーの状態）や天候などにより、適切に作動しないことがあります。
  周囲の状況に応じてハンドルおよびブレーキ操作を行い、常に安全運転に心がけてください。
- 自車両より極端に速い速度で接近してくる車両は検知できないことがあります。
  車線変更を行うときは、ドアミラーおよびルームミラーを使用し、さらに目視にて周囲の安全を確認してください。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

BSI（後側方衝突防止支援システム）★

ステアリングスイッチ

● システムのON／OFFができます。

BSI（後側方衝突防止支援システム）の使いかた

① ナビゲーションシステムの運転支援のメニューで BSI（後側方衝突防止支援システム） をON
にしているとき、スイッチを押すとシステムがONになります。
（メーター内のディスプレイのインジケーター（緑色）が点灯します。）
詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。

② 車速が60km/h以上になると、作動を開始します。

⚠ 警告

- 次のような状況では、思わぬ事故につながるおそれがありますので、システムを使用しないでください。
  - 悪天候（雨、霧、雪、風など）のとき
  - 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
  - 急なカーブ、急な上り坂･下り坂が繰り返されるとき
  - 工事中の道路や車線規制がある道路を走行するとき
  - 車線の幅が狭い道路を走行するとき
  - 摩耗しているタイヤ、空気圧不足のタイヤ、スペアタイヤ、タイヤチェーンを装着しているときや、純正品以外のタイヤを使用しているとき
  - 純正品以外のステアリング部品やサスペンション部品を使用しているとき
- レーダーセンサーは次のような障害物は検知しません。
  - 歩行者、自転車、動物など
  - 対向車

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

⚠ 警告

- 次のような車両は、検知できないことがあります。
  – 背の低い車両や、オートバイなどの幅の狭い車両
  – 停車状態から検知範囲に居続ける車両
  – 後方から速い速度で接近してくる車両
  – 自車両により速い速度で追い越される車両
  – 合流や車線変更で自車両の横にほぼ同じ速度で移動してきた車両
- 次のような場合は、隣の車線の車両を検知できないことがあります。
  – 悪天候（雨、雪、霧、風塵、砂塵、吹雪等）で視界が悪いとき
  – 水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき
  – 雪や氷、泥などがレーダーセンサー周辺に付着しているとき
- 車線の幅が極端に広い道路を運転する場合、隣の車線の車両を検出できないことがあります。また、車線の幅が極端に狭い道路を運転する場合、２つの隣の車線の車両を検知することがあります。
- レーダーセンサーは静止している障害物を検知しないよう設計されていますが、状況によってはガードレール、壁、草木、駐車された車両などを検知してしまうことがあります
- 次のような状況では、レーンマーカーを正確に検出できず、適切な作動ができない場合があります。
  – 検出しにくいレーンマーカー（不明瞭なレーンマーカー、黄色のレーンマーカー、一般的でないレーンマーカー、水たまり･汚れ･雪などで隠れているレーンマーカー）がある道路を走行するとき
  – 急なカーブのある道路を走行するとき
  – 消されたレーンマーカーがまだ見えている道路を走行するとき
  – 道路上に影、雪、水たまり、わだち、道路のつなぎ目、線状の補修痕などがあるとき（これらのものをレーンマーカーとして検出して警報したり、制御する場合があります）
  – 車線の分岐･合流のある道路を走行したとき
  – 自車がレーンマーカーに対してまっすぐに走行していないとき
  – 先行車との車間距離が短く、車線認識カメラの検出範囲が遮られるとき
  – 雨、雪、汚れなどがフロントガラスに付着しているとき
  – 汚れなどでヘッドランプの明るさが不十分なときやヘッドランプの光軸調整が適切に行われていないとき
  – 前方から強い光（太陽光など）を受けているとき
  – 急な明るさの変化が起こったとき（トンネルの出入り口など）
- 状況によっては外部の騒音などにより、警報音が聞こえない場合があります。

知識

- 電源ポジションをONにした直後、ドアミラー付近の表示灯は数秒間点灯します。
- 表示灯の明るさは、周囲の明るさに応じて自動的に調整されます。
- あらかじめ表示灯が点灯した状態で自車両がレーンマーカーに接近すると、警報とステアリング制御の両方が作動します。
  ただし、自車両がレーンマーカーと

知識

交差してから、検知範囲に車両が入ってきたときは、警報とステアリング制御は作動しません。

- BSI（後側方衝突防止支援システム）は、LDP（車線逸脱防止支援システム）よりも必ず先に作動します。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

BSI（後側方衝突防止支援システム）★

■ 検知範囲について

- レーダーセンサーは、自車両の左右にある範囲内にいる車両を検知します。
- 検知範囲は、自車両のドアミラーからリヤバンパーの後方約3m、車両の側面から横方向に約3mです。

■ ON／OFFの切り替えかた

ナビゲーションシステムで次の操作をすると、システムのON／OFFが切り替わります。

MENU ⇒ 運転支援 ⇒ 後側方支援 ⇒ BSI（後側方衝突防止支援システム）

知識

- ナビゲーションシステムのON／OFF設定は、ハイブリッドシステムを停止しても再度設定を変更するまで、その状態が維持されます。
  また、ON／OFFの設定は、ログイン機能によりユーザーごとに設定が保存されます。
  詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。
  ➔ ログイン機能 (P.301)

BSI（後側方衝突防止支援システム）★

システムの作動

■ 後方から車両が接近してくるとき

- 後方から車両が接近してくる場合、その車両が検知範囲内に入るとドアミラー付近にある表示灯が点灯します。
- 車両を検知しているときに、検知している側のレーンマーカーに接近すると、警報音が鳴るとともにドアミラー付近にある表示灯が点滅します。
  同時にステアリングを制御し、自車両を車線中央へ戻すことを補助します。

⚠ 注意

- 自車両より極端に速い速度で接近してくる車両は検知できないことがあります。
  車線変更を行うときは、ドアミラーおよびルームミラーを使用し、さらに目視にて周囲の安全を確認してください。

知識

- 自車両がレーンマーカーと交差してから、検知範囲に車両が入ってきたときは、警報とステアリング制御は作動しません。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

■ **発進するとき**

● 停車状態から検知範囲に居続ける車両は検知できないことがあります。

BSI（後側方衝突防止支援システム）★

■ 他の車両を追い越すとき

- 他の車両を追い越すとき、追い越される車両が検知範囲内に3秒以上車両がとどまるとドアミラー付近の表示灯が点灯します。
- 車両を検知しているときに、検知している側のレーンマーカーに接近すると、警報音が鳴るとともにドアミラー付近にある表示灯が点滅します。
  同時にステアリングを制御し、自車両を車線中央へ戻すことを補助します。

■ 他の車両に追い越されるとき

- 複数の車両に一度に追い越されるとき、追い越す車両の車間距離が短い場合は、1台目の車両以外が検出されないことがあります。

知識

- 速度の遅い車両を素早く追い越したときは、表示灯が点灯しません。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

■ 他の車線から車両が接近してきたとき

- 車線変更などで車両が接近してきたときは、検知範囲内に入るとドアミラー付近の表示灯が点灯します。
- 車両を検知しているときに、検知している側のレーンマーカーに接近すると、警報音が鳴るとともにドアミラー付近にある表示灯が点滅します。
同時にステアリングを制御し、自車両を車線中央へ戻すことを補助します。

知識

- 自車両とほぼ同じ速度で走行する車両が車線変更してきた場合、検出できないことがあります。
- 自車両がレーンマーカーの上を走行しているとき、検知範囲に車両が入ってもBSI（後側方衝突防止支援システム）は作動しません。
この場合、BSW（後側方車両検知警報）のみが作動します。
- 次のような状況では、ステアリング制御が行われず警報のみが作動します。
  - ステアリング制御中にアクセルペダルを踏み増したとき
  - 素早いハンドル操作を行ったとき
  - インテリジェントクルーズコントロール、インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）、PFCW（前方衝突予測警報）のいずれかが作動しているとき
  - エマージェンシーブレーキの警報が作動しているとき
  - 非常点滅表示灯が作動しているとき
  - 高速でカーブを曲がっているとき

BSI（後側方衝突防止支援システム）★

警告表示

- 次の場合は、“ポー”というブザー音とともにメーター内のディスプレイに「作動範囲外のため現在使用できません」と警告が表示され、システムが自動的に停止します。
  – ドライブモードをSNOWにしたとき
  – ABS又はVDC（トラクションコントロールは含まない）が作動したとき
  – VDCをOFFにしたとき
  BSI（後側方衝突防止支援システム）を再び作動させる場合は、停止したときの状態が改善されてから、ステアリングスイッチで再びONにしてください。
- 次の場合は、“ポー”というブザー音とともにメーター内のディスプレイに「サイドレーダー及びその周辺が汚れています 拭いてください」と警告が表示され、システムが自動的に停止します。
  – レーダーセンサーが汚れているとき
  – レーダーセンサーに雨、雪、氷などが付着しているとき
  BSI（後側方衝突防止支援システム）を再び作動させる場合は、レーダーセンサーおよびその周辺の汚れなどを取り除いてから、ステアリングスイッチでシステムを一旦OFFにしたあと、再びONにしてください。
- 次の場合は、メーター内のディスプレイに「車線認識カメラ·その周辺が高温のため使用できません」と警告が表示され、自動的に作動が停止します。
  – 炎天下に駐車したときなど、車線認識カメラが高温になったとき
  BSI（後側方衝突防止支援システム）を再び作動させる場合は、車線認識カメラ周辺の温度が下がってから、ステアリングスイッチで再びONにしてください。
- 次の場合は、“ポー”というブザー音とともにメーター内のディスプレイに「システム故障 取扱説明書を見て下さい」と警告が表示され、ブラインドスポットインジケーターがオレンジ色に点灯し、システムが自動的に停止します。
  – BSI（後側方衝突防止支援システム）に異常があるとき
  BSI（後側方衝突防止支援システム）を再び作動させる場合は、安全な場所に停車して、ハイブリッドシステムを一旦停止して再始動し、再びシステムをONにしてください。

アドバイス

- システムをONにできない、または警告が表示し続けるときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

知識

- BSI（後側方衝突防止支援システム）が作動を停止していても、BSW（後側方車両検知警報）が使用できることがあります。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

車線認識カメラの取り扱い

➔ 車線認識カメラの取り扱い (P.121)をお読みください。

レーダーセンサーの取り扱い

システムを正しく作動させるために、次のことをお守りください。

- レーダーセンサー周辺部はいつもきれいにしておいてください。
- レーダーセンサー周辺にステッカー（透明な物を含む）を貼ったり、アクセサリーなどを取り付けたり、塗料を塗ったりしないでください。
- レーダーセンサー周辺に強い衝撃を与えないでください。
  衝突などでレーダーセンサー周辺を破損したときは、日産販売会社で点検を受けてください。

BSW（後側方車両検知警報）★

BSW（後側方車両検知警報）は、車線変更をするとき、隣車線に車両がいる場合に警報によって運転者に注意を促します。

BSWについて

- BSW（後側方車両検知警報)は車速約30km/h以上で作動します
- 車両後部に取り付けられたレーダーセンサーにより隣車線の車両を検知すると、検知した側のドアミラー付近にある表示灯が点灯します。
- 隣車線の車両を検知しているときに、検知している側に方向指示器を作動させると、警報音が鳴るとともにドアミラー付近にある表示灯が点滅します。

レーダーセンサー

警告

BSW（後側方車両検知警報)は、ドアミラーによる周囲の検知を代わりに行ったり、車両や障害物との接触を防ぐ機能ではありません。車線変更を行うときは、機能に頼った確認をせず、必ずドアミラーおよびルームミラーで側方および後方の安全を確認してください。

知識

- ドアミラー付近の表示灯は電源ポジションをONにすると点灯し、数秒後に消灯します。
- ドアミラー付近の表示灯の明るさは車両周囲の明るさによって自動的に切り替わります。
- 方向指示器が作動しているときに、レーダーセンサーにより隣車線の車両を検知した場合には、表示灯は点滅しますが音は鳴りません。
- メーター内のディスプレイを「走行支援」に切り替えると、BSW（後側方車両検知警報)の作動状態をドライブコンピューター内で確認することができます。
  ➔ ドライブコンピューター (P.272)

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

BSW（後側方車両検知警報）の使いかた

■ 検知範囲について

➔ 検知範囲について (P.138)をお読みください。

■ ON／OFFの切り替えかた

ナビゲーションシステムで次の操作をすると、システムのON／OFFが切り替わります。

MENU ⇒ 運転支援 ⇒ 後側方支援 ⇒ BSW（後側方車両検知警報）

知識

- ナビゲーションシステムでのON／OFF設定は、ハイブリッドシステムを停止しても再度設定を変更するまで、その状態が維持されます。
  また、ON／OFFの設定は、ログイン機能によりユーザーごとに設定が保存されます。
  詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。
  ➔ ログイン機能 (P.301)

システムの作動

■ 後方から車両が接近してくるとき

- 後方から車両が接近してくる場合、その車両が検知範囲内に入るとドアミラー付近にある表示灯が点灯します。
- 車両を検知しているときに、検知している側の方向指示器を作動させると警報音が鳴るとともに、ドアミラー付近にある表示灯が点滅します。
- 自車両より極端に速い速度で接近してくる車両は検知できないことがあります。

⚠ 注意

- 車線変更を行うときは、必ずドアミラーおよびルームミラーを使用して周囲の安全を確認してください。

知識

- 方向指示器を作動させた後に、検知範囲に車両が入ってきたときは、表示灯は点滅しますが警報音は鳴りません。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

■ 発進するとき

● 停車状態から検知範囲に居続ける車両は検知できないことがあります。

■ 他の車両を追い越すとき

- 他の車両を追い越すとき、追い越される車両が検知範囲内に3秒以上とどまるとドアミラー付近の表示灯が点灯します。
- 車両を検知しているときに、検知している側の方向指示器を作動させると警報音が鳴るとともに、ドアミラー付近にある表示灯が点滅します。

知識

- 速度の遅い車両を素早く追い越したときは表示灯が点灯しません。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

■ 他の車両に追い越されるとき

● 複数の車両に一度に追い越されるとき、追い越す車両の車間距離が短い場合は、1台目の車両以外が検出されないことがあります。

■ 他の車線から車両が接近してきたとき

● 車線変更などで車両が接近してきたときは、検知範囲内に入るとドアミラー付近の表示灯が点灯します。
● 車両を検知しているときに、検知している側の方向指示器を作動させると警報音が鳴るとともに、ドアミラー付近にある表示灯が点滅します。

知識

● 自車両とほぼ同じ速度で走行する車両が車線変更してきた場合、検出できないことがあります。
● 方向指示器を作動させた後に、検知範囲に車両が入ってきたときは、表示灯は点滅しますが警報音は鳴りません。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

警告表示

- 次の場合、メーター内のディスプレイのBSW（後側方車両検知警報）表示が白色で点滅するとともに、「サイドレーダー及びその周辺が汚れています 拭いてください」と警告が表示され、システムが自動的に停止します。
  - 雪や氷、泥などがレーダーセンサー周辺に付着しているとき
  - 水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき

  BSI（後側方衝突防止支援システム）を再び作動させる場合には、安全な場所に停車して、一度ハイブリッドシステムを停止してからレーダーセンサーおよびその周辺の汚れなどを取り除き、ハイブリッドシステムを再始動し、再びシステムをONにしてください。
- 次の場合、メーター内のディスプレイのBSW（後側方車両検知警報）表示がオレンジ色に点灯するとともに、「システム故障 取扱説明書を見て下さい」と警告が表示され、システムが自動的に停止します。
  - BSW（後側方車両検知警報）システムに異常があるとき

  BSW（後側方車両検知警報）を再び作動させる場合は、安全な場所に停車して、ハイブリッドシステムを一旦停止して再始動し、再びシステムをONにしてください。

レーダーセンサーの取り扱い

➔ レーダーセンサーの取り扱い (P.144)をお読みください。

アドバイス

- システムをONにできない、または警告が表示し続けるときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

運転をするときは

BCI（後退時衝突防止支援システム）★

BCI（後退時衝突防止支援システム）は、後退時に後方の障害物や、後方を横切ろうとする車両に衝突するおそれがあるとき、警報と短時間のブレーキにより、運転者の衝突回避操作を支援するシステムです。

BCI（後退時衝突防止支援システム）について

- BCI（後退時衝突防止支援システム）はセレクトレバーがRで、車速約8km/h以下で作動します。
- BCI（後退時衝突防止支援システム）はリヤバンパー付近に取り付けられたレーダーセンサー①により、後方を横切ろうとする車両を検知します。また、リヤバンパーに取り付けられたソナーセンサー②により、後方の障害物を検知します。

⚠ 警告

- BCI（後退時衝突防止支援システム）は、運転者の代わりに周囲を確認したり、車両や障害物との接触を防ぐ機能ではありません。駐車スペースから後退するときは、機能に頼った確認をせず、必ず運転者自身で周囲の安全を確認してください。
- レーダーセンサーおよびソナーセンサーには限界がありますので、機能を過信しないでください。道路の状態、天候、交通状況などにより、システムが正常に作動しないことがあります。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

■ 検知範囲について

- レーダーセンサーは、約15m先から近づいてくる車両を検知します。
- ソナーセンサーは、リヤバンパーから約1.5m以内の障害物を検知します。

⚠ 注意

- レーダーセンサーは、次のようなものを検知できないことがあります。
  - 歩行者、自転車、動物など
  - 約24km/h以上の速度で通過する車両
- 次のような状況では、レーダーセンサーが接近する車両を検知できないことがあります。
  - 隣に駐車している車両などが、レーダーセンサーの検出エリアを妨げているとき
  - 駐車枠線が斜めに引かれた駐車場に駐車しているとき

⚠ 注意

– 傾斜した地面に駐車しているとき

– 回り込むようにして自車両後方へ車両が接近してきたとき

– 接近してきた車両の向きが、自車両の向きと同じまたはそれに近いとき

● 次のような場合は、思わぬ事故につながるおそれがありますので、システムを使用しないでください。
  – 悪天候（雨、雪、霧、風塵、砂塵、吹雪等）で視界が悪いとき
  – 水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき
  – 雪や氷、泥などがレーダーセンサー周辺に付着しているとき
  – 摩耗しているタイヤ、空気圧不足のタイヤ、スペアタイヤ、タイヤチェーンを装着しているときや、純正品以外のタイヤを使用しているとき
  – 純正品以外のブレーキ部品やサスペンション部品を使用しているとき
● ソナーセンサーは、次のようなものを検知できないことがあります。
  – 小さいもの、または動いているもの
  – くさび形のもの
  – リヤバンパーに極端に近い障害物（約30cm未満）
  – ロープ、チェーン、ワイヤーなどの細いもの
● 急斜面ではシステムによるブレーキの効きが弱くなることがあります。
● 状況によっては外部の騒音などにより、警報音が聞こえない場合があり

BCI（後退時衝突防止支援システム）★

⚠ 注意

ます。

システムの作動

■ 使いかた

- セレクトレバーを R にすると、ナビゲーション画面がバックビューに切り替わり、BCI（後退時衝突防止支援システム）の表示灯①が点灯します。
- レーダーセンサーおよびソナーセンサーが、接近する車両または後方の障害物を検知するとシステムが作動します。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

■ 検知したとき

● レーダーセンサーが後方を通り過ぎようとする車両を検知すると、警報音が鳴るとともに車両が接近している側のドアミラー付近の表示灯が点滅します。同時にナビゲーションシステムのバックビューモニターのフレームⒶが黄色くなります。

Ⓐ

■ 作動しないとき

- 複数の車両が連続して後方を通過する場合や、最初に検知した車両と逆方向からも車両が接近してきた場合、2台目以降に対して警報が作動しない場合があります。
- ソナーセンサーによる警報（MOD（移動物検知機能））が作動しているときは、車両の接近による警報は作動しません。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

■ 検知して制御するとき

- 後方を通り過ぎようとする車両を検知している、または後方の障害物を検知しているときに、自車両が後退すると警報音が鳴り、ナビゲーション画面のバックビューモニターのフレームⒶが赤色になるとともに、システムがブレーキをかけ、運転者の回避操作を支援します。
  システムによるブレーキは短時間で解除されます。停車するためには、運転者はブレーキペダルを踏んでください。
- システムが作動したとき、運転者がアクセルペダルを踏んでいると、ブレーキペダルへの踏み替えを促すため、アクセルペダルを押し戻す方向に力を発生させます。このとき、運転者がアクセルペダルを踏み続けると、ブレーキは作動しません。

Ⓐ

知識

- 後方の障害物と車両のリヤバンパーの距離が非常に近い場合は、BCI（後退時衝突防止支援システム）は作動しません。

BCI（後退時衝突防止支援システム）★

■ ON／OFFのしかた

- セレクトレバーが R でナビゲーション画面にバックビューが表示されているとき、BCI（後退時衝突防止支援システム）のアイコン①にタッチすると、システムを一時的にOFFできます。

知識

- BCI（後退時衝突防止支援システム）を一時的にOFFしたときは、セレクトレバーを一旦 R 以外にしてから再度 R にするか、ハイブリッドシステムを一旦停止してから再始動すると、システムは自動的にONになります。
- 次の操作でシステムのON／OFFが切り替わります。
  MENU ⇒ 設定 ⇒ カメラ·ソナー ⇒ カメラ ⇒ BCI（後退時衝突防止支援システム）
- ナビゲーションシステムの設定でON／OFFを変更した場合は、セレクトレバーを一旦 R 以外にしてから再度 R にする、またはハイブリッドシステムを一旦停止してから再始動しても再度設定を変更するまで、その状態が維持されます。
  また、ON／OFFの設定は、ログイン機能によりユーザーごとに設定が保存されます。
- 詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。
  ➔ ログイン機能 (P.301)

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

警告表示

- 次の場合は、メーター内のディスプレイに「アクセルペダルが高温のため使用できません」と警告が表示され、システムが自動的に停止します。
  – アクセルペダルを戻す力を発生させているモーターが高温になったとき
  モーターの温度が下がると、システムは自動的に作動を再開します。
- 次の場合、メーター内のディスプレイに「サイドレーダー及びその周辺が汚れています拭いてください」と警告が表示され、システムが自動的に停止します。
  – 雪や氷、泥などがレーダーセンサー周辺に付着しているとき
  – 水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき
  上記警告が表示されたときは、安全な場所に停車し、一度ハイブリッドシステムを停止してからレーダーセンサーおよびその周辺の汚れなどを取り除き、ハイブリッドシステムを再始動してください。
- 次の場合は、エマージェンシーブレーキ警告灯が点灯するとともにメーター内のディスプレイに「システム故障 取扱説明書を見て下さい」と警告が表示され、システムが自動的に停止します。
  – BCI（後退時衝突防止支援システム）に異常があるとき
  上記警告が表示されたときは、安全な場所に停車し、一度ハイブリッドシステムを停止してから再始動してください。

レーダーセンサーの取り扱い

➔ レーダーセンサーの取り扱い (P.144)をお読みください。

アドバイス

- システムをONにできない、または警告が表示し続けるときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

クルーズコントロール★

クルーズコントロールをセットするとアクセルペダルを踏まなくても、一定の速度で走行することができます。
約40～100km/hの間で任意の速度にセットできます。

クルーズコントロールの注意事項

注意

- 車間制御は行わないため、ブレーキ操作制御や警報は行われません。
  先行車との車間距離、周囲の状況に応じてブレーキペダルを踏んで減速するなどして車間距離を確保し、安全運転に心がけてください。
- 次のような状況では、思わぬ事故につながるおそれがありますので使わないでください。
  - 交通量の多い道や急カーブのある道
    （交通状況にあった速度で走行できないため、事故につながるおそれがあります）
  - 凍結路や積雪路など滑りやすい路面
    （タイヤが空転し、車のコントロールを失うおそれがあります）
  - 急な下り坂
    （急な下り坂ではエンジンブレーキが十分効かないため、セットした速度を超えてしまい、思わぬ事故につながるおそれがあります。）

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

スイッチの機能･画面表示

■ ステアリングスイッチ

① メインスイッチ
クルーズコントロールのON／OFFができます。

② SET-（下押し）
クルーズコントロールのセットができます。
設定車速を下げることができます。

③ RES+（上押し）
クルーズコントロールを解除後、解除前の設定車速に再びセットすることができます。
設定車速を上げることができます。

④ キャンセルスイッチ
クルーズコントロールの解除ができます。

■ アドバンスドドライブアシストディスプレイ

⑤　クルーズ表示
メインスイッチをONにすると表示します。

⑥　設定車速表示
設定した車速を表示します。

⚠ 注意

- クルーズコントロールを使用する場合は、十分な車間距離をとってください。
- 次の状況では、クルーズコントロールを使用しないでください。
  - 交通量の多い道や急カーブのある道
  - 凍結路や積雪路など滑りやすい路面
  - 急な下り坂
- クルーズコントロールを使用しないときは、メインスイッチを必ずOFFにしてください。
- クルーズ表示⑤が点滅した場合は、一度パワースイッチを押してハイブリッドシステムを停止し、再始動してからもう一度セットしてください。点滅が続いたりセットできない場合は、日産販売会社で点検を受けてください。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

セットのしかた

1	メインスイッチを押し、メーター内のディスプレイのクルーズ表示灯が点灯したことを目で確認します。
2	設定したい車速まで加速または減速し、SET-（下押し）を押します。 ● スイッチを押したときの車速が設定車速になります。

⚠ 注意

● クルーズコントロールを使わないときは、メインスイッチをOFFにしてください。誤ってステアリングスイッチを押すと、クルーズコントロールがセットされ、思わぬ事故につながるおそれがあります。

設定車速の変えかた

定速走行中、次の操作で設定車速を変更します。

■ ペダルで変えるとき

① アクセルペダルまたはブレーキペダルを踏み、速度を変えます。
② 希望の速度になったら、SET-（下押し）を押します。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

■ ステアリングスイッチで変えるとき

設定車速を上げたいとき

① RES+（上押し）を押し続けると加速します。
② 希望の速度になったら、手を離します。

設定車速を下げたいとき

① SET-（下押し)を押し続けると減速します。
② 希望の速度になったら、手を離します。

■ 一時的に加速、減速をしたいとき

加速したいとき

- アクセルペダルを踏むと、加速します。

減速したいとき

- ブレーキペダルを踏むと、減速（制御を解除）します。

■ もう一度定速走行に戻したいとき

解除前の設定車速で再びセットしたいときは、RES+（上押し）を押します。
（車速が約40km/h～100km/hのとき戻せます。）

知識

- アクセルペダルを踏んで加速した場合や、SET-（下押し）で設定車速を下げた場合などで設定車速より実際の車速の方が高くなったときは、設定車速の表示が点滅します。
車速が設定車速や設定車速以下になると、設定車速の表示が点灯状態に戻ります。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

解除のしかた

- 次の操作でクルーズコントロール機能が解除されます。
  - キャンセルスイッチを押す
  - メインスイッチを押す
  - ブレーキペダルを踏む
- 次の場合は、クルーズコントロールが自動的に解除されます。
  - 車速が30km/h以下になったとき
  - 設定車速より約13km/h以上車速が低下したとき
  - VDCが作動したとき
  - タイヤが空転したとき
  - セレクトレバーをNに入れたとき
  - クルーズコントロールシステムに異常があるとき

CANCEL
RES
SET
ブレーキペダル

知識

- キャンセルスイッチで解除したときやブレーキペダルを踏んで解除したときは、セット待機状態になります。
- クルーズコントロールシステムに異常があると、メーター内のディスプレイに警告が表示されます。

インテリジェントクルーズコントロール★

インテリジェントクルーズコントロールは、先行車との距離を測定し、運転者がセットした車速を上限として、車速に応じた車間距離を自動的に保ちながら走行するシステムです。

インテリジェントクルーズコントロールについて

インテリジェントクルーズコントロールには、以下のような機能があります。

- インテリジェントクルーズコントロール
  - 先行車を検出していない場合は、運転者がセットした車速で定速走行します。
  - 先行車を検出している場合は、先行車との距離を測定し、運転者がセットした車速を上限として車速に応じた車間距離を保つように車間制御を行います。
- ナビ協調機能
  - ナビゲーションシステムからの情報をもとに、運転者がセットした車速を上限として、前方のカーブの大きさに応じた車速で走行できるように車速制御を行います。
- 定速制御機能
  - 運転者がセットした車速（約40km/h～100km/h）で定速走行します。（車間距離の制御は、行いません。）

⚠ 注意

- 機能によって制御内容が異なります。
インテリジェントクルーズコントロールを使用するときは、どの機能が選択されているかをメーター内のディスプレイで必ず確認してください。
➔ アドバンスドドライブアシストディスプレイの見かた (P.267)

インテリジェントクルーズコントロールの使いかた

先行車との距離を測定し、運転者がセットした車速を上限として車速に応じた車間距離を自動的に保ちながら走行することができます。
セレクトレバーが D 又はマニュアルモードのときに以下の制御を行います。

- 先行車を検出していないときは、運転者がセットした車速（約32km/h～100km/h）で定速走行します。
- 先行車を検出しているときは、運転者がセットした車速（約32km/h～100km/h）を上限として、車速に応じた車間距離を保つように車間制御を行い走行します。
また、先行車両が停止したときには、自車もそれに応じて停止します。
（停止後はシステムが自動的に解除されます。）
- 先行車を検出しなくなったときは、セットした速度までゆっくりと加速し、定速走行を行います。
なお、車速が約24km/hを下回っている場合は、システムが自動的に解除されます。

⚠ 注意

- インテリジェントクルーズコントロールは高速道路や自動車専用道路でご使用ください。
- インテリジェントクルーズコントロールにより停止までブレーキ制御を行いますが、停止状態を保持する機能はありません。自車が停止したとシステムが判断すると、ブザー音とともにブレーキ制御が解除され、クリープ現象によりゆっくりと車両が動き出します。停止状態を保持す

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

⚠ 注意

るためのブレーキ操作は、必ず運転者が行ってください。（先行車との車間距離が短いときや下り坂で追従走行しているときなど、状況により停止できない場合もあります。）

	定速走行	減速走行	追従走行	加速走行
走行状況	先行車を検出していないとき	設定した車速より遅い先行車が検出されたとき	設定した車速より遅い先行車に追従するとき	設定した車速より遅い先行車を検出しなくなったとき
例	100km/hに設定	100km/hで定速走行時に、80km/hの先行車を検出したとき	100km/hに設定しているときに、80km/hの先行車がいるとき	100km/hに設定しているときに、80km/hの先行車を検出しなくなったとき
	未検出 100km/h （設定車速）	先行車検出 80km/h 100km/h→80km/h	80km/h 80km/h	80km/h 80km/h→100km/h （設定車速）

⚠ 注意

- インテリジェントクルーズコントロールには限界がありますので、機能を過信しないでください。脇見運転やぼんやり運転などの前方不注意および雨･霧などの視界不良を補助するものではありません。先行車との車間距離、周囲の状況に応じてブレーキペダルを踏んで減速するなどして車間距離を確保し、安全運転に心がけてください。
- インテリジェントクルーズコントロールの減速能力には限界がありますので、自車の前へ他車が割り込んだときや先行車が急ブレーキをかけたとき、下り坂で追従走行しているときなどは、十分に減速できず先行車に接近することがあります。この場合は、ブザー音および表示による警報で注意を促します。
- 次のような状況では、思わぬ事故につながるおそれがありますのでインテリジェントクルーズコントロールを使わないでください。

  – **交通量の多い道や急カーブのある道**
  道路状況にあった速度で走行できないため事故につながるおそれがあります。
  – **凍結路や積雪路など滑りやすい路面**
  タイヤが空転し、車のコントロールを失うおそれがあります。
  – **悪天候（雨、霧、雪など）のとき**
  先行車との車間距離が正確に検出できない場合があります。
  – **センサー部に雨滴、雪などが付着しているとき**
  先行車との距離が正確に検出できない場合があります。
  – **急な下り坂**
  先行車を検出していない場合はインテリジェントクルーズコントロールの制御によるブレーキ操作を行わないため、セットした車速を超えてしまうおそれがあります。
  また、先行車を検出していて追従走行している場合には、ブレーキが過熱してしまうおそれがあります。
  – **急な上り坂、下り坂が繰り返される道**
  先行車を正確に検出できず、先行車に近づきすぎて思わぬ事故につながるおそれが

⚠ 注意

ありります。

– **頻繁な加減速により、車間距離が保ちにくい交通状況のとき**
  交通状況にあった速度で走行できないため、事故につながるおそれがあります。

- 高速道路などで、インターチェンジ、サービスエリア、パーキングエリアなどに進入する（本線から出る）とき本線上でインテリジェントクルーズコントロールによりセット車速よりも遅い車速で走行する先行車に追従走行している場合には、自車又は先行車の車線変更などで、自車線上に先行車を検出しなくなることによりセット車速まで自動的に加速するため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 停止中の車両や自車速より極端に遅い車両に対しては、インテリジェントクルーズコントロールによる制御も接近警報も行いません。料金所や渋滞の最後尾で停車中の車両や極端に速度の遅い車両などには十分注意してください。
- 急な割り込み車両や、歩行者などの車両以外のものに対しては、制御又は接近警報を行いません。
- 次の場合には、先行車を正確に検出できず、車間距離が適切に保てなくなる場合があります。周囲の状況に十分注意し、必要に応じてブレーキ操作をしてください。

⚠ 注意

– 先行車や他車線の車が路上の水や雪などを巻き上げて走っているとき
– 後席やトランクに極端に重い荷物を積んだとき
– 急な上り坂、下り坂が繰り返される道を走行しているとき

● 近距離ではセンサーの検出エリアが狭いため、自車線の端を走行する二輪車を検出できなかったり、間近に割り込んでくる先行車の検出が遅れたりして、車間距離が適切に保てない場合があります。

● センサーの汚れを自動的に判定する機能を備えておりますが万全ではありません。状況によってはセンサーが汚れていても判定できない場合があります。また雪、氷などが付着したときも判定できない場合があります。このような状況では、適切な作動ができなくなるおそれがありますので、常に前方に注意して走行してください。また、レーダーセンサーおよびその周辺はいつもきれいにしておいてください。
なお、汚れを判定した場合は、インテリジェントクルーズコントロールは自動的に解除されます。

● 道路形状（カーブ路、カーブの出入り口、車線規制や工事中などで車線の幅が狭くなっている道）や自車の状況（ハンドル操作、車線内の位置、事故や故障で走行が不安定な場合など）によっては、一時的に先行車を検出できなくなったり、隣の車線の

⚠ 注意

車両や周辺のものを検出して制御したり、警報が作動する場合があります。
また、一時的に先行車を検出できず、先行車に近づく場合があります。

ステアリングスイッチ（インテリジェントクルーズコントロール）

① メインスイッチ
インテリジェントクルーズコントロールのON･OFFができます。

② SET-（下押し）
インテリジェントクルーズコントロールのセットができます。
設定車速を下げることができます。

③ RES+（上押し）
インテリジェントクルーズコントロールを解除後、解除前の設定車速に再びセットすることができます。
設定車速を上げることができます。

④ キャンセルスイッチ
インテリジェントクルーズコントロールの解除ができます。

⑤ 車間設定スイッチ
車間設定を「長」「中」「短」の3段階に切り替えることができます。

RES +
CANCEL
SET −
①
②
③
④
⑤

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

アドバンスドドライブアシストディスプレイ

アドバンスドドライブアシストディスプレイはメーター内にあります。

① インテリジェントクルーズコントロール警告灯
システムの作動状態を色で表示します。
白色:
メインスイッチを押し、システムがONになると表示します。
緑色:
車速を設定すると表示します。
オレンジ色:
システムが故障すると表示します。

② 先行車検出表示
先行車検出の有無をお知らせします。

③ 設定車速表示
設定した車速を表示します。

④ 車間設定表示
車間設定スイッチで設定した車間設定を表示します。

インテリジェントクルーズコントロール★

セットのしかた

1	メインスイッチを押してインテリジェントクルーズコントロールをONにします。（1.5秒未満押す） （クルーズ表示灯、車間設定表示、設定車速表示が点灯し、セット待機状態になります。）	
2	設定したい車速まで加速又は減速します。	
3	SET-(下押し）側に押します。 ·スイッチを押したときの車速が設定車速になります。 ·車速が約32km/h以下で先行車を検出しているときにスイッチを押した場合、設定車速は32km/hになります。 （先行車検出の有無、車間設定、設定車速が表示）	
4	制御を開始します。	

⚠ 注意

- インテリジェントクルーズコントロールを使用しないときは、メインスイッチをOFFにしてください。
誤ってスイッチを押してしまった場合、インテリジェントクルーズコントロールがセットされてしまい思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

- 次の場合はメーター内のディスプレイの警告灯が約2秒間点滅し、セットすることができません。
  - 車速が約32km/hを下回っていて、先行車を検出していないとき
  - セレクトレバーがD又はマニュアルモード以外のとき
  - パーキングブレーキがかかっているとき
  - ブレーキを踏んでいるとき

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

知識

- 次の場合は“ピー”というブザー音とともに、メーター内のディスプレイに“作動範囲外のため現在使用できません”と表示され、セットすることができません。
  - ドライブモードをSNOWにしているとき
    ➔ ドライブモードセレクター (P.98)
  - VDCをOFFにしているとき
    ➔ VDC（ビークルダイナミクスコントロール）(P.101)
  - ABS又はVDC（トラクションコントロールを含む）が作動しているとき
  - タイヤが空転しているとき
- ハイブリッドシステムを停止するとインテリジェントクルーズコントロールは自動的に解除されます。

知識

- 車間設定はハイブリッドシステムを始動するたびに「長」に設定されます。「中」又は「短」に切り替えたいときは車間設定スイッチを操作します。

システムの作動

■ 先行車を検出しているとき

運転者が設定した車間距離を保つように制御します。
（先行車検出表示が点灯）

60
km/h

📖 知識

- 設定車速（約32km/h～100km/h）を上限とする範囲で制御します。
- インテリジェントクルーズコントロールの制御によりブレーキが作動したときは、自車の制動灯が点灯します。
- ブレーキが作動したとき、音がすることがありますが異常ではありません。

■ **先行車を検出しなくなったとき**

設定車速までゆっくりと加速し、定速走行します。
（先行車検出表示が消灯）

60
km/h

知識

- 設定車速までの加速中に先行車を検出すると、再び車間制御を行います。
- 設定車速までは機能の制御によって加速しますが、素早く加速したいときはアクセルペダルを踏んで加速してください。
- 車速が約24km/hを下回ったときに、先行車を検出しなくなると自動的に制御を解除します。

設定車速の変えかた

■ 設定車速を変えたいとき

- 設定車速を上げたいときは、RES+（上押し）に押します。
- 設定車速を下げたいときは、SET-（下押し）に押します。

RES +
CANCEL
SET −

⚠ 注意

- 車間制御しているときは、先行車に合わせた車速に制御されるため、RES+（上押し）に押して、設定車速を上げても加速しません。
しかしこのとき機能上は設定車速を変更しているため、先行車を検出しなくなるとその設定した車速まで加速します。設定車速はメーター内のディスプレイの設定車速表示を確認しながら変更してください。

運転をするときは

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

■ 一時的に加速、減速をしたいとき

加速したいとき

- アクセルペダルを踏むと、加速します。アクセルペダルを離すと、元の制御状態に戻ります。

減速したいとき

- ブレーキペダルを踏むと、減速（制御が解除）します。
（設定車速表示の車速値が消灯し、セット待機状態になります。）
- 解除前の設定車速で再びセットしたいときは、RES+（上押し）に押します。
（メーター内のディスプレイが再びセット状態の表示になります。）

⚠ 注意

- アクセルペダルを踏んでいるときは、インテリジェントクルーズコントロールによるブレーキ操作も警報も行いません。
インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）がONの場合、アクセルペダルを踏んでいるときはインテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）が作動します。
➔ インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）★ (P.208)
- 通常、車間制御中は先行車の速度に合わせて自動的に加速、減速を行います。しかし車線変更などで加速が必要なときや、先行車が急減速したり、他車が割り込むなどして先行車に接近しそうになったときなどはアクセルペダル、またはブレーキペダルを踏んで周囲の状況に応じた適切な加速、減速を行ってください。

知識

- アクセルペダルを踏んで加速した場合や、SET-（下押し）で設定車速を下げた場合などで設定車速より実際の車速の方が高くなったときは、設定車速表示が点滅します。

- アクセルペダルを戻したあとに定速走行し、車速が設定車速となった場合や、車間制御で車速が設定車速以下となったときは、設定車速が点灯状態に戻ります。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

車間距離設定の変えかた

先行車との車間距離を交通状況に応じて選ぶことができます。制御中又はセット待機状態のときに車間設定を切り替えることができます。

- 車間設定スイッチを押すごとに「長」→「中」→「短」→「長」の順に切り替わります。

車間設定	ディスプレイ
長	60 km/h
中	60 km/h
短	60 km/h

アドバイス

- ハイブリッドシステムを停止すると、車間設定は「長」に戻ります。（ハイブリッドシステムを始動するたびに初期の車間設定は「長」になります。）

知識

- 各制御は車速に応じて変わり、車速が高いほど長くなります。
- 車速100km/hで走行しているとき、車間設定での制御車間距離の目安は次のとおりです。

長：　約60m
中：　約45m
短：　約30m

解除のしかた

- 次の操作でインテリジェントクルーズコントロールが解除されます。
  - キャンセルスイッチを押す
  - メインスイッチを押す
  - ブレーキペダルを踏む
- 次の場合は“ピー”というブザー音とともに制御が自動的に解除されます。
  - 先行車を検出していないときに、車速が約24km/hを下回ったとき
  - インテリジェントクルーズコントロールにより自車が停止したとき
  - セレクトレバーをDまたはマニュアルモード以外にしたとき
  - パーキングブレーキをかけたとき
  - ドライブモードをSNOWにしたとき
  - ABS又はVDC（トラクションコントロールを含む）が作動したとき
  - VDCをOFFにしたとき
  - センサー部が汚れ、車間距離の測定が困難になったとき
  - タイヤが空転したとき

ブレーキペダル

知識

- キャンセルスイッチで解除したときやブレーキペダルを踏んで解除したときは、セット待機状態になります。

接近警報

車間制御中に先行車の減速度合いが大きい場合や他車の割り込みなどによって、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、次のようにブザーとメーター内のディスプレイの表示によって運転者に注意を促します。
この場合は、ブレーキを踏んで減速し、適切な車間距離を確保してください。

● 先行車に接近し、車間距離が十分でないと判断されるときはブザーが“ピッ、ピッ、ピッ、ピッ…”と鳴り、メーター内のディスプレイの先行車検出表示、車間設定表示が点滅します。

60
km/h

⚠ 注意

● 警報ブザーが頻繁に鳴るような状況では、インテリジェントクルーズコントロールを使用しないでください。
● 短い車間距離でも、次の場合には警報が作動しないことがあります。
　– 先行車との相対速度が小さいとき（ほぼ同じ速度で走っているとき）
　– 先行車の方が自車より速いとき（車間距離が次第に離れていくとき）
　– 他車が至近距離に割り込んできたとき
● 料金所や渋滞の最後尾で停車中の車両や、自車速より極端に車速が遅い車両に対しては警報が作動しません。
● 道路形状（カーブ路、カーブの出入り口、車線規制や工事中などで車線の幅が狭くなっている道）や、自車及び周辺車両の状況（ハンドル操作、車線内の位置、事故や故障で走行が不安定な場合など）によっては、一時的に隣車線の車両Ⓐや、車道脇に設置されているⒶなどを検出

⚠ 注意

して、接近警報が作動する場合があります。

警告表示

- 次の場合は、“ピー”というブザー音とともにインテリジェントクルーズコントロールが自動的に解除され、インテリジェントクルーズコントロール警告灯およびメーター内のディスプレイの一部が点灯又は点滅しセットできなくなります。

  – ABS又はVDC（トラクションコントロールを含む）が作動したとき
  – VDCをOFFにしたとき
  – ドライブモードをSNOWにしたとき
  – タイヤが空転したとき
  システムを再び作動させる場合は、停止したときの状態が改善されてから、メインスイッチでシステムを一旦OFFにしたあと、再びセット操作を行ってください。
- 次の場合は、“ピー”というブザー音とともにメーター内のディスプレイに「フロントレーダー及びその周辺が汚れています　拭いてください」　と表示され、警告灯が点灯し、自動的に作動が停止します。
  – センサー部が汚れ、先行車の検出が困難になったとき
  システムを再び作動させる場合は、安全な場所に停車して、ハイブリッドシステムを一旦停止してレーダーセンサーおよびその周辺の汚れなどを取り除いてから再始動し、再びシステムをONにしてください。
- 次の場合は、“ピー”というブザー音とともに警告灯がオレンジ色に点灯し、自動的に作動が停止します。
  – インテリジェントクルーズコントロールシステムに異常があるとき
  システムを再び作動させる場合は、安全な場所に停車して、ハイブリッドシステムを一旦停止して再始動し、再びシステムをONにしてください。

表示
00:00AM 00.0℃
D 000000 km
STANDARD 0000.0 A

アドバイス

- システムをONにできない、または警告が表示し続けるときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

レーダーセンサーの取り扱い

システムを正しく作動させるために、次のことをお守りください。

- フロントバンパーに取り付けられたレーダーセンサー周辺はいつもきれいにしておいてください。強い力で乾拭きしないでください。また、高圧式スプレーガンやスチームクリーナーで清掃するときは、センサーから十分に離して使用してください。レーダーセンサーを損傷するおそれがあります。
- レーダーセンサー及びレーダーセンサー部周辺に強い衝撃を与えないでください事故などでレーダーセンサー取り付け部が変形した場合は、日産販売会社にご相談ください。
- レーダーセンサーおよびその周辺は、ステッカー（透明なものを含む）を貼ったりアクセサリーなどを取り付けないでください。故障、誤作動の原因になります。
- フロントバンパーを改造、脱着したり、塗装しないでください。フロントバンパーをカスタマイズしたり、復元する前に日産販売会社にご相談ください。

レーダーセンサー

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

ナビ協調機能（インテリジェントクルーズコントロール）★

ナビ協調機能は、ナビゲーションシステムからの情報をもとに、運転者がセットした車速（約32km/h～100km/h）を上限として、前方のカーブの大きさに応じて自車の車速を制御することで、運転者の加速･減速操作を支援する機能です。

ナビ協調機能について

具体的には次の制御を行います。

- 前方のカーブの大きさに応じて、緩やかに減速します。
- カーブ路を出て直線路になると、再びセット車速まで加速します。

作動条件

ナビ協調機能は、次の条件が全て満たされている場合に作動します。

- ナビ協調機能がONのとき
- インテリジェントクルーズコントロールを使用して、定速走行しているとき（先行車を検出していないとき）
- ナビゲーションシステムによる目的地へのルートガイドを行っていて、そのルート上を走行しているとき

走行状況	**減速走行** カーブ路に近づいたとき	**加速走行** カーブ路を出て直線路へ戻ったとき
例	前方のカーブに応じて減速	セット車速まで加速

⚠ 注意

- ナビ協調機能は、高速道路や自動車専用道路でご使用ください。
- ナビ協調機能は、前方のカーブの大きさに応じて、システムの減速能力の範囲内で減速するものであり、カーブを自動的に走行したり、法定速度を順守した走行を支援するものではありません。
  法定速度を守り、安全にカーブを走行するためのブレーキ操作は、必ず運転者が行ってください。
- ナビ協調機能には限界があります。また、状況により作動しない場合がありますので、ナビ協調機能を過信しないでください。
  脇見運転やぼんやり運転などの前方不注意および雨･霧などの視界不良を補助するものではありません。
  周囲の状況に十分注意し、安全運転を心がけてください。
- ナビ協調機能の減速能力には限界があります。十分に減速できないとシステムが判断した場合は、ブザーおよび表示による警報で注意を促します。
- ナビ協調機能の減速により車速が約24km/hを下回った場合、インテリジェントクルーズコントロールは自動的に解除されます。（ナビ協調機能による減速制御も解除されます）
- この機能はナビゲーションシステムからのカーブ情報を利用しているため、ナビゲーションシステムの位置検出が正しく行えない状況や、ナビゲーションシステムの地図にない道路を走行しているとき、車線規制や工事などで、ナビゲーションシステムの地図情報と実際の道路形状が異なっているときなどには、制御や警報のタイミングがずれたり、適切に制御や警報を行えない場合があります。周囲の状況に十分注意し、必要に応じてブレーキまたはアクセル操作を行って走行してください。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

ON／OFFのしかた

ナビゲーションシステムで次の操作をすると、ナビ協調システムのON／OFFが切り替わります。

MENU ⇒ 運転支援 ⇒ インテリジェントクルーズコントロール ⇒ ナビ協調機能

注意

- ナビ協調機能を使用しないときは、設定をOFFにしてください。
- 設定をOFFにした場合、ナビ協調機能による制御も警報も行いません。ナビ協調機能を作動させたいときは、設定をONに戻してください。

知識

- ナビ協調機能のON･OFF設定は、ハイブリッドシステムを停止しても、再度設定を変更するまで、その状態が維持されます。

ナビ協調機能の作動

制限対象となるカーブを検出しているとき

前方のカーブの大きさに応じて緩やかに減速します。
（メーター内のディスプレイにナビ協調機能表示①が白色で表示されます。）

制御対象となるカーブを検出しなくなったとき

カーブ路を出て直線路になると、再びセット車速までゆっくりと加速し、定速走行します。
（メーター内のディスプレイのナビ協調機能表示①が消灯します。）

00:00AM 00.0℃
①
D 000000 km
STANDARD 0000.0 A

⚠ 注意

- ナビ協調機能は、ルートガイド中のルート上を走行している場合にのみ作動します。ルートガイドを開始していないときや、ガイド中のルートと異なる道路を走行している場合、ナビ協調機能は作動しません。
- ナビ協調機能作動中に先行車を検出した場合は、先行車に対する車間制御を優先するため、ナビ協調機能は作動しません。（ナビ協調機能表示が消灯します。）
機能によって制御内容が異なりますので、作動中の機能をメーター内のディスプレイの表示で必ず確認してください。
- ナビ協調機能の減速により車速が約24km/hを下回った場合、インテリジェントクルーズコントロールは自動的に解除されます。（ナビ協調機能による減速制御も解除されます。）
- アクセルペダルを踏んでいるときは、ナビ協調制御によるブレーキ制御も警報も行いません。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

知識

- ナビ協調機能の制御によりブレーキが作動したときは、自車の制動灯が点灯します。
- 設定車速までの加速中に、減速対象となるカーブを新たに検出すると、再び減速制御を行います。
- 設定車速までは機能の制御によって加速しますが、すばやく加速したいときはアクセルペダルを踏んで加速してください。

ナビ協調機能（インテリジェントクルーズコントロール）★

警告表示

- 次の場合は、ブザーが“ピッ、ピッ、ピッ、ピッ…”と鳴り、メーター内のディスプレイのナビ協調機能表示がオレンジ色で表示されます。
  - ナビ協調機能により十分に減速できないとシステムが判断した場合

  この場合は、ブレーキを踏んで減速し、適切な車速で走行してください。

00:00 AM 00.0 ℃
D 000000 km
STANDARD 0000.0 A

定速制御機能（インテリジェントクルーズコントロール）★

定速制御機能を使用すると、セレクトレバーが D またはマニュアルモードのとき、アクセルペダルを踏まなくても、一定の速度で走行することができます。
約40km/h～100km/hの間で任意の速度にセットできます。

定速制御機能の注意事項

注意

- 定速制御中は車間制御を行わないため、ブレーキ操作も警報も行いません。
  先行車との車間距離、周囲の状況に応じてブレーキペダルを踏んで減速するなどして車間距離を確保し、安全運転に心がけてください。
- 次のような状況では、思わぬ事故につながるおそれがありますので、定速制御機能を使わないでください。
  - **交通量の多い道や急カーブのある道**
    交通状況にあった速度で走行できないため事故につながるおそれがあります。
  - **凍結路や積雪路など滑りやすい路面**
    タイヤが空転し、車のコントロールを失うおそれがあります。
  - **急な下り坂**
    急な下り坂ではエンジンブレーキが十分効かないため、セットした速度を超えてしまい、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ステアリングスイッチ（定速制御機能）

① メインスイッチ
定速制御機能のON･OFFができます。

② SET-（下押し）
定速制御機能のセットができます。
設定車速を下げることができます。

③ RES+（上押し）
定速制御機能を解除後、解除前の設定車速に再びセットすることができます。
設定車速を上げることができます。

④ キャンセルスイッチ
定速制御機能の解除ができます。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

アドバンスドドライブアシストディスプレイ

① インテリジェントクルーズコントロール警告灯
システムの作動状態を色で表示します。
白色:
メインスイッチを押し、システムがONになると表示します。
緑色:
車速を設定すると表示します。
オレンジ色:
システムが故障すると表示します。

② 設定車速表示
設定した車速を表示します。

60
km/h
②
①

セットのしかた

1	メインスイッチを1.5秒以上押して定速制御機能をONにします。 （クルーズ表示灯、設定車速表示が点灯し、セット待機状態になります。）	
2	設定したい車速まで加速又は減速します。	
3	SET-（下押し）に押します。 ・スイッチを押したときの車速が設定車速になります。 （設定車速が表示）	
4	制御を開始します。	

⚠ 注意

- 定速制御機能を使用しないときは、メインスイッチをOFFにしてください。
  誤ってスイッチを押してしまった場合、定速制御機能がセットされてしまい思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

- 定速で走行中、アクセルペダルを踏むと加速しますが、アクセルペダルを戻すとセットした速度で定速走行に戻ります。
- インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）がONの場合は、メインスイッチを1.5秒以上押し続けても、定速制御機能には切り替わりません。定速制御機能を使用するときは、インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）を一旦OFFにし、再度①から操作し直してください。
  ➔ インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）★(P.208)

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

設定車速の変えかた

定速走行中に次の操作をします。

■ ペダルで変えるとき

① アクセルペダルまたはブレーキペダルを踏み、速度を変えます。
② 希望の速度になったら、SET-（下押し）に押します。

■ ステアリングスイッチで変えるとき

設定車速を上げたいとき

① RES+（上押し）に押し続けると加速します。
② 希望の速度になったら、手を離します。

設定車速を下げたいとき

① SET-（下押し）に押し続けると減速します。
② 希望の速度になったら、手を離します。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

■ 一時的に加速、減速をしたいとき

加速したいとき

● アクセルペダルを踏むと、加速します。

減速したいとき

● ブレーキペダルを踏むと、減速（制御が解除）します。

■ もう一度、定速走行に戻したいとき

解除前の設定車速で再びセットしたいときは、RES+（上押し）に押します。
（車速が約40～100km/hのとき戻せます。）

解除のしかた

- 次の操作で定速制御機能が解除されます。
  - キャンセルスイッチを押す
  - メインスイッチを押す
  - ブレーキペダルを踏む
- 次の場合は“ピー”というブザー音とともに制御が自動的に解除されます。
  - 車速が約30km/h以下になったとき
  - 設定車速より約13km/h以上車速が低下したとき
  - セレクトレバーを D またはマニュアルモード以外にしたとき
  - VDC（トラクションコントロールを含む）が作動したとき
  - タイヤが空転したとき

ブレーキペダル

知識

- キャンセルスイッチで解除したときやブレーキペダルを踏んで解除したときは、セット待機状態になります。

インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）★

インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）は、先行車との車間距離や相対速度に応じてブレーキを制御するとともに、アクセルペダルを踏んでいる場合には、アクセルペダルを押し戻す力を発生させることで、運転者の車間距離維持操作を支援するシステムです。

ナビ協調機能

- ナビゲーションシステムからの情報をもとに前方のカーブの大きさに応じてブレーキを制御するとともに、アクセルペダルを踏んでいる場合には、アクセルペダルを押し戻す力を発生させることで、運転者の減速操作の支援を行います。

インテリジェントペダルについて

一定速走行するとき、加速したいとき

- 運転者自身がアクセルペダルを踏んで走行します。

追従走行中の先行車に近づいたとき

- 運転者がアクセルペダルを戻すと、システムが滑らかにブレーキをかけて減速します。また先行車両が停止したときには、自車もそれに応じて停止します。
- 運転者がアクセルペダルを踏んだままの場合は、システムがペダルを押し戻す方向に力を発生させ、アクセルペダルを戻す操作を支援します。

運転者によるブレーキ操作が必要だとシステムが判断したとき

- ブザーと表示で注意を促すとともに、運転者がアクセルペダルを踏んだままのときは、アクセルペダルを押し戻す力を発生させ、運転者がアクセルペダルからブレーキペダルへ踏み替える操作を支援します。

先行者が一定速度で走行してる場合	先行車が加速した場合
運転者のアクセル操作により走行します。	運転者のアクセル操作により加速します。
先行車に近づいた場合	**運転者によるブレーキ操作が必要だと判断した場合**
運転者のアクセルを戻すと減速します。 アクセル踏んだままの場合は、ペダルを押し戻す力を発生させ、アクセルを戻す操作を支援します。	ブザーと表示で注意を促すとともに、アクセルを踏んだままの場合は、ペダルを押し戻す力を発生させ、ブレーキへの踏み替え操作を支援します。

⚠注意

- システムにより停止までブレーキ制御を行いますが、停止状態を保持する機能はありません。自車が停止したとシステムが判断すると、ブザー音とともにブレーキ制御が解除され、クリープ現象によりゆっくりと車両が動き出します。停止状態を保持するためのブレーキ操作は、必ず運転者が行ってください。
- アクセルペダルを踏んでいるときは、システムの制御によるブレーキ操作は行いません。
- インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）には限界がありますので、機能を過信しないでください。脇見運転やぼんやり運転などの前方不注意および雨·霧などの視界不良を補助するものではありません。また、追突を防止する機能はありません。
- インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）の減速能力には限界がありますので、自車の前へ他車が割り込んだときや先行車が急ブレーキをかけたとき、先行車との車間距離が十分でないとき、下り坂で追従走行しているときなどは、十分に減速できず先行車に接近

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

注意

することがあります。
先行車との車間距離、周囲の状況に応じてブレーキペダルを踏んで減速するなどして車間距離を確保し、安全運転に心がけてください。

- 先行車が停止した場合、インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）によるブレーキ制御により停止まで制御を行いますが、状況（先行車との車間距離が短いときや、下り坂を走行しているときなど）により停止できないことがあります。このような場合には、停止させるためのブレーキ操作を、必ず運転者が行ってください。
- 次のような状況では、思わぬ事故につながるおそれがありますので、インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）を使わないでください。
  - **凍結路や積雪路など滑りやすい路面**
  - **悪天候（雨、霧、雪など）のとき**
    先行車との車間距離が正確に検出できない場合があります
  - **センサー部に雨滴、雪などが付着しているとき**
    先行車との車間距離が正確に検出できない場合があります
  - **急な下り坂**
    先行車を検出していてブレーキ制御をしている場合、ブレーキが過熱してしまうおそれがあります
  - **急なカーブ、急な上り坂、下り坂が繰り返される道**
    先行車を正確に検出できず、先行車に近づきすぎて思わぬ事故につながるおそれがあります
- 思わぬ事故につながるおそれがありますので、 インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）を使用しない場合はシステムをOFFにしてください。
- 停止中の車両や自車速より極端に遅い車両に対しては、インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）による制御も接近警報も行いません。料金所や渋滞の最後尾で停車中の車両や極端に速度の遅い車両などには十分注意してください。
- 急な割り込み車両、歩行者や自転車などの車両以外のものに対しては、制御又は接近警報を行いません。
- 次の場合には、先行車を正確に検出できず、車間距離が適切に保てなくなる場合があります。周囲の状況に十分注意し、必要に応じてブレーキ操作をしてください。
  - 先行車や他車線の車が路上の水や雪などを巻き上げて走っているとき
  - 後席やトランク内に極端に重い荷物を積んだとき
  - 急な上り坂、下り坂が繰り返される道を走行しているとき
- 近距離ではセンサーの検出エリアが狭いため、自車線の端を走行する二輪車を検出できなかったり、間近に割り込んでくる先行車の検出が遅れたりして、適切な作動ができない場合があります。
- センサーの汚れを自動で判定する機能を備えておりますが、万全ではありません。状況によってはセンサーが汚れていても判定できない場合があります。また雪、氷などが付着したときも判定できない場合があります。このような状況では、適切な作動ができなくなるおそれがありますので、常に前方に注意して走行してください。また、レーダーセンサー部の周辺バンパーはいつもきれいにしておいてください。なお、汚れを判定した場合は、インテリジェント

注意

ペダル（ディスタンスコントロールアシスト）は自動的に作動を中止します。

- 道路形状（急な上り坂や下り坂、カーブ路、カーブの出入り口、車線規制や工事中などで車線の幅が狭くなっている道）や自車の状況（ハンドル操作、車線内の位置、事故や故障で走行が不安定な場合など）によっては、一時的に先行車を検出できなくなったり、隣の車線の車両や周辺のものを検出して制御したり、警報が作動する場合があります。また、一時的に先行車を検出できず、適切な作動ができなくなる場合があります。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

ステアリングスイッチ

● システムのON／OFFができます。

アドバンスドドライブアシストディスプレイ

アドバンスドドライブアシストディスプレイはメーター内にあります。

① インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）表示灯
システムの作動状態を色で表示します。
緑色点灯:
メインスイッチを押し、システムがONになると表示します。
黄色点滅:
システムが作動すると点滅します。
黄色点灯:
システムが故障すると点灯します。

② 先行車検出表示
先行車検出の有無をお知らせします。
点灯:
先行車を検出すると点灯します。
黄色点滅:
システムが作動すると点滅します。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

インテリジェントペダルの使いかた

① スイッチを押してシステムをONにします。
（表示が緑色に点灯します。）

② 車速が約5km/h以上になると、制御を開始します。

■ ON／OFFのしかた

ナビゲーションシステムで次の操作をすると、システムのON／OFFが切り替わります。

MENU ⇒ 運転支援 ⇒ 前方支援 ⇒ DCA（インテリジェントペダル）

知識

- ステアリングにあるスイッチを押すと、LDP（車線逸脱防止支援システム）、BSI（後側方衝突防止支援システム）、インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）のON／OFFを同時に切り替えることができます。
- ナビゲーションシステムのON／OFF設定は、ハイブリッドシステムを停止しても再度設定を変更するまで、その状態が維持されます。
  詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。
- ハイブリッドシステムを停止するとインテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）は自動的にOFFになります。

システムの作動

■ 先行車を検出したとき

● 先行車検出表示が点灯します。

■ 先行車に近づいたとき

● アクセルペダルを戻すと、インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）がブレーキをかけ減速します。先行車が停止した場合は、停止まで制御を行います。
● 運転者がアクセルペダルを踏んだままの場合は、インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）がペダルを押し戻し、アクセルペダルを戻す操作を支援します。

⚠ 注意

● 先行車検出表示が点灯していないときは、インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）による制御も警報も行いません。
● アクセルペダルの踏み方や踏み込み量により、アクセルペダルを押し戻す力が十分に発生できない場合があります。
● インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）の制御

⚠ 注意

により自車が停止したときは、“ピー”というブザー音とともにシステムは自動的に作動を中止します。（車速が再び約5km/hを上回ると、自動的に作動が復帰します。）

- 停止状態を保持する機能はありません。自車が停止したときは、ブレーキを踏んで車両を停止させてください。また、状況によって停止できない場合があります。必要に応じてブレーキを踏み、車両を停止させてください。

知識

- インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）の制御によりブレーキが作動したときは、自車の制動灯が点灯します。
- ブレーキが作動したとき、音がすることがありますが異常ではありません。

■ 運転者によるブレーキ操作が必要だとシステムが判断したとき

● メーター内のディスプレイの①および②を黄色に点滅させるとともにブザーを鳴らして警告を行います。
同時に、ブレーキペダルへの踏み替えを促すため、アクセルペダルが自動的に上向きに押し上げられます。
➔ ドライブコンピューター (P.272)

運転者操作時の作動

次の場合は運転者の操作を優先します。

● アクセルペダルを踏み増したとき
● ブレーキペダルを踏んでいるとき

⚠ 注意

● アクセルペダルを押し戻す力が発生（ペダル制御）しているときに、運転者がアクセルペダルを踏み増すと、ペダル制御を中止します。
● アクセルペダルを踏んでいるときは、インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）の制御によるブレーキ操作は行いません。
● ブレーキペダルを踏んでいるときは、インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）の

⚠ 注意

制御によるブレーキ操作も警報も行いません。
（先行車検出表示が消灯します。）

- インテリジェントクルーズコントロールをセットしたときは、インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）の作動が停止します。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

接近警報

先行車の減速度合いが大きい場合や他車の割り込みなどによって、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、次のようにブザーとメーター内のディスプレイの表示によって運転者に注意を促します。

- ブザーが“ピッ、ピッ、ピッ…”と鳴ります。
- メーター内のディスプレイの①および②が黄色に点滅します。

この場合は、ブレーキを踏んで減速し、適切な車間距離を確保してください。

⚠ 注意

- 警報ブザーが頻繁に鳴るような状況では、システムを使用しないでください。
- 短い車間距離でも、次の場合には警報が作動しないことがあります。
  - 先行車との相対速度が小さいとき（ほぼ同じ速度で走っているとき）
  - 先行車のほうが自車より早いとき（車間距離が次第に離れているとき）
  - 他車が至近距離に割り込んできたとき
- 料金所や渋滞の最後尾で停車中の車両や、自車速より極端に車速が遅い車両に対しては警報が作動しません。
- 道路形状（カーブ路、カーブの出入り口、車線規制や工事中などで車線の幅が狭くなっている道）や、自車及び周辺車両の状況（ハンドル操作、車線内の位置、事故や故障で走行が不安定な場合など）によっては、一時的に隣車線の車両Ⓐや、車道脇に設置されているⒶなどを検出して、接近警報が作動する場合があ

⚠ 注意

ります。

警告表示

- 次の場合は、“ピー”というブザー音とともにメーター内のディスプレイに「作動範囲外のため現在使用できません」と警告が表示され、インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）が自動的に解除されます。
  – ABS又はVDC（トラクションコントロールを含む）が作動したとき
  – VDCをOFFにしたとき
  – ドライブモードをSNOWにしたとき
  – タイヤが空転したとき
  システムを再び作動させる場合は、停止したときの状態が改善されてから、スイッチで再びONにしてください。
- 次の場合は、“ピー”というブザー音とともにメーター内のディスプレイに「フロントレーダーおよびその周辺が汚れています　拭いてください」　と表示され、警告灯が点灯し、自動的に作動が停止します。
  – センサー部が汚れ、車間距離の測定が困難になったとき
  システムを再び作動させる場合は、安全な場所に停車して、ハイブリッドシステムを一旦停止してレーダーセンサーおよびその周辺の汚れなどを取り除いてから再始動し、再びシステムをONにしてください。
- 次の場合は、“ピー”というブザー音とともにメーター内のディスプレイに「システム故障 取扱説明書を見てください」と警告が表示され、自動的に作動が停止します。
  – インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）に異常があるとき
  システムを再び作動させる場合は、安全な場所に停車して、ハイブリッドシステムを一旦停止して再始動し、再びシステムをONにしてください。

アドバイス

- システムをONにできない、または警告が表示し続けるときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

レーダーセンサーの取り扱い

レーダーセンサーの取り扱い (P.193)をお読みください。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

ナビ協調機能（インテリジェントペダル）★

ナビゲーションシステムからの情報をもとに前方のカーブの大きさに応じてブレーキを制御するとともに、アクセルペダルを踏んでいる場合には、アクセルペダルを押し戻す力を発生させることで、運転者の減速操作の支援を行う機能です。

作動条件

ナビ協調機能は、次の条件が全て満たされている場合に作動します。

- インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）を使用しているとき。（先行車を検出していないとき）
- ナビ協調機能がONのとき。ON／OFFのしかた (P.226)

走行状況	カーブ路に近づいたとき
例	カーブに近づいた場合は、運転者がアクセルを戻すと、カーブの大きさに応じて滑らかにブレーキをかけ減速します。 運転者がアクセルを踏んだままの場合には、アクセルペダルを押し戻す力を発生させ、運転者がアクセルペダルを戻す操作を支援します。

⚠ 注意

- ナビ協調機能は、前方のカーブの大きさに応じて、システムの減速能力の範囲内で減速するものであり、カーブを自動的に走行したり、法定速度を遵守した走行を支援するものではありません。
  法定速度を守り、安全にカーブを走行するためのブレーキ操作は、必ず運転者が行ってください。
- アクセルペダルを踏んでいるときは、システムの制御によるブレーキ操作は行いません。
- ナビ協調機能には限界があります。また、状況により作動しない場合がありますので、ナビ協調機能を過信しないでください。
  脇見運転やぼんやり運転などの前方不注意及び雨･霧などの視界不良を補助するものではありません。
  周囲の状況に十分注意し、安全運転に心がけてください。
- ナビ協調機能の減速能力には限界があります。十分に減速できないとシステムが判断した場合は、ブザー及び表示による警報で注意を促します。

⚠ 注意

- この機能はナビゲーションシステムからのカーブ情報を利用しているため、ナビゲーションシステムの位置検出が正しく行えない状況や、ナビゲーションシステムの地図に無い道路を走行しているとき、車線規制や工事などで、ナビゲーションシステムの地図情報と実際の道路形状が異なっているとき（詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください）、分岐路等前方に複数の道路がある場合には制御や警報のタイミングがずれたり、適切に制御や警報を行えない場合があります。周囲の状況に十分注意し、必要に応じてブレーキまたはアクセル操作を行って走行してください。
- カーブ走行路での運転支援を目的としているので、それ以外の道路（カーブと認識されないＴ字路や交差点）では作動しません。
- 道路形状（急な上り坂や下り坂のカーブ路など）によっては、制御や警報のタイミングがずれたり、適切に制御や警報を行えない場合があります。
- 次のような状況では、思わぬ事故につながるおそれがありますので、システムを使わないでください。
  - 凍結路や積雪路など滑りやすい路面
  - 急な下り坂でカーブが連続する道

  カーブを検出していてブレーキ制御をしている場合、ブレーキが加熱してしまうおそれがあります。
- 道路から自車マークが外れた状態から、道路上に戻ってきたあとしばらくの間は制御が作動しない場合があります。
  - 駐車場を出たあと
  - SA（サービスエリア）、PA（パーキングエリア）を出たあと
  - 地図にない道路を走行したあと

ナビ協調機能（インテリジェントペダル）★

ON／OFFのしかた

ナビゲーションシステムで次の操作をすると、システムのON／OFFが切り替わります。

MENU ⇒ 情報 ⇒ 運転支援 ⇒ 前方支援 ⇒ ナビ協調機能

⚠ 注意

- ナビ協調機能を使用しないときは、設定をOFFにしてください。
- 設定をOFFにした場合、ナビ協調機能による制御も警報も行いません。ナビ協調機能を作動させたいときは、設定をONに戻してください。

知識

- ナビ協調機能のON･OFF設定は、ハイブリッドシステムを停止しても、再度設定を変更するまで、その状態が維持されます。

ナビ協調機能（インテリジェントペダル）★

アドバンスドドライブアシストディスプレイ

①ナビ協調機能表示
制御対象となるカーブを検出している場合、表示します。

ナビ協調機能の作動

制御対象となるカーブを検出したとき

ナビ協調機能表示①が点灯します。

制御対象となるカーブに近づいたとき

- アクセルペダルを戻すと、システムがブレーキをかけて減速します。
- 運転者がアクセルペダルを踏んだままの場合は、システムがペダルを押し戻し、アクセルペダルを戻す操作を支援します。

①
00:00AM 00.0 ℃
D 000000 km
STANDARD 0000.0 A

知識

- 自車の推定進路は以下のように判定します。

ルートガイドを行っている場合

- ナビゲーションシステムのルートを進路と推定します。

ルートガイドを行っていない場合

- ナビゲーションシステムの自車マーク 前方道路を進路と推定します。
  また、分岐路の場合は以下のように進路方向の推定を行います。
- 道路種別による進路方向の推定
  例：国道と県道での分岐路の場合は、国道を進路方向として推定します。
- 道路種別が同様の場合は、みちなりの道路を進路方向として推定します。

運転車操作時の作動

次の場合は運転者の操作を優先します。

- アクセルペダルを踏み増ししたとき。
- ブレーキペダルを踏んでいるとき。

⚠ 注意

- アクセルペダルを押し戻す力が発生（ペダル制御）しているときに、運転者がアクセルペダルを踏み増すと、ペダル制御を中止します。
- アクセルペダルを踏んでいるときは、システムの制御によるブレーキ操作は行いません。
- ブレーキペダルを踏んでいるときは、システムの制御によるブレーキ操作も警報も行いません。（ナビ協調機能表示が消灯します。）
- インテリジェントクルーズコントロールをセットしたときは、インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）の作動が中止されるため、ナビ協調機能の作動も中止します。
- ナビ協調機能表示が点灯していないときは、システムによる制御も警報も行いません。
- ナビ協調機能作動中に先行車を検出した場合は、先行車に対する車間制御を優先するため、ナビ協調機能は作動しません。（ナビ協調機能表示が消灯します。）機能によって制御

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

ナビ協調機能（インテリジェントペダル）★

⚠ 注意

内容が異なりますので、作動中の機能をメーター内のディスプレイの表示で必ず確認してください。

知識

ナビ協調機能の制御によりブレーキが作動したときは、自車の制動灯が点灯します。

警告表示

● 次の場合は、ブザーが“ピッ、ピッ、ピッ、ピッ…”と鳴り、メーター内ディスプレイのナビ協調機能表示がオレンジ色で点滅表示されます。
– ナビ協調機能により十分に減速できないとシステムが判断した場合

この場合は、ブレーキを踏んで減速し、適切な車速で走行してください。

エマージェンシーブレーキ★

エマージェンシーブレーキは、前方の車両と衝突のおそれがあるとき、警報と自動ブレーキにより、運転者の衝突回避操作を支援します。

エマージェンシーブレーキについて

- エマージェンシーブレーキは車速約5km/h以上で作動します。
- フロントバンパー下部に取り付けられたレーダーセンサーにより前方の車両との距離を計測します。

レーダーセンサー

⚠ 警告

- エマージェンシーブレーキは、前方の車両との衝突回避操作を支援、または衝突時の被害の軽減を目的としています。あらゆる状況で効果があるわけではありませんので、機能を過信せず、運転者は周囲の安全確認を行い、前方車両との車間距離を維持し、常に安全運転を心がけて走行してください。

エマージェンシーブレーキ★

システムの作動

● システムが衝突するおそれがあると判断すると、メーター内のディスプレイの①および②がオレンジ色に点滅し、警報音とともに、自動的にブレーキをかけて衝突回避操作を促します。
アクセルペダルを踏んでいる場合には、アクセルペダルを押し戻す力を発生させ、ブレーキペダルへの踏み替え操作を支援します。

● 警報の後、運転者が素早く、強くブレーキを踏み込んだにもかかわらず衝突するおそれがあるときには、自動的に制動力を高めて衝突回避操作を支援します。

● 運転者の衝突回避操作が不十分で、衝突の危険性が高まったときには、メーター内のディスプレイに③を表示させるとともに警報音が鳴り、衝突の直前に自動的に急ブレーキを作動させ、衝突の回避または被害の軽減を行います。

00:00AM 00.0℃
①
②
D 000000km
STANDARD 0000.0 A

00:00AM 00.0℃
③
D 000000km
STANDARD 0000.0 A

知識

● 次の場合、システムによるブレーキの作動が解除されます。
  – アクセルペダルを強く踏み込んだとき
  – ハンドルを大きく、または素早くきったとき
  – 前方の車両と衝突の危険がなくなったと判断したとき

● システムによるブレーキで車両が停止したときは、車両が停止してから約2秒後にブレーキが自動的に解除されます。

● 運転者がハンドルやアクセル、ブレーキを操作している場合は、エマージェンシーブレーキの作動が遅れたり、作動しない場合があります。

● システムによるブレーキが作動しているときは、制動灯が点灯します。

● メーター内のディスプレイを「走行支援」に切り替えると、エマージェンシーブレーキの作動状態をドライブコンピューター内で確認することができます。➔ドライブコンピューター (P.272)

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

⚠ 注意

- 次のような障害物は検知しません。
  - 歩行者、自転車、動物
  - 対向車両
  - 前方を横切って通過する車両
- 次のような場合は、前方の車両を検知できないことがあります。
  - 悪天候（雨、雪、霧、風塵、砂塵、吹雪等）で視界が悪いとき
  - 前方の車両や対向車などにより水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき
  - 雪や氷、泥などがレーダーセンサー周辺に付着しているとき
  - 放送局など周辺の電波源により影響を受けているとき
  - オートバイのような幅が狭い車両が前方を走行しているとき
  - 急なカーブを走行しているとき
  - 勾配の変化があるところを走行しているとき
- 道路状況、交通状況などによっては、システムが不必要な警報を行い、アクセルペダルを押し戻したり、自動的にブレーキを作動してしまうことがあります。警報が行われた場合には、周囲の状況を確認し、加速が必要な場合はアクセルペダルを踏んでください。
- 次のような場合は、システムが機能を十分に発揮できないことがあります。
  - 滑りやすい路面を走行しているとき
  - 勾配のある路面を走行しているとき
  - 後席やトランク内に極端に重い荷物を積んでいるとき
- 状況によっては外部の騒音などにより、警報音が聞こえない場合があります。

エマージェンシーブレーキ★

■ ON／OFFのしかた

ナビゲーションシステムで次の操作をすると、システムのON／OFFが切り替わります。

MENU ⇒ 運転支援 ⇒ 緊急支援 ⇒ エマージェンシーブレーキ

エマージェンシーブレーキのシステムがOFFになると、エマージェンシーブレーキ警告灯が点灯します。

知識

- 詳しい操作方法は、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。
- ナビゲーションシステムの設定で機能をOFFにしても、一度電源ポジションをOFFにし、再度ハイブリッドシステムを始動すると自動的にONに切り替わります。
- エマージェンシーブレーキのON／OFFを切り替えると、PFCW（前方衝突予測警報）も連動してON／OFFされます。
  ➔ PFCW（前方衝突予測警報）★ (P.239)

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

警告表示

- 次の場合は、エマージェンシーブレーキ警告灯が点灯し、自動的に作動が停止します。
  - エマージェンシーブレーキの設定をOFFにしたとき
  - VDCをOFFにしたとき
  - 周辺の電波源の影響を受けているとき

  この場合は、停止したときの状態が改善または変更されるとシステムは自動的に作動を再開します。
- 次の場合は、メーター内のディスプレイに「アクセルペダルが高温のため使用できません」と表示され、警告灯が点灯し、自動的に作動が停止します
  - アクセルペダルを戻す力を発生させているモーターが高温になったとき

  モーターの温度が下がると、システムは自動的に作動を再開します。
- 次の場合は、メーター内のディスプレイに「フロントレーダーおよびその周辺が汚れています 拭いてください」と表示され、警告灯が点灯し、自動的に作動が停止します
  - フロントバンパーに取り付けられたレーダーセンサー周辺に雪や氷、泥などが付着したとき

  システムを再び作動させる場合は、安全な場所に停車して、ハイブリッドシステムを一旦停止してレーダーセンサーおよびその周辺の汚れなどを取り除いてから再始動し、再びエマージェンシーブレーキのシステムをONにしてください。
- 次の場合は、メーター内のディスプレイに「システム故障 取扱説明書を見て下さい」と表示され、警告灯が点灯し、自動的に作動が停止します
  - エマージェンシーブレーキシステムに異常があるとき

  システムを再び作動させる場合は、安全な場所に停車して、ハイブリッドシステムを一旦停止して再始動し、再びエマージェンシーブレーキのシステムをONにしてください。

エマージェンシーブレーキ★

アドバイス

- エマージェンシーブレーキをONにできない、または警告が表示し続けるときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

レーダーセンサーの取り扱い

➔ レーダーセンサーの取り扱い (P.193)を
お読みください。

PFCW（前方衝突予測警報）★

前方を走行する2台前の車両を検知し、急な減速などにより、
自車の回避操作が必要と判断した場合には、警報によって運転者に注意を促します。

PFCW（前方衝突予測警報）について

- PFCW（前方衝突予測警報）は車速約5km/h以上で作動します。
- フロントバンパー下部に取り付けられたレーダーセンサーにより前方の2台前の車両との距離を計測します。

⚠ 警告

- PFCW（前方衝突予測警報）は前方を走行する２台前の車両の急な減速などを検知したとき運転者に警報を行いますが、衝突を回避する機能はありません。
- PFCW（前方衝突予測警報）は脇見運転やぼんやり運転などの前方不注意および雨、霧などの視界不良を補助するものではありません。前方の車両との車間距離、周囲の状態に応じてブレーキペダルを踏んで減速するなどして車間距離を確保し、安全運転を心がけてください。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

システムの作動

- 自車の回避操作が必要と判断すると、メーター内のディスプレイの①および②がオレンジ色に点滅するとともに警報音を鳴らして、運転者に注意を促します。

①
②
00:00AM 00.0℃
D 000000km
STANDARD 0000.0 A

⚠ 注意

- 次のような障害物は検知しません。
  - 歩行者、自転車、動物、道路上に落ちている障害物
  - 対向車両
  - 前方を横切って通過する車両
- 次のような場合は、前方の２台前の車両を検知できないことがあります。
  - 悪天候（雨、雪、霧、風塵、砂塵、吹雪等）で視界が悪いとき
  - 前方の車両や対向車などにより水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき
  - 雪や氷、泥などがレーダーセンサー周辺に付着しているとき
  - 放送局など周辺の電波源により影響を受けているとき
  - トンネル内を走行しているとき
  - 前方の車両が牽引を行っているとき

⚠ 注意

– 前方の車両との距離が極端に近いとき

– 急なカーブや、勾配の変化があるところを走行しているとき

⚠ 注意

- 前方の車両がオートバイのような幅の狭い車両のときは、前方の車両を検知できず、PFCW（前方衝突予測警報）により警報を行わないことがあります。

⚠ 注意

- 状況によっては外部の騒音などにより、警報音が聞こえない場合があります。

知識

- エマージェンシーブレーキのON／OFF を切り替えると、PFCW（前方衝突予測　警報）も連動してON／OFFされます。
➔ エマージェンシーブレーキ★ (P.232)

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

警告表示

- 次の場合、エマージェンシーブレーキ/PFCW（前方衝突予測警報）警告灯が点灯し、自動的に作動が停止します。
  - エマージェンシーブレーキの設定をOFFにしたとき
  - エマージェンシーブレーキが異常により作動を停止したとき
  - VDCをOFFにしたとき
  - 周辺の電波源の影響を受けているとき

  停止したときの状態が改善されるとシステムは自動的に作動を再開します。
- 次の場合、エマージェンシーブレーキ/PFCW（前方衝突予測警報）警告灯が点灯するとともにメーター内のディスプレイに「フロントレーダーおよびその周辺が汚れています」と警告が表示され、システムが自動的に停止します。
  - フロントバンパーに取り付けられたレーダーセンサー周辺に雪や氷、泥などが付着しているとき

  上記警告が表示されたときは、安全な場所に停車し、一度ハイブリッドシステムを停止してからレーダーセンサーおよびその周辺の汚れなどを取り除き、ハイブリッドシステムを再始動してください。
- 次の場合、エマージェンシーブレーキ／PFCW（前方衝突予測警報）警告灯が点灯するとともにメーター内のディスプレイに「システム故障 取扱説明書を見て下さい」と警告が表示され、システムが自動的に停止します。
  - PFCW（前方衝突予測警報）に異常があるとき

  上記警告が表示されたときは、安全な場所に停車し、一度ハイブリッドシステムを停止してから再始動してください。

アドバイス

- システムをONにできない、または警告が表示し続けるときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

PFCW（前方衝突予測警報）★

レーダーセンサーの取り扱い

➔ レーダーセンサーの取り扱い (P.193)をお読みください。

エマージェンシーストップシグナル

エマージェンシーストップシグナルは、急ブレーキを踏んだとき、後続車に追突される可能性を低減させるため、制動灯を点滅させて後方へ急ブレーキを知らせます。

エマージェンシーストップシグナルについて

- 60km/h以上の速度で走行中、急ブレーキを踏むと作動します。
- 次の場合は作動が停止します。
  - ブレーキペダルから足を離したとき
  - ブレーキペダルを踏んでいても急ブレーキではなくなったとき
  - 非常点滅表示灯をONにしたとき

ECOペダル★

ECOペダルは、アクセルペダル操作に応じてアクセルペダルの踏力を少し重くすることで、エコドライブをサポートするシステムです。

ECOペダルについて

- ドライブモードセレクターでドライブモードをECOにして走行中に、ECOペダルが作動します。
  ➔ モードの切り替えかた (P.99)
- ECOペダルインジケーター（➔P.99）と連動して作動します。

アクセルペダル踏み込み状態	なし<停車時>	エコ運転領域内	エコ運転領域を超えそうなとき	エコ運転領域を超えたとき
ECOドライブインジケーター表示	<消灯>	ECO（緑色点灯）	ECO（緑色点滅）	<消灯>
ECOペダルの作動				

知識

- 次の場合にはECOペダルは作動しません。
  - セレクトレバーがNまたはRのとき
  - インテリジェントクルーズコントロール★が作動しているとき
- ECOペダルの反力はアクセルペダル操作を妨げるものではありません。加速が必要な場合は通常通り加速することができます。
- ECOペダル反力発生中にドライブモードセレクターをECOモードから他のモードに切り替えた場合は、一旦、アクセルペダルから足を離すまでECOペダル反力を保持します。
- すばやくアクセルペダルを踏み込んだ場合は、ECOペダル反力は発生しません。
- 故障が原因でECOペダル反力を発生できない場合は、ECOペダル制御が中止されますが、通常のアクセルペダルとして走行することができます。

ECOペダル反力調整機能

ナビゲーションシステムでECOペダルの強さを調整することができます。
詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。

知識

- ECOペダルの反力設定はハイブリッドシステムを停止しても、再度設定を変更するまで維持されます。
- ECOペダルをOFFに設定した場合は、ECOペダル制御を停止し、通常のアクセルペダルとして使用できます。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

ABS（アンチロックブレーキシステム）

ABSとは急ブレーキ時や滑りやすい路面でのブレーキ時に、タイヤのロックを防止して、車両の安定性を向上させると共にハンドル操作による障害物回避をしやすくするシステムです。

ABSについて

急ブレーキを踏まなければいけないような状況に陥らないよう、安全運転を心がけることが大切です。万一の危険な状況では次のようにしてください。

- 危険だと感じたら、ためらわず思い切りブレーキペダルを踏み込んでください。
- ABSが作動すると、ブレーキペダルに振動が伝わったり、作動音が聞こえたりします。これはABSの正常な作動によるものです。そのままブレーキペダルを踏み続けてください。
- 障害物回避の際には、ブレーキペダルを踏みながらハンドル操作をしてください。
- 電源ポジションをONにしたときや、始動後最初の発進時に、エンジンルームから音が聞こえることがありますが、これはシステムの作動をチェックしている音で異常ではありません。

なお、車両を確実に停止させるため、ABSは低速では作動しません。路面の状況により異なりますが約10km/h以下では作動しません。

⚠ 警告

- ABSはあくまでも運転者のブレーキ操作を補助するシステムです。ABSの付いていない車と同様に、カーブの手前では十分な減速が必要です。早め早めの操作で安全運転をしてください。
- ABSはブレーキ時の車両の安定性、操舵性を確保しようとするための装置で、制動距離が短くなるとは限りません。でこぼこ道、じゃり道、積雪路などでは、ABSの付いていない車より制動距離が長くなることがあります。このような道を走行するときは、特に速度を控えめにし、車間距離を十分とって運転してください。
- ABSは各車輪の回転速度をセンサーで検出しています。タイヤ交換時は、必ず指定サイズのタイヤを4輪に装着してください。指定サイズ以外ではABSが正常に作動しなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

メーター

メーターの見かた

警告灯･表示灯

アドバンスドドライブアシストディスプレイの見かた

各部名称と機能

タコメーター（エンジン回転計）

スピードメーター（速度計）

HEVパワー計

アドバンスドドライブアシスト
ディスプレイ

燃料計

スピードメーター（速度計）

走行速度を表示します。

知識

- メーター演出がONのときは、ハイブリッドシステムを始動すると指針がスイープ動作（スピードメーターおよびタコメーターの指針が一度最大値付近を指し戻る）します。
- 電源ポジションをOFFにしてからしばらくして指針が振れることがありますが故障ではありません。

タコメーター（エンジン回転計）

1分間あたりのエンジン回転数を表示します。

注意

- レッドゾーン（赤色表示部）に入らないように運転してください。レッドゾーンではエンジンが過回転となり故障の原因になります。

燃料計

燃料の残量を表示します。

- 燃料タンクの容量は約70ℓです。

知識

- 坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、表示が振れることがあります。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

HEVパワー計

モーターの状態を表示します。

- 針が目盛りの中心から右側にあるときは、モーターが駆動している状態であることを示しています。
- 針が目盛りの中心から左側にあるときは、モーターが発電している状態であることを示しています。

アドバンスドドライブアシストディスプレイ

電源ポジションがONのとき、次の項目を表示します。

- ➔ オドメーター（積算距離計）／トリップメーター（区間距離計）(P.268)
- ➔ ポジションインジケーター (P.269)
- ➔ ドライブモードセレクター表示 (P.269)
- ➔ 時計 (P.270)
- ➔ 外気温計 (P.270)
- ➔ ITS統合インジケーター★ (P.271)
- ➔ インテリジェントクルーズコントロール表示★ (P.271)
- ➔ クルーズコントロール表示★ (P.272)
- ➔ ドライブコンピューター (P.272)
- ➔ ドライブインジケーター (P.278)

イルミネーションコントロール

自動調節

電源ポジションがONでライトが点灯しているとき、車外の明るさに応じて照明の明るさを自動的に調節します。

ライト	車外の明るさ	照明の明るさ
消灯	-	明
点灯	明るいとき	明
	暗いとき	暗

手動調節

電源ポジションがONのとき調節できます。

- スイッチを押して調節します。
- 明るさのレベル表示は、メーター内のディスプレイに表示されます。

明るくする
暗くする

アドバイス

- センサーの上に物を置いたり、ガラスクリーナーなどを吹きかけないでください。センサーの感度が低下し、正常に作動しなくなります。

オートライト用センサー

知識

- 12Vバッテリーを外すと調節した記憶は消去されます。
- 照明の明るさを、明るいときと暗いときそれぞれに調節できます。調節した内容は自動的に記憶します。

警告灯の表示位置

シートベルト警告灯
VDC警告灯
パワーステアリング警告灯
マスターウォーニング
ブレーキシステム警告灯（黄色）
SRSエアバッグ警告灯
ハイブリッドシステム警告灯
燃料残量警告灯
FWF
1/2
1
故障警告灯(MIL)
12V系充電警告灯
タイヤ空気圧警告灯
ブレーキ警告灯（赤色）
ABS警告灯
ポップアップエンジンフード警告灯
エマージェンシーブレーキ警告灯

警告灯

警告灯が点灯または点滅したときは、すみやかに適切な処置をしてください。
放置すると故障や思わぬ事故につながるおそれがあります。
メーター内の装備は、車種、グレードなどの違いにより異なります。

名称	点灯･点滅する条件	説明･対処方法
故障警告灯 （MIL）	● 正常なときは、電源ポジションをONにすると点灯し、ハイブリッドシステムが始動すると消灯します。 ● 電源ポジションがONのとき、エンジン電子制御システムに異常があると点灯または点滅します。	● 点灯または点滅したときは、すみやかに安全な場所に停車し、日産販売会社に連絡してください。
12V系充電 警告灯	● 正常なときは、電源ポジションをONにすると点灯し、ハイブリッドシステムが始動すると消灯します。 ● 電源ポジションがONのとき、12Vバッテリーの充電系統に異常があると点灯します。	● 点灯したときは、すみやかに安全な場所に停車し、日産販売会社に連絡してください。 ⚠ 注意 ● 12V系充電警告灯が点灯したまま走行しないでください。エンジンが不意に停止するなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

名称	点灯･点滅する条件	説明･対処方法
ブレーキ警告灯 （赤色）	● 正常なときは、電源ポジションをONにすると点灯し、数秒後に消灯します。（パーキングブレーキをかけているときは消灯しません） ● 電源ポジションがONのとき、次の場合に点灯します。 – パーキングブレーキをかけたとき – ブレーキ液が不足しているとき – ブレーキシステムに異常があるとき	● パーキングブレーキがかかっているときは、パーキングブレーキを解除します。 ● パーキングブレーキを解除しても点灯するときは、ただちに安全な場所に停車して、日産販売会社に連絡してください。ブレーキの効きが悪いときは、ブレーキペダルを強く踏んで停車してください。 ● ブレーキ液が正常でABS警告灯と同時に点灯したときは、高速走行や急ブレーキを避け、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。 警告 ● ハイブリッドシステム始動後でパーキングブレーキを解除しても、ブレーキ警告灯（赤色）が点灯し続けるときは、走行しないでください。ブレーキの効きが極度に悪くなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。 知識 ● ブレーキシステム警告灯（黄色）と同時に点灯するとブザーが鳴ります。

メーター

名称	点灯·点滅する条件	説明·対処方法
ブレーキシステム警告灯（黄色）	● 正常なときは、電源ポジションをONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● 電源ポジションがONのとき、次の機能に異常があると点灯します。 – ブレーキシステム – 回生協調ブレーキ – ヒルスタートアシスト – ブレーキ効き感向上機能 ➔ 回生協調ブレーキについて (P.110) ➔ ヒルスタートアシスト (P.111) ➔ ブレーキ効き感向上機能 (P.103)	● パーキングブレーキを解除し、ブレーキ液量が正常でブレーキ警告灯（赤色）と同時に点灯したときは、ただちに安全な場所に停車して、日産販売会社に連絡してください。このときは、ブレーキの効きが極度に悪くなっているおそれがあります。ブレーキの効きが悪いときは、ブレーキペダルを強く踏んで停車してください。 ● ブレーキ警告灯（赤色）と同時に点灯していないときは、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。 アドバイス ● ブレーキシステム警告灯（黄色）が点灯しているときは、回生ブレーキが作動しませんが、通常のブレーキ性能は確保されています。 知識 ● ブレーキシステムの電源系統に異常があるときは、ブザーが鳴ります。
ABS警告灯	● 正常なときは、電源ポジションをONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● ABSのシステムに異常があると点灯します。	● 電源ポジションをONにしても点灯しないとき、または点灯し続けるときは、高速走行や急ブレーキを避け、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。 アドバイス ● ABS警告灯が点灯したときは、ABSは作動しませんが、通常のブレーキ性能は確保されています。この場合、滑りやすい路面でのブレーキ時や急ブレーキ時にタイヤがロックすることがあります。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
シートベルト 警告灯	● 電源ポジションがONのとき、シートベルトを着用していないと点灯します。 ● 点灯したまま走行すると、シートベルト非着用警報（シートベルトリマインダー）が鳴ります。 ● シートベルト警告灯は各座席ごとに点灯し、後席のシートベルト警告灯は、前席灰皿の上部にあります。 ● 後席シートベルトを外すと前席灰皿上部の警告灯の点灯と合わせてメーター内のディスプレイに警告表示します。 ➔ アドバンスドドライブアシストディスプレイの見かた (P.267)	● シートベルトを着用してください。 ⚠ 警告 ● 走行中は全員がシートベルトを着用してください。着用しないと、万一の事故時や急ブレーキ時に、死亡や重大な傷害につながるおそれがあります。 シートベルト非着用警報（シートベルトリマインダー） ● 運転者がシートベルトを着用していない状態で走行すると（約15km/h以上）、約95秒間ブザーが鳴ります。
燃料残量 警告灯	● 電源ポジションがONのとき、燃料の残量が少ないと点灯します。	● すみやかに指定の燃料を補給してください。 知識 ● 燃料の残量が約12ℓ以下で点灯します。 なお、走行に使用できる燃料容量は、上記残量より若干少なくなります。 ● 燃料切れでエンジンが停止したときは、15ℓ以上給油してください。給油量が15ℓ未満の場合、システムが燃料切れと判断してハイブリッドシステムが始動できない場合があります。 ● 車両姿勢、走行状況などによっては燃料がタンク内で移動するため、警告灯の点灯するタイミングが変わる場合があります。

名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
SRSエアバッグ警告灯	● 正常なときは、電源ポジションをONにすると点灯し、約7秒後に消灯します。 ● 電源ポジションがONのとき、SRSエアバッグのシステム、プリテンショナー機能に異常があると、点灯または点滅を続けます。	● すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。 ⚠ 警告 ● 電源ポジションをONにしても点灯しないときや、点灯または点滅を続けるときは、放置したまま走行しないでください。万一のときSRSエアバッグ、プリテンショナーシートベルトが作動せず、重大な傷害につながるおそれがあります。
VDC警告灯	● 正常なときは、電源ポジションをONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● VDC作動中に点滅します。 ● 電源ポジションがONのとき、次のシステムに異常があると点灯します。 － VDC － 左右制動力分配機能 － ブレーキアシスト機能	● 点灯中は、左記のシステムの作動は停止しますが、それらのシステムのない普通の車として走行できます。滑りやすい路面では注意して走行し、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。
ポップアップエンジンフード警告灯	● 正常なときは、電源ポジションをONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● 電源ポジションがONのとき、ポップアップエンジンフードの電子制御システムに異常があると点灯します。	● 電源ポジションをONにしても点灯しないとき、または点灯し続けるときは、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。 ⚠ 警告 ● 電源ポジションをONにしても点灯しないときや、点灯を続けるときは、放置したままで走行しないでください。 万一のときポップアップエンジンフードが正常に作動せず、歩行者の頭部への衝撃を緩和できないおそれがあります。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

名称	点灯･点滅する条件	説明･対処方法
パワーステアリング警告灯	● 正常なときは、電源ポジションをONにすると点灯し、ハイブリッドシステムが始動すると消灯します。 ● パワーステアリングのシステムに異常があると点灯します。	● すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。 ● 点灯しているときは、パワーステアリングは作動しませんが、マニュアルステアリングの性能は確保されています。この場合は、ハンドルの操作力が重くなります。 アドバイス ● ハンドルに長時間力をかけた状態が続いたり停車中に操作を繰り返すと、システムの過熱を防ぐためハンドル操作力が重くなりますが、異常ではありません。しばらくハンドル操作を控え、システムの温度が下がると、通常のハンドル操作力に戻ります。 ● システムが過熱するような操作を繰り返すと故障の原因になります。 知識 ● すばやいハンドル操作を行うと、ハンドル付近から擦れるような音が聞こえてくることがありますが、異常ではありません。
ハイブリッドシステム警告灯	● 正常なときは、電源ポジションをONにすると点灯し、ハイブリッドシステムが始動すると消灯します。 ● モーターや高電圧システムなどに異常が発生すると点灯します。 ● 走行中にリチウムイオンバッテリーの残量が低下し、走行できなくなるおそれがあると点滅します。	● 点灯したときは、すみやかに安全な場所に停車し、日産販売会社に連絡してください。 ● 点滅したときは、ブレーキを踏みすみやかに安全な場所に停車してください。点滅が消えたあとは、走行可能な状態になります。

<table>
<tr><th>名称</th><th>点灯·点滅する条件</th><th>説明·対処方法</th></tr>
<tr><td>タイヤ空気圧
警告灯</td><td>● 正常なときは、電源ポジションをONにすると点灯し、数秒後に消灯します。
● タイヤ空気圧警報システムに異常があると、約１分間点滅したあと点灯します。
● タイヤ空気圧が低下すると点灯し、メーター内のディスプレイに警告が表示されます。
● タイヤがパンクすると点灯し、メーター内のディスプレイに警告が表示され、タイヤ空気圧警報が約10秒間鳴ります。</td><td>● タイヤ空気圧警報システムに異常があったときは、日産販売会社で点検を受けてください。
● タイヤ空気圧が低下したときは、安全な場所に停車し、タイヤを確認してください。
● パンクではなく、タイヤ空気圧が低下しているときは、指定の空気圧に調整してください。
➔ タイヤ空気圧の点検 (P.398)
● タイヤがパンクしたときは、すみやかに日産販売店で点検を受けてください。
● タイヤ空気圧の調整後は、必ずシステムのリセット操作をしてください。
➔ タイヤ空気圧警報システム (P.402)
知識
● 高速走行時はタイヤ空気圧警告灯が約1分間点滅したあと点灯することがありますが、減速して消灯すれば故障ではありません。</td></tr>
</table>

名称	点灯·点滅する条件	説明·対処方法
エマージェンシーブレーキ警告灯★	● 正常なときは、電源ポジションをONにすると点灯し、ハイブリッドシステムが始動すると消灯します。 ● ハイブリッドシステムを始動しても点灯し続けるときは、次のことが考えられます。 – ナビゲーションシステムで、エマージェンシーブレーキをOFFにしている – VDCをOFFにしている – VDCが作動したとき – 周辺の電波源の影響を受けているとき – センサーの汚れなどで、エマージェンシーブレーキが一時的に作動できない状態になっている – エマージェンシーブレーキのシステムに異常が発生している	● ナビゲーションシステムでエマージェンシーブレーキをONにすると消灯します。 ● 一時的に作動できない状態になっていないか確認してください。 ➔ エマージェンシーブレーキ★ (P.232) ● VDCをONにしてください。 ➔ VDC（ビークルダイナミクスコントロール）(P.101) ● 上記のことを確認しても点灯しているときは、日産販売会社で点検を受けてください。
マスターウォーニング	● メーターのディスプレイに警告メッセージが表示されたときに同時に点灯します。	● 警告メッセージを確認し、それぞれの対処方法に従ってください。 ● 警告が表示されたときは、すみやかに適切な処置をしてください。放置すると故障や思わぬ事故につながるおそれがあります。

表示灯の表示位置

VDC OFF表示灯

車両接近灯通報音
一時停止表示灯

ハイビームアシスト表示灯

低水温表示灯

EV表示灯

テールランプ表示灯

ヘッドランプ上向き表示灯

方向指示表示灯

ECOペダルインジケーター

走行可能表示灯

セキュリティーインジケーター

フォグランプ表示灯

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

表示灯

メーター内の装備は、車種、グレードなどの違いにより異なります。

名称	点灯･点滅する条件	説明･対処方法
方向指示表示灯	● 方向指示器または非常点滅表示灯を作動させると点滅します。	● 方向指示器の電球（バルブ）が切れたときは点滅が速くなります。電球を交換してください。
ヘッドランプ上向き表示灯	● ヘッドランプの上向きを点灯させると点灯します。	➔ ヘッドライトの上向き、下向き切り替え (P.330)
テールランプ表示灯	● 車幅灯、尾灯、番号灯を点灯させると点灯します。	➔ ライトの点灯･消灯 (P.324)
フォグランプ表示灯	● フォグランプを点灯させると点灯します。	➔ フォグランプの点灯･消灯 (P.330)
ハイビームアシスト表示灯★	● ハイビームアシストがONのときヘッドライトが点灯していると、ヘッドライトの上向き、下向きにかかわらず点灯します。	➔ ハイビームアシスト★について (P.328)

表示灯

名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
VDC OFF表示灯	● 正常なときは、電源ポジションをONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● VDC OFFスイッチを押すと点灯します。	➔ VDC（ビークルダイナミクスコントロール）（P.101）
セキュリティーインジケーター	● 電源ポジションがON以外のときに点滅します。 ➔ イモビライザー（盗難防止装置）（P.77）	● 電源ポジションをONにしたあとも点灯し続けるときは、システムの異常が考えられます。日産販売会社で点検を受けてください。
ECOペダルインジケーター	● ドライブモードセレクターでドライブモードをECOにして走行中に点灯または点滅します。	➔ ドライブモードセレクター（P.98） ➔ ECOペダル★（P.246）
低水温表示灯	● エンジン冷却水の温度が低いと点灯します。	アドバイス ● しばらく走行したあとも点灯し続けるときは、水温センサーの異常が考えられます。すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。
走行可能表示灯	● 電源ポジションがONのとき、走行できる状態になると、点灯します。（走行中も点灯し続けます。） ● ハイブリッドシステム始動時、走行可能な状態になるまで点滅します。	アドバイス ● 走行可能表示灯が点灯するまでは、セレクトレバーをPのままにしてください。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

表示灯

名称	点灯·点滅する条件	説明·対処方法
EV表示灯	● モーターのみで走行している間点灯します。	-
車両接近通報音一時停止表示灯	● 車両接近通報音一時停止スイッチを押すと点灯します。	➔ 車両接近通報装置 (P.113)

ディスプレイ表示について

時計
外気温計
ITS統合インジケーター
インテリジェントクルーズコントロール表示
クルーズコントロール表示
ドライブコンピューター
ドライブインジケーター
ポジションインジケーター
オドメーター（積算距離計）/
トリップメーター（区間距離計）
ドライブモードセレクター表示

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

オドメーター（積算距離計）／トリップメーター（区間距離計）

オドメーター（積算距離計）

- 総走行距離をkmでメーター内のディスプレイに表示します。

トリップメーター（区間距離計）

- [A]と[B]の2種類の区間走行距離をkmでメーター内のディスプレイに表示します。
- トリップ切り替えスイッチ①を押すごとに[A]と[B]が切り替わります。
- リセットするときは0にしたいほうを表示させ、トリップ切り替えスイッチ①を1秒以上押します。

知識

- 12Vバッテリーを外したときは、トリップメーターの[A]と[B]の記憶が消去され0に戻ります。

ポジションインジケーター

- セレクトレバーのセット位置をメーター内のディスプレイに表示します。

ドライブモードセレクター表示

- 現在のドライブモードセレクターのモードをメーター内のディスプレイに表示します。
  ➔ ドライブモードセレクター (P.98)

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

時計

- 時刻を表示します。
- 時刻はナビゲーションシステムの時計と連動しており、自動的に調整されます。
- ナビゲーションシステムで表示を切り替えることができます。
別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。

外気温計

外気温を表示します。

知識

- 外気温センサー取付部の温度を表示するため、実際の外気温とは異なることがあります。

ITS統合インジケーター★

次のシステムの作動状態を簡易的に表示します。

- LDP（車線逸脱防止支援システム）（➔P.122）
- LDW（車線逸脱警報）（➔P.130）
- BSI（後側方衝突防止支援システム）（➔P.133）
- BSW（後側方車両検知警報）（➔P.145）
- PFCW（前方衝突予測警報）（➔P.239）
- インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）（➔P.208）

インテリジェントクルーズコントロール表示★

インテリジェントクルーズコントロールの状態を表示します。

➔ インテリジェントクルーズコントロール★ (P.171)

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

クルーズコントロール表示★

クルーズコントロールの状態を表示します。

➔ クルーズコントロール★ (P.163)

00:00AM 00℃
100km/h
クルーズコントロール表示
D 000000km
STANDARD 0.0 A

ドライブコンピューター

- 電源ポジションをONにすると、選択スイッチ を押すごとに表示が切り替わります。
- ナビゲーション画面で、表示･非表示を切り替えることができます。
  詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。

画面の切り替えかた

RES＋
CANSEL
SET－
Ⓑ Ⓐ

① 航続可能距離
000 km

② 平均車速
0 km/h

③ ドライブ情報
走行距離
0.0 km
走行時間
0:00

④ エネルギーモニター

⑤ EVオドメーター
積算
0 km
トリップ
0.0 km

⑥ 水温計
C H

⑦ 燃費情報
平均 0.0 km/l
0 10 20 30

⑧ ナビゲーション
新高島
300m

⑨ オーディオ
FM
PRESET 1
84.7 MHz
FM YOKOHAMA

⑩ 走行支援
前方
車線
後側方

⑪ タイヤ空気圧
kPa
000 000
000 000

⑫ シャシー制御

⑬ ブランク画面

⑭ 警告メッセージ
（ドライブインジケーター）

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

車両情報

項目	概要	詳細説明
航続可能距離 000 km	● 現在の燃料残量と平均燃費から航続可能な距離を表示します。 ● 燃料残量警告灯（➔ 警告灯 (P.255)）が表示されると、航続可能距離の距離表示が点滅します。 ● 燃料残量警告表示後も燃料を補給しないと「---」と表示します。	知識 ● 数値は約30秒ごとに算出しています。 ● 電源ポジションがONのときに給油を行うと、正常な数値が表示されません。給油は電源ポジションをOFFにして行ってください。
平均車速 0 km/h	● リセットしてから次にリセットするまでの平均車速を表示します。 ● リセットするときは、選択スイッチのⒶまたはⒷを1秒以上押します。	知識 ● 12Vバッテリー接続後やリセット後は「---」と表示します。 ● 数値は約30秒ごとに更新しています。
ドライブ情報 （走行距離／走行時間） 走行距離 0.0 km 走行時間 0:00	● リセットしてから次にリセットするまでの走行距離、走行時間を表示します。 ● リセットするときは、選択スイッチのⒶまたはⒷを1秒以上押します。 （走行距離と走行時間を同時にリセットします。）	-

項目	概要	詳細説明
エネルギーモニター	● ハイブリッドシステムに関するエネルギーの流れを表示します。	● リチウムイオンバッテリーの残量は、走行状態により増減します。それに応じて残量表示も左右に増減します。 ● ナビゲーションシステムの画面に表示されるエネルギーモニターの簡易画面を表示します。 ➔ エネルギーモニターについて (P.19)
EVオドメーター 積算 00 km トリップ 0.0A	**EVオドメーター** ● モーターのみで走行した総走行距離を表示します。 **EVトリップメーター** ● モーターのみで走行した区間距離を表示します。TRIP A とTRIP B で2種類の区間を記録できます。 ● トリップ切り替えスイッチを押すごとに A と Bが切り替わります。 ● リセットするときは0にしたい方を表示させ、トリップ切り替えスイッチを1秒以上押します。	知識 ● EVトリップメーターは12Vバッテリーを外すと、 Aと Bの記憶が消去され0に戻ります。
水温計 C H オーバーヒート範囲	● エンジン冷却水の温度を表示します。オーバーヒート範囲は、Hマーク付近の赤い範囲です。	警告 ● オーバーヒートを示したときは、ただちに安全な場所に車を止めて処置してください。そのまま走行を続けると、エンジン故障の原因となり、火災につながるおそれがあります。

メーター

項目	概要	詳細説明
燃費情報 平均 0.0 km/l 0 10 20 30	● リセットしてから次にリセットするまでの平均燃費、および走行中の瞬間燃費を表示します。 ● 平均燃費をリセットするときは、選択スイッチのⒶまたはⒷを1秒以上押します。	知識 ● 平均燃費は、12Vバッテリー接続後やリセット後は「---」と表示します。 ● 平均燃費は約30秒ごとに更新します。 ● ドライブモードセレクター（➔P.98）をECOにすると、表示がECOアクセルガイド（➔P.100）に切り替わります。
ナビゲーション 新高島 300m	● ナビゲーションシステムでルートガイドを設定していると、ルート案内を表示します。	● ナビゲーションシステムの取り扱いについては、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。 ● ナビゲーションシステムで目的地を設定していないときは、コンパス（車両の進行方位）を表示します。
オーディオ FM PRESET 1 84.7 MHz FM YOKOHAMA	● オーディオの情報を表示します。	● オーディオの取り扱いについては、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。

各部機能と名称

項目	概要	詳細説明
走行支援 前方 車線 後側方	● 次のシステムの作動状態を表示します。 – LDP（車線逸脱防止支援システム）★ – LDW（車線逸脱警報）★ – BSI（後側方衝突防止支援システム）★ – BSW（後側方車両検知警報）★ – PFCW（前方衝突予測警報）★ – インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）★	● 詳しくは、各システムの説明をお読みください。 – LDP（車線逸脱防止支援システム）★ (P.122) – LDW（車線逸脱警報）★ (P.130) – BSI（後側方衝突防止支援システム）★ (P.133) – BSW（後側方車両検知警報）★ (P.145) – PFCW（前方衝突予測警報）★ (P.239) – インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）★ (P.208)
タイヤ空気圧 kPa 000 000 000 000	● 走行中のタイヤ空気圧を表示します。	● タイヤ空気圧は走行中に計測されるため、電源ポジションをONにしてから25km/h以上で走行するまでは、「空気圧は走行時に計測後表示されます」というメッセージが表示され、タイヤ空気圧は表示されません。
シャシー制御	● 走行中、アクティブレーンコントロールおよびコーナリングスタビリティアシスト機能の作動状態を表示します。	● 詳しくは、各システムの説明をお読みください。 – アクティブレーンコントロール (P.117) – コーナリングスタビリティアシスト機能 (P.105)

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

■ **ドライブインジケーター**

画面に表示されたアイコンまたはメッセージ	表示される条件	説明･対処方法
BRAKE	● ブレーキペダルを踏みながらパワースイッチを押し、ハイブリッドシステムを始動することを表示します。	● ブレーキペダルを踏みながらパワースイッチを押してください。ハイブリッドシステムが始動します。 知識 ● 次の場合、表示が消えます。 – ハイブリッドシステムを始動したとき – 電源ポジションをOFFにしてから約15秒経過したとき – リモートコントロールエントリー機能、またはリクエストスイッチでドアを施錠したとき – セレクトレバーがP以外になったとき
	● インテリジェントキーの電池が切れたときや、使用環境により、インテリジェントキーと車両の通信が正常に行われないときに表示します。	● ブレーキペダルを踏みながら、インテリジェントキーのロゴマーク裏面をパワースイッチに接触させてください。

画面に表示されたアイコンまたはメッセージ	表示される条件	説明･対処方法
キー電池残量が低下しています	● インテリジェントキーの電池切れが近くなると電池の交換を知らせます。	● 新しい電池に交換してください。 ➔ インテリジェントキーの電池交換 (P.302) 知識 ● 次の場合、インテリジェントキー電池切れ表示が消えます。 – 表示から約30秒経過したとき – 電源ポジションをON以外にしたとき
キーが見つかりません	● 電源ポジションがACCまたはONのとき、インテリジェントキーが車外に持ち出されると表示します。	● インテリジェントキーが車外に持ち出されていないか確認してください。
	● ドアまたはトランクが確実に閉まっていないとき、開いている位置を表示します。	● ドアやトランクを確実に閉めてください。 知識 ● 走行前に表示が消えていることを確認してください。ドア、トランクが完全に閉まっていない（半ドア）と走行中に突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

画面に表示されたアイコンまたはメッセージ	表示される条件	説明・対処方法
キーシステム故障 取扱説明書を見てください	● ステアリングロックやインテリジェントキーのシステムに異常があると表示します。	● 日産販売会社に連絡してください。ハイブリッドシステムが始動できないことや電源ポジションがLOCKから動かないことがあります。
Pレンジに 入れてください	● 次のような場合に表示します。 – セレクトレバーがP以外のとき、電源ポジションをONからOFFにしたとき – 走行可能表示灯が点滅中にセレクトレバーを操作したとき – セレクトレバーがDで走行可能表示灯が点灯中に運転席ドアを開けたとき – ハイブリッドシステムの温度が異常に高くなり、走行できなくなったとき – 寒冷時に急減速してエンジンが停止したとき – 上記以外で、自動的にエンジンが始動できないような故障が発生したとき	● セレクトレバーをPにしてください。 ● 電源ポジションをONにしたときも表示が消えます。
	● 電源ポジションがACCでメーター内のディスプレイに「Pレンジに入れてください」のメッセージが表示されているとき、セレクトレバーを操作してPにすると表示します。 ● 上記を操作後、パワースイッチを押して電源ポジションをONにしたときに表示します。	● 電源ポジションをOFFにしてください。 知識 ● 次の場合に表示が消えます。 – 電源ポジションをOFFにしたとき – ハイブリッドシステムを始動したとき – セレクトレバーをP以外にしたとき

画面に表示されたアイコンまたはメッセージ	表示される条件	説明·対処方法
キーIDが 正しくありません	● 次のときに電源ポジションを切り替えようとすると表示します。 – インテリジェントキーを携帯していないとき – 携帯しているインテリジェントキーの電池が切れているとき – 登録されていないインテリジェントキーを携帯しているとき	● インテリジェントキーを携帯してください。 ● 新しい電池に交換してください。 ➔ インテリジェントキーの電池交換 (P.302) ● 自車のインテリジェントキーであることを確認してください。
パーキングブレーキを 解除してください	● パーキングブレーキを戻し忘れたまま走行すると（約7km/h以上）表示し、ブザーが鳴ります。	● すみやかにパーキングブレーキを解除してください。 アドバイス ● 走行するときは、必ずパーキングブレーキを解除してください。
	● ステアリングロックを解除できないときに表示します。	● ハンドルを軽く左右に回しながらパワースイッチを押してください。ステアリングロックを解除すると表示が消えます。

メーター

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

画面に表示されたアイコンまたはメッセージ	表示される条件	説明･対処方法
航続可能距離 000 km	● 燃料が少なくなると表示します。 残っている燃料で航続可能な距離を表示します。	● すみやかに指定の燃料を補給してください。 アドバイス ● 燃料切れでエンジンが停止したときは、15ℓ以上給油してください。給油量が15ℓ未満の場合、システムが燃料切れと判断してハイブリッドシステムが始動できない場合があります。 知識 ● 燃料の残量が約12ℓ以下で表示します。 ● 車両姿勢、走行状況によっては、燃料がタンク内で移動するため、警告が表示されるタイミングが変わる場合があります。
シャシー制御 システム故障 取扱説明書を見てください	● アクティブレーンコントロールのシステムまたはコーナリングスタビリティアシスト機能、エマージェンシーストップシグナル機能に異常があると表示します。	● すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。
AT故障 取扱説明書を 見てください	● ATのシステムに異常があると表示します。	● すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。

画面に表示されたアイコンまたはメッセージ	表示される条件	説明･対処方法
タイヤ空気圧不足 点検してください	● タイヤ空気圧が低下すると、表示します。	● 安全な場所に停車し、タイヤを確認してください。 知識 ● 同時にタイヤ空気圧警告灯が点灯します。 ➔ タイヤ空気圧警報システム (P.402)
パンク！ 販売店で点検を受けてください	● タイヤ空気圧が大きく低下すると、表示します。	● パンクしているおそれがあるため、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。 知識 ● 同時にタイヤ空気圧警告灯が点灯し、警報が鳴ります。しばらくすると警報は止まりますが、警告灯は点灯し続けます。 ➔ タイヤ空気圧警報システム (P.402)
油圧低下 車両を安全なところに止めてください	● エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているオイルの圧力が低下すると表示します。	● ただちに安全な場所に停車し、ハイブリッドシステムを停止して日産販売会社に連絡してください。 ⚠ 注意 ● 点灯したまま走行しないでください。エンジンが破損し発火するおそれがあります。

画面に表示されたアイコンまたはメッセージ	表示される条件	説明･対処方法
ハイブリッドシステム オーバーヒート 安全な場所に車を停めてください	● ハイブリッドシステムの温度が異常に高くなると表示します。	● すみやかに安全な場所に停車してください。すぐに停車できない場合は、急発進･急加速を避け、安全な場所まで移動して停車してください。表示が消えたら走行できます。 ● 表示が消えたあと、またすぐに表示するようなときは、日産販売会社で点検を受けてください。 **注意** ● 表示したまま走行を続けると、走行できなくなることがあります。その場合は、セレクトレバーをPに入れ、表示が消えるまでしばらく停車してください。 **アドバイス** ● 表示したまま走行しないでください。ハイブリッドシステムが破損するおそれがあります。 ● 上り坂ではクリープ現象を利用した停車や、アクセルペダルを踏みながら停止状態を保つような停車はしないでください。トランスミッションが故障する原因となります。坂道で停車するときは、ブレーキペダルを踏んで停車してください。
オーバーヒート 安全な場所に車を停め 取扱説明書を見てください	● エンジン冷却水の温度が異常に高くなると表示します。	● 点灯したときは、ただちに安全な場所に車を止めて処置してください。 オーバーヒートしたとき (P.377) **警告** ● そのまま走行を続けると、エンジン故障の原因となり、火災につながるおそれがあります。

画面に表示されたアイコンまたはメッセージ	表示される条件	説明･対処方法
P 充電量低下 Pレンジにしてください	● セレクトレバーがN、R、Dでリチウムイオンバッテリーの残量が少ないと表示します。	● セレクトレバーをPにしてください。
Pレンジで再始動 してください	● 「充電量低下　Pレンジにしてください」と表示されたあと、さらにリチウムイオンバッテリーの充電量が低下すると表示します。	● セレクトレバーをPにしてから再始動してください。
4WD 4WDシステム異常 取扱説明書を見てください	● エンジン回転中、4WDシステムに異常があると表示します。	● 4WDシステムに異常が発生しているため2WD状態になっています。高速走行をせず、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。 アドバイス ● メッセージが表示されている間は、4WDシステムが2WDまたは弱4WDになりますが、通常の走行は可能です。ただし、スピードは控えめにしてください。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

画面に表示されたアイコンまたはメッセージ	表示される条件	説明･対処方法
4WD 4WDシステム高油温 車両を安全なところに止めてください	● 走行中、前後輪の回転数の差が大きい状態が続き、駆動系部品の油温が異常に高くなると表示します。（4WD車）	● すみやかに安全な場所に停車し、アイドリング状態にしてください。メッセージが表示されている間は駆動系部品の保護のため、2WD状態になっています。しばらくして表示が消えると、4WDに復帰し、通常通り走行できます。 アドバイス ● メッセージが表示されている間は、4WDシステムが2WDまたは弱4WDになりますが、通常の走行は可能です。ただし、スピードは控えめにしてください。
4WD タイヤサイズ異常 取扱説明書を見てください	● 前後輪のタイヤ径差が大きすぎると表示します。（4WD車）	● 装着タイヤの種類とサイズ、およびタイヤ空気圧などを点検してください。タイヤの種類やサイズが異なるときは同一銘柄、同一サイズのタイヤを装着してください。また、タイヤ空気圧が不足のときは空気を入れてください。 それでも表示が消えないときは、高速走行をせず、最寄りの日産販売会社で点検を受けてください。

画面に表示されたアイコンまたはメッセージ	表示される条件	説明･対処方法
設定画面でシステムを選択してください	● ナビゲーションシステムで次のシステムを全てOFFにしているとき、ステアリングにあるONスイッチを押すと表示します。 －ＬＤＰ（車線逸脱防止支援システム）★（➔P.122） －ＢＳＩ（後側方衝突防止支援システム）★（➔P.133） － インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）★（➔P.208） － エマージェンシーブレーキ★（➔P.232）	● ナビゲーションシステムで、いずれかのシステムをONにすれば表示されなくなります。 詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。
システム故障 取扱説明書を見てください	● 次のいずれかのシステムが故障すると表示します。 －ＬＤＰ（車線逸脱防止支援システム）★（➔P.122） － LDW（車線逸脱警報）★（➔P.130） －ＢＳＩ（後側方衝突防止支援システム）★（➔P.133） － BSW（後側方車両検知警報）★（➔P.145） － PFCW（前方衝突予測警報）★（➔P.239） － インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）★（➔P.208）	● 安全な場所に停車して一度ハイブリッドシステムを停止させ、再始動してからいずれかのシステムをONにしてください。 ● 上記の操作をしてもONにできない、または表示が点灯し続けるときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

画面に表示されたアイコンまたはメッセージ	表示される条件	説明・対処方法
アクセルペダルが高温のため使用できません	● アクセルペダルを戻す力を発生させているモーターが高温になり、次のシステムが作動を停止すると表示します。 – インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）★（➔P.208） – BCI（後退時衝突防止支援システム）★➔P.153	● モーターの温度が下がると、システムは自動的に作動を再開します。
フロントレーダー及びその周辺が汚れています拭いてください	● フロントバンパーに取り付けられた レーダーセンサー周辺に雪や氷、泥 などが付着し、次のシステムが停止すると表示します。 – PFCW（前方衝突予測警報）★（➔P.239） – インテリジェントペダル（ディスタンスコントロールアシスト）★（➔P.208） – インテリジェントクルーズコントロール★（➔P.171）	● 安全な場 所に停車し、一度ハイブリッドシステムを停止してからレーダーセンサーおよびその周辺の汚れなどを取り除き、ハイブリッドシステムを再始動してください。
サイドレーダー及びその周辺が汚れています拭いてください	● リヤバンパー付近に取り付けられたレーダーセンサー周辺に雪や氷、泥 などが付着し、次のシステムが停止すると表示します。 – BSI（後側方衝突防止支援システム）★（➔P.133） – BSW（後側方車両検知警報）★（➔P.145） – BCI（後退時衝突防止支援システム）★➔P.153	● レーダーセンサーおよびその周辺の汚れなどを取り除いてから、システムを一旦OFFにしたあと、再びONにしてください。

画面に表示されたアイコンまたはメッセージ	表示される条件	説明・対処方法
作動範囲外のため 現在使用できません	● 次のシステムが停止すると表示します。 停止す条件については、各システムをお読みください。 －ＬＤＰ（車線逸脱防止支援システム）★（➔P.122） －ＢＳＩ（後側方衝突防止支援システム）★（➔P.133） －インテリジェントクルーズコントロール★（➔P.171）	● 停止したシステムを再び作動させる場合は、停止したときの状態が改善されてから、スイッチで再びONにしてください。
車線認識カメラ・その周辺が 高温のため使用できません	● 炎天下に駐車したときなど、車線認識カメラが高温になり、次のシステムが停止すると表示します。 －ＬＤＰ（車線逸脱防止支援システム）★（➔P.122） －LDW（車線逸脱警報）★（➔P.130） －ＢＳＩ（後側方衝突防止支援システム）★（➔P.133）	● 停止したシステムを再び作動させる場合は、車線認識カメラ周辺の温度が下がってから、スイッチで再びONにしてください。
システムOFF	● BCI（後退時衝突防止支援システム）★の作動が停止すると表示します。➔ BCI（後退時衝突防止支援システム）★ (P.153)	● ナビゲーションシステムで再びBCI（後退時衝突防止支援システム）★をONにすると消灯します。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

画面に表示されたアイコンまたはメッセージ	表示される条件	説明･対処方法
ヘッドランプシステム異常 取扱説明書を見てください	● LEDヘッドランプに異常があると表示します。	● すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。
AFSシステム異常 取扱説明書を見てください	● アクティブAFSに異常があると表示します。	● すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。
省電源のため自動的に 電源OFFします	● セレクトレバーをPにしたまましばらくすると表示します。	● そのまま電源ポジションを切り替えたり、セレクトレバーを動かしたりしないと、省エネのため自動的に電源ポジションがOFFになります。
省電源のため自動的に 電源OFFしました	● セレクトレバーがPのまま時間が経過し、自動的に電源ポジションがOFFになると表示します。	—

画面に表示されたアイコンまたはメッセージ	表示される条件	説明･対処方法
ライト消灯してください	● 電源ポジションがOFFで運転席ドアを開けたとき、ライトスイッチがAUTO以外のON位置にあると表示し、ブザーが鳴ります。	● ライトスイッチをOFFにしてください。
オイル/オイルフィルター交換してください	● 設定したオイル/オイルフィルター交換距離に達すると表示します。	● オイル/オイルフィルター交換距離は、設定したりリセットしたりできます。 ● 走行距離を元にお知らせしているもので、実際の車両状態を示したものではありません。目安としてお使いください。 ● 設定はナビゲーションシステムで行います。 詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。
タイヤ	● 設定したタイヤ交換距離に達すると表示します。	● タイヤ交換距離は、設定したりリセットしたりできます。 ● 走行距離を元にお知らせしているもので、実際の車両状態を示したものではありません。目安としてお使いください。 ● 設定はナビゲーションシステムで行います。 詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

画面に表示されたアイコンまたはメッセージ	表示される条件	説明･対処方法
ユーザー	● オイル/オイルフィルター、タイヤ以外の整備項目の点検距離または交換距離に達すると表示します。	● その他の整備項目には、たとえばタイヤのローテーションを行う距離の設定ができます。項目の点検／交換距離は設定したり、リセットしたりできます。 ● 走行距離を元にお知らせしているもので、実際の車両状態を示したものではありません。目安としてお使いください。 ● 設定はナビゲーションシステムで行います。 詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。
凍結注意	● 外気温が3°C以下になったことを知らせます。	● ナビゲーションシステムでON／OFFを切り替えることができます。（初期設定はONに設定されています。） 詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。
休息してください	● 設定した時間まで連続走行したことを知らせます。	● 設定はナビゲーションシステムで行います。 詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。

インテリジェントキー

インテリジェントキーを携帯することにより、キーを取り出すことなくドアの施錠･解錠（➔P.294）やエンジンの始動（➔P.91）ができます。

各部名称と機能

① ドア施錠スイッチ
- スイッチを押すと、全ドアおよび燃料補給口を施錠します。

② ドア解錠スイッチ
- スイッチを押すと、全ドアおよび燃料補給口を解錠します。

③ トランク解錠スイッチ
- スイッチを1秒以上押すと、トランクが解錠します。

④ メカニカルキー
- インテリジェントキーの電池が切れたときや、12Vバッテリーがあがったときなどにドアの施錠･解錠ができます。

⑤ キー番号タグ
- キーを紛失した場合、キー番号から日産販売会社でスペアキーを作成できますので、大切に保管してください。

インテリジェントキーに関する注意事項

⚠ 警告

- 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器（ICD）を使用している方は、アンテナから約22cm以内の範囲に装着部位が近づかないようにしてください。ドア開閉時、各タッチセンサーおよびリクエストスイッチ操作時、ハイブリッドシステム始動時などにインテリジェントキーの電波が植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器（ICD）の作動に影響を与えるおそれがあります。

⚠ 警告

⚠ 警告

● 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器（ICD）以外の医療電気機器を使用している方は、インテリジェントキーの電波が医療電気機器の動作に影響を与える場合があるため、医療電気機器製造業者などへ影響を確認してからご使用ください。

● 航空機内ではインテリジェントキーのスイッチを押さないでください。また、バッグなどに収納するときは、荷物などでスイッチが押されないようにしてください。万一スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運航に支障をきたすおそれがあります。

⚠ 注意

● インテリジェントキーは運転者が必ず携帯してください。

● インテリジェントキーは、ハイブリッドシステムの始動やドアの施錠･解錠など、車を操作するためにはなくてはならないものです。大切に保管してください。

● インテリジェントキーは、必ずメカニカルキーを内蔵した状態で携帯してください。

アドバイス

● インテリジェントキーは微弱な電波を使用しています。次のような使用環境では機能に障害が起こるため、インテリジェントキー機能やリモートコントロールエントリー機能が正常に作動しない場合があります。

– 近くにテレビ塔や発電所、放送局など強い電波を発生する設備があるとき
– 無線機や携帯電話などの無線通信機器を一緒に携帯しているとき
– インテリジェントキーが金属製の物に接したり、覆われたりしているとき
– 近くで電波式リモートコントロールエントリーを使用しているとき
– インテリジェントキーをパソコンなどの電化製品の近くに置いたとき

アドバイス

– コインパーキングに駐車したとき（車両検出用の電波の影響があるため）
– 近くで電波式侵入警報装置を使用しているとき
– 極端に気温が低いとき（電池の性能が低下するため）

- インテリジェントキーは電波法の認証に適合しています。次のことを必ずお守りください。
  – 電池を交換するとき以外は分解しない（分解、改造したのもを使用することは法律で禁止されています）
  – 日本国内のみで使用する
- インテリジェントキーは車両との通信のために常時受信動作をしているため、常に電池を消耗しています。電池の寿命は使用状況によりますが約2年程度です。電池が切れた場合、新しい電池と交換してください。
  ➔ インテリジェントキーの電池交換 (P.302)
- インテリジェントキーの電池が切れたときは、応急処置としてハイブリッドシステムの始動やドアの施錠･解錠を行うことができます。
  ➔ インテリジェントキーで始動できない (P.363)
  ➔ インテリジェントキーでドアが開かない (P.362)
- インテリジェントキーをテレビやパソコンなどの電化製品の近くに置かないでください。電池を著しく消耗することがあります。
- インテリジェントキーの電池が消耗しているときや、強い電波、ノイズのある場所では、作動範囲が狭くなったり、作動しないことがあります。
- インテリジェントキーは送信機を内蔵している精密機械です。故障を防止するため、次のことをお守りください。
  – 長時間高温になる場所に置かない
  – 分解しない

アドバイス

– 無理に曲げたり、落としたり、強い衝撃を与えたりしない
– 水にぬらさない
– 超音波洗浄器などにかけない
– 磁気を帯びたキーホルダーなどをつけない
– テレビ、オーディオなど、磁気を帯びた機器の近くに置かない

● インテリジェントキーはドアポケットに入れないでください。ドアを閉めるとき衝撃により破損するおそれがあります。また、ドアポケット内に一緒に入れておいた物がドアを閉めた衝撃で当たるなどして勝手にスイッチが入り、キーを車室内に封じ込めるおそれがあります。

知識

● インテリジェントキーは同じ車両で最大4個まで使うことができます。ご購入やご使用開始方法については、日産販売会社にご相談ください。

● インテリジェントキーを紛失したときは、盗難などを防ぐため、ただちに日産販売会社にご相談ください。

● キー番号を打刻したタグは大切に保管してください。キー番号を日産販売会社に連絡すると購入できます。

● インテリジェントキーのスイッチを押しても作動しないときは、電池の消耗または故障が考えられます。日産販売会社にご相談ください。
➔ インテリジェントキーの電池交換 (P.302)

アンサーバック機能

● ドアの施錠･解錠時に、作動確認のためのブザーと非常点滅表示灯が作動します。（施錠時1回、解錠時2回）

● トランク解錠時に、作動確認のためのブザーが作動します。（解錠時４回）

知識

- アンサーバック機能のブザーを停止することができます。日産販売会社にご相談ください。

オートロック機能

- タッチセンサーまたはリクエストスイッチ（またはインテリジェントキーのドア解錠スイッチ）を押して、解錠後約30秒以内に以下のいずれかの操作も行わなかった場合は、盗難防止のため自動的に全ドアが施錠されます。（施錠されるまでの間に、再度インテリジェントキーの解錠スイッチを押すと、その時点から約30秒後に施錠されます。）
  – ドアを開ける
  – パワースイッチを押す

ログイン機能

あらかじめユーザー情報を登録しておくと、インテリジェントキーを携帯して車両へ乗り込んだとき、 自動的にユーザーを認識します。

- 電源ポジションをONにすると、インテリジェントキーで認識したユーザーへの挨拶画面をナビゲーションシステム画面に表示し、 ログインすることができます。
  詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。
- 前回とインテリジェントキーの使用者が異なるときは、ユーザーへの挨拶画面からユーザーを切り替えることができます。
- ユーザー情報は最大4人まで登録でき、ドライブモード、運転ポジション（シート、ハンドル位置、ドアミラー鏡面角度）、エアコンの設定、 オーディオの設定、ナビの設定などの各種設定を記憶します。
- ログイン機能では、次の機能について設定することができます。
  – エンジン･トランスミッション
  – ステアリング
  – 運転支援の設定
  – コーナリングスタビリティアシスト機能（➔P.105）
  – アクティブレーンコントロール（➔P.117）
  – 運転ポジション（シート、ハンドル位置、ドアミラー鏡面角度）（➔P.59）
  – メーターの設定※
  – エアコンの設定※
  – ナビゲーションシステムの設定※
  – オーディオの設定※
  ※:別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。

知識

- 4人目のユーザー（ゲスト）の名前と写真は変更できません。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

インテリジェントキーの電池交換

インテリジェントキーのスイッチを押しても作動しないときは、電池の消耗または故障が考えられます。

交換のしかた

1	キー裏側のロックを外しながら、メカニカルキーを引き抜きます。	
2	スリットにマイナスドライバーを差し込み、ひねってカバーを取り外します。（カバーが傷つかないように、マイナスドライバーに布を巻いてください。）	布 マイナスドライバー
3	消耗した電池を取り外し、新しい電池をはめ込みます。（新しい電池は、+極を下にして取り付けてください。） 使用電池：CR2032	－極 電池 ＋極
4	カバーの先端を合わせて上下のカバーを組み付けます。確実に取り付けられたことを確認してください。	

警告

- 電池および取り外した部品は、お子さまが飲み込まないように注意してください。

アドバイス

- 電池交換の際、キーを破損するおそれがあります。日産販売会社での交換をおすすめします。
- 本体に傷をつけるおそれがあるため、ドライバーに布などを当てて外してください。ドライバーを奥に差し込みすぎると内部の基板を傷つけるおそれがあります。
- 内部回路、電子端子などに触れないでください。故障の原因となります。
- 電池交換後は、インテリジェントキーシステムの各機能が正常に作動するか必ず確認してください。

インテリジェントキー機能による施錠・解錠

■ 前席ドア／後席ドア

- 施錠するときは、運転席または助手席ドアのリクエストスイッチⒶを押します。
- 解錠するときは、運転席または助手席ドアのドアハンドルを握ります。
  ドアハンドル裏側のタッチセンサーⒷに触れるようにドアハンドルを握ると解錠します。
  （施錠した直後の約2秒間は解錠できません）

Ⓐ

Ⓑ

アドバイス

- 車両に近づきすぎている場合などは作動しないことがあります。
- 作動範囲は各リクエストスイッチを中心に約80cmの球状になっているため、地面近くや高い場所では作動しないことがあります。
- 手袋などを着用したままドアハンドルを握ると、タッチセンサーが反応しないことがあります。
- 急にドアハンドルを引くと、ドアが解錠される前にドアハンドルが引かれるため、解錠できないことがあります。その場合、一度ドアハンドルを戻すと解錠されます。再度ドアハンドルを引いてください。
- ドアハンドルを握る前にリクエストスイッチを押してしまうと、約2秒間解錠できなくなります。また、解錠できないときにドアハンドルを握った場合、約2秒経過しても解錠することができません。一旦ドアハンドルから手を離し、約2秒経過してからもう一度ドアハンドルを握ってください。
- インテリジェントキーが施錠･解錠の

アドバイス

作動範囲内にあるとき、洗車や大雨などで多量の水がドアハンドルにかかるとドアが施錠･解錠されることがあります。

知識

- インテリジェントキーを検知しているセンサーおよびリクエストスイッチでのみ施錠･解錠を行うことができます。
- ドアの施錠･解錠時には、アンサーバック機能およびオートロック機能が作動します。
➔ インテリジェントキーに関する注意事項 (P.295)
- ドアハンドル裏側のセンサーの作動をOFFにし、リクエストスイッチで解錠できるように設定を変更できます。
詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。
- 次のような場合は、作動しません。
  - 電源ポジションがACC、ONのとき
  - ドアが完全に閉まっていない（半ドア）とき
  - インテリジェントキーが施錠･解錠の作動範囲内にないとき
  - 携帯しているインテリジェントキー以外に自車のインテリジェントキーが車内またはトランク内にあるとき
（解錠のみできます）
  - インテリジェントキーの電池が切れているとき

衝撃感知式ドアロック解除システム

- 電源ポジションがONのとき、車両が前後方向または側面から強い衝撃を受けるとシステムが作動し、約3秒後に全ドアが自動的に解錠されます。
衝撃の強さなどによっては、作動しないことがあります。システム作動後にシステムを解除させる（ドアをロックする）には、一旦電源ポジションをOFFにしてください。

電源ポジション連動ドアロック解除システム

- 電源ポジションをONからOFFにすると全ドアが自動的に解錠されます。
- ナビゲーションシステムで電源ポジション連動ドアロック解除システムの作動･非作動を切り替えることができます。
詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。

知識

車速感知式オート集中ドアロック

- 車速が約25km/h以上になると、全ドアが自動的に施錠されます。ただしそのあと解錠すると、再度施錠はされません。再度作動させるには、いずれかのドアを開けるか、電源ポジションをOFFにします。
- 衝撃感知式ドアロック解除システム作動後は、一旦電源ポジションをOFFにするまでは作動しません。
- ナビゲーションシステムで車速感知式オート集中ドアロック機能の作動･非作動を切り替えることができます。
詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。

リモコンによる施錠・解錠

車に近づき、リモコンスイッチを押します。
作動範囲は、車両から約1mです。（作動範囲は周囲の状況によって変化します。）
ドア施錠スイッチ 🔒 を押すと全ドアを施錠します。
ドア解錠スイッチ 🔓 を押すと全ドアを解錠します。

知識

- 次のような場合は、インテリジェントキーのスイッチを押しても作動しません。
  - 電源ポジションがACC、ONのとき
  - ドアが完全に閉まっていない（半ドア）とき
    （解錠のみできます）
  - インテリジェントキーが車内にあるとき
    （解錠のみできます）
  - 車から離れすぎているとき
  - インテリジェントキーの電池が切れているとき

ドアロックスイッチによる施錠・解錠

運転席のドアロックスイッチを押します。
ドアロックスイッチの左側 🔒 を押すと施錠します。
ドアロックスイッチ右側 🔓 を押すと解錠します。

施錠
解錠

ロックノブによる施錠・解錠

ロックノブを前方に押し込むと施錠します。
ロックノブを手前に引くと解錠します。

施錠
解錠

知識

- 運転席のロックノブで全ドアが施錠または解錠します。
- 運転席ドアは、施錠したままでもドアハンドルを引くとドアが開けられます。そのとき、全ドアが解錠します。

キーを使わない施錠

- **前席ドア**
  車室内のロックノブを押し込み、ドアハンドルを引きながらドアを閉めます。
- **後席ドア**
  車室内のロックノブを押し込み、そのままドアを閉めます。

知識

キー封じ込み防止機能

- インテリジェントキーが車内（トランク内も）にあるときは、施錠できません。キーインテリジェントキーを車室内に置き忘れたまま施錠することを防ぐ機能です。

チャイルドセーフティドアロック

車室内のロックノブの位置に関係なく、後席ドアを車室内から開けられなくできます。

- **ドアロックのしかた**
  後席ドアにあるロックレバーをLOCK位置にしてドアを閉めます。
- **ドアを開けるとき**
  ロック作動中にドアを開けるときは、ドアが解錠していることを確認し、車外からドアハンドルを引きます。

LOCK解除
LOCK

知識

- 車室内から開けるときは、窓ガラスを下げ、手を外に出して車外のドアハンドルを引きます。

ドアの施錠･解錠の作動範囲

作動範囲は各リクエストスイッチから周囲約80cm以内です。作動範囲は各リクエストスイッチを中心に球状になっているため、地面近くや高い場所では作動しないことがあります。
インテリジェントキーが作動範囲内にある場合は、インテリジェントキーを携帯している人以外でも施錠･解錠の操作ができます。

- ドアハンドルのリクエストスイッチを押してドアを施錠したあとは、ドアが確実に施錠されていることを確認してください。
- 解錠される前にドアハンドルを引かないでください。ドアは解錠されますが、開きません。一度ドアハンドルを離してから再び引いて開けてください。
- 車から離れるときは、盗難や事故防止のため、必ず電源ポジションをOFFにして施錠してください。

作動範囲（各リクエストスイッチから周囲約80cm以内）

⚠ 警告

- ドアの開閉はお子さまにはさせないでください。手、首、足などを挟んだりして、重大な傷害につながるおそれがあります。
- ドアを開けるときは、周囲の安全を十分に注意してください。後続車や通行人にぶつかるおそれがあります。風が強いときは特に注意して開けてください。
- 走行する前にドアを確実に閉めてください。走行中に突然ドアが開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

インテリジェントキーによる解錠

- インテリジェントキーを携帯し、トランクオープン･リクエストスイッチを押すと、トランクが解錠します。

トランクオープン・リクエストスイッチ

アドバイス

- 車両に近づきすぎている場合などは作動しないことがあります。
- 作動範囲はトランクオープン･リクエストスイッチを中心に約80cmの球状になっているため、地面近くや高い場所では作動しないことがあります。

知識

- 次のような場合は作動しません。
  - インテリジェントキーが作動範囲にないとき
  - インテリジェントキーの電池が切れているとき

リモコンによる解錠

車に近づき、インテリジェントキーのスイッチを1秒以上押します。
作動範囲は、車両から約1mです。（作動範囲は周囲の状況によって変化します。）

トランク解錠スイッチ

トランクオープナースイッチによる解錠

トランクオープナースイッチを押すと解錠します。

アドバイス

- 以下の場合は、解錠してもトランクリッドが半ドア状態になることがあります。その場合は、トランクオープン･リクエストスイッチで再度解錠し、手でトランクリッドを持ち上げてください。
  - トランクリッドに雪やアクセサリーなどの重量物が付いているとき
  - トランクリッドが凍結しているとき

トランクの開閉

開閉のしかた

- 開けるときは、解錠後トランクリッドを持ち上げ、全開にします。
- 閉めるときは、トランクリッドを降ろし、確実にロックするまで押し付けます。

注意

- トランクリッドは必ず全開してください。途中で止めると突然閉まるおそれがあります。
- 風が強いときに開けると、風にあおられ急に閉まることがありますので特に注意してください。
- トランクを閉めるときは、手などを挟まないよう注意してください。

アドバイス

- キーをトランク内に置き忘れないでください。

燃料補給口

燃料補給口は運転席側の車両後方にあります。

燃料の補給

燃料タンクの容量は、約70ℓです。

エンジン型式	指定燃料
VQ35HR	無鉛プレミアム（無鉛ハイオク）ガソリン

アドバイス

- 指定以外の燃料は補給しないでください。
- 無鉛プレミアムガソリンが入手できない場合、無鉛レギュラーガソリンも使用できますが、エンジン出力低下などの現象が発生します。

燃料補給時の注意事項

⚠ 警告

- 燃料補給時は、以下のことを必ずお守りください。
  - 電源ポジションをOFFにする
  - 車のドアや窓を閉める
  - タバコなどの火気を近づけない
  - 気化した燃料を吸わない
- 補給作業を行う前に、金属部分に触れて身体の静電気を除去してください。放電による火花で燃料に引火したり、やけどをするおそれがあります。
- 補給作業はひとりで行ってください。作業中に車内に戻ったり、帯電している人や物に触れると再帯電するおそれがあります。
- キャップを開けるときはゆっくり回し、燃料タンク内の圧力を下げてから外してください。急に開けると、燃料が補給口から吹き返すおそれがあります。
- 給油ノズルは確実に給油口へ挿入してください。給油ノズルの挿入が浅いと、給油の自動停止が遅れるため、燃料が吹きこぼれ火災につながるおそれがあります。
- 給油ノズルの自動停止後は、給油の継ぎ足しをしないでください。継ぎ足しをすると、燃料があふれて火災につながるおそれがあります。
- ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

開閉のしかた

■ 開けかた

1	運転席のドアロックスイッチを押して解錠します。 燃料補給口のリッドロックは、ドアロックスイッチの施錠･解錠に連動しています。	解錠 施錠
2	リッドを開けます。 リッドの車両後方上側を押すとリッドが少し開きます。開いたすき間に手を入れて全開します。	
3	キャップを左にゆっくり回して開けます。 補給時、キャップはリッドのキャップホルダーに置きます。	開 閉 キャップ キャップホルダー

■ 閉めかた

① キャップを“カチッ、カチッ”と、2回以上音がするまで右に回して閉めます。
② リッドを閉めます。

⚠ 警告

- キャップは確実に閉めてください。閉まっていないと走行中に燃料が漏れ、火災につながるおそれがあります。
- 日産純正品以外のキャップは使用しないでください。

パワーウインドー

電源ポジションがONのとき操作できます。

開閉のしかた

運転席のスイッチで、各席の窓ガラスの開閉ができます。また、助手席のスイッチおよび後席のスイッチで自席の窓ガラスの開閉ができます。

- スイッチを押している間、開きます。
- スイッチを引き上げている間、閉まります。

ワンタッチ開閉のしかた（AUTO）

窓ガラスは、ワンタッチで開閉できます。

- スイッチを強く押すと全開します。
- スイッチを強く引き上げると全閉します。
- 途中で止めたいときは、スイッチを操作した反対側に軽く押すか引きます。

ロックのしかた

- 運転席のパワーウインドーロックスイッチを押し込むと、助手席と後席の窓ガラスの開閉ができなくなります。
- スイッチを押し戻すと開閉できます。

⚠ 警告

- 走行中は顔や手、物などを車外に出さないでください。車外のものに当たったり、急ブレーキ時に重大な傷害につながるおそれがあります。
- 窓ガラスを閉めるときは、手や首などを挟まないよう注意してください。
- お子さまを乗せているときは、パワーウインドーロックスイッチを押し込み、操作させないようにしてください。重大な傷害につながるおそれがあります。

知識

キーOFF後作動機構

- 窓ガラスは、電源ポジションをACCまたはOFFにしたあとでも、約15分間は開閉することができます。ただし、その約15分間に運転席ドアを開けて閉める（ドアが開いているときは閉める）と、窓ガラスの開閉はできなくなります。

挟み込み防止機構

- 窓ガラスをワンタッチ開閉で閉めているときやキーOFF後作動機構で閉めているときに、車体と窓ガラスの間に異物の挟み込みを感知すると、窓ガラスの上昇が停止し、自動で少し下降し止まります。
- 環境や走行条件により、異物を挟んだときと同じような衝撃や荷重が窓ガラスに加わると作動することがあります。
- 故障などで挟み込み防止機構が作動してしまい、窓ガラスを自動で閉めることができないときは、スイッチを上側へ引き続けて閉めてください。

正常に作動しないとき

12Vバッテリーを外したり、開閉操作を連続して行うと、窓ガラスのワンタッチ開閉、挟み込み防止機構、キーOFF後作動機構が正常に作動しないことがあります。以下の操作を行い、初期設定してください。

① 電源ポジションをONにします。
② スイッチを押して、窓ガラスを全開にします。
③ スイッチを引き上げ続け、窓ガラスが全閉して3秒以上たってから手を離します。
④ 正常に作動することを確認します。正常に作動しないときは、再度上記の操作を行ってください。

上記の操作で作動できない場合は、早めに日産販売会社で点検を受けてください。

⚠ 注意

- 窓ガラスを確実に閉めるため、閉め切る直前の部分では挟み込みを感知できない領域があります。指などを挟まれないように注意してください。

サンシェードの開閉

- 手動で開閉します。
- サンルーフを開けると連動して開きます。
- サンルーフを開けているときは、開けているところまで閉めることができます。

開
閉

⚠ 警告

- 走行中は手や顔、物などを車外に出さないでください。車外のものに当たったり、急ブレーキ時に重大な傷害につながるおそれがあります。
- サンルーフを開閉するときは、手や首などを挟まないよう注意してください。また、お子さまには操作させないでください。重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- 運転中はサンルーフの開閉操作を行わないでください。前方不注意となり、思わぬ事故につながるおそれがあります。操作は信号待ちなどの停車中に行ってください。
- ルーフに水や雪などがあるときは開けないでください。突然の水や雪に驚き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- 開口部に腰を掛けたり、荷物を載せるなど、大きな力をかけないでください。ルーフが変形するおそれがあります。
- 車から離れるときや洗車するとき

アドバイス

は、盗難や故障などを防ぐためサンルーフを必ず閉めてください。

サンルーフの開閉

電源ポジションがONのときに操作できます。

チルトアップのしかた

- スイッチをⒶ側に押すと、後部が上がります。
- スイッチをⒷ側に押すと、後部が下がります。

開閉のしかた

- スイッチをⒷ側に押すと、自動で全開します。
- スイッチをⒶ側に押すと、自動で全閉します。
- 途中で止めたいときは、再度スイッチを押します。

開ける/下げる Ⓑ
閉める/上げる Ⓐ

知識

- チルトアップしているときは、前後の開閉はできません。

挟み込み防止機構

自動でサンルーフを閉めるときに、車体とサンルーフの間に異物の挟み込みを感知すると、サンルーフが停止し、自動で開き始めます。

注意

- サンルーフを確実に閉めるため、閉め切る直前の部分では挟み込みを感知できない領域があります。指などを挟まれないように注意してください。

アドバイス

- 故障などで挟み込み防止機構が作動してしまい、サンルーフを自動で閉めることができないときは、サンルーフスイッチを閉方向に繰り返し押して閉めてください。

知識

- 環境や走行条件により、異物を挟んだときと同じような衝撃や荷重がサンルーフに加わると、挟み込み防止機構が作動することがあります。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

正常に作動しないとき

サンルーフが正常に作動しないときは、以下の操作を行い初期設定し直してください。

① サンルーフをチルトアップ状態にします。
サンルーフが動かなくなるまでスイッチをⒶ側に繰り返し押し、チルトアップ状態にします。

② スイッチをⒶ側に押し続けます。
サンルーフが上下に少し動くまでスイッチを押し続けます。

③ スイッチをⒷ側に押し、全閉状態にしてから正常に作動するか確認します。

アドバイス

- 手順①から③の操作で作動できない場合は、早めに日産販売会社で点検を受けてください。

吹き出し口

この車のエアコンは、ナビゲーションシステム取扱説明書で説明しています。
詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。

ライトの点灯·消灯

スイッチを回し、●の位置にマークを合わせます。

スイッチ位置	点灯する灯火
OFF	全ライトが消灯
AUTO	自動点灯·消灯
(車幅灯マーク)	車幅灯、尾灯、番号灯が点灯
(ヘッドランプマーク)	ヘッドランプ、車幅灯、尾灯、番号灯が点灯

オートレベライザー

● ヘッドランプが下向き点灯時に乗車人員や荷物量の違いにより車両姿勢が変化すると自動的に照射方向を調整するシステムです。

OFF
OFF
AUTO

⚠ 注意

● 夕暮れや夜間時はデイライトの点灯だけで走行しないでください。必ずヘッドランプを点灯して走行してください。

アドバイス

● ハイブリッドシステム停止時に長時間点灯させないでください。12Vバッテリーがあがるおそれがあります。

知識

● ヘッドランプ、制動灯などは、雨天走行や洗車などにより、レンズ内面が一時的にくもることがありますが異常ではありません。

バッテリーセーバー

● ライトを点灯したまま電源ポジションをOFFにし、リモコンまたはリクエストスイッチで施錠すると12Vバッテリーあがりを防止するためライトが消灯します。（次回、運転席ドアを開けるとライトが再点灯します。）

● 次回、次のことを行うとライトが再点灯します。
 – ハイブリッドシステムを始動する
 – 電源ポジションをACCにする

ライトスイッチ

知識

– ライトスイッチを操作する

デイライト

● 周囲の車や歩行者などからの視認性を向上させます。
  – 電源ポジションをONにすると点灯し、OFFにすると消灯します。
  – ナビゲーションシステムでデイライトのON／OFFを切り替えることができます。
    詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。

オートライトシステムについて

- 電源ポジションがONのときに使えます。
- 電源ポジションをOFFにすると消灯します。
- スイッチを回し、●の位置にマーク（AUTO）を合わせると、次のように点灯･消灯します。

車外の明るさ	ワイパー作動中	ワイパー停止
明るいとき	**点灯**	消灯
薄暗いとき	**点灯**	**点灯**
暗いとき	**点灯**	**点灯**

アドバイス

- センサーの上に物を置いたり、ガラスクリーナーなどを吹きかけないでください。センサーの感度が低下し、正常に作動しなくなります。

知識

- オートライトの感度を調整したい場合は、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。

フロントワイパー連動、薄暮れ感知機能

- 夜間やトンネルなどの走行時に加え、歩行者事故などが多く発生している夕暮れ時や雨天でのフロントワイパー作動時もライトを点灯させることにより、自車両を目立たせ、周囲の歩行者やドライバーへの注意を喚起します。

アクティブAFS★について

ヘッドランプが自動的に進行方向を照射し、夜間走行時に曲路の視覚認識を高めるシステムです。

- ヘッドランプ点灯時、カーブや交差点などでハンドルを操作すると作動します。

警告

- ランプの脱着、バルブの交換は、日産販売会社にご相談ください。

知識

- アクティブAFSはセレクトレバーがP、R以外のとき、次のように作動します。
  - 車速が0km/hでも左側のヘッドランプは作動します。
  - 車速が約5km/h以上になると、右側のヘッドランプも作動します。
  - 減速して車速が約0km/hになる（停車する）と、右側のヘッドランプは再び作動を停止します。
- ハイブリッドシステム始動時、ヘッドランプが細かく動きますが、システムの作動をチェックしているためで異常ではありません。
- AFSに異常があるときは、メーター内のディスプレイに警告が表示されます。
➔ ドライブインジケーター (P.278)

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

ハイビームアシスト★について

先行車または対向車や周囲の明るさなどに応じ、自動的に上向きと下向きを切り替えます。

- ライトスイッチがAUTOの位置でレバーを前方に押すとハイビームアシストがONになります。
- 約30km/h以上で走行中、ヘッドライトが点灯すると作動します。
（メーターのハイビームアシスト表示灯が点灯）
➔ 表示灯 (P.264)
- 約10km/h以下になると、下向きに切り替わります。

センサーについて

ルームミラーの前方に周囲の状況を感知するためのセンサーがあります。
ハイビームアシストを正しく作動させるため、次のことをお守りください。

- フロントガラスが汚れたら清掃してください。
- センサーの周辺にアクセサリーやステッカーなどを取り付けないでください。
- センサーのレンズには触れないでください。
- センサーおよびその周囲に強い衝撃を与えないでください。

AUTO

センサー

⚠ 警告

- システムを過信しないでください。常に周囲の状況を確認し、必要に応じて上向きと下向きを手動で切り替えてください。
- 次のようなときは、ハイビームアシストが正常に作動しないことがあります。その場合、必要に応じて上向きと下向きを手動で切り替えてください。
  - 悪天候のとき（雨、霧、雪、強風など）
  - 周囲にヘッドライトや尾灯に似た光源があるとき
  - 対向車または先行車が無灯火のとき
  - 対向車または先行車のヘッドライトが汚れていたり、光軸がずれているとき
  - 明るさの急激な変化が連続しているとき
  - 段差や起伏のある道路を走行しているとき
  - カーブが多い道路を走行しているとき
  - ミラーや標識など反射の強いものが前方にあるとき

⚠ 警告

- トレーラーやコンテナなど、先行車両の後部の反射が強いとき
- ヘッドライトが破損または汚れているとき
- パンクやけん引などで車両が傾いているとき

- 次のような原因で、上向きと下向きの切り替わるタイミングが変化することがあります。
  - 対向車または先行車のライトの明るさ
  - 対向車または先行車の向きや動き
  - 対向車または先行車のライトが片側のみ点灯している
  - 対向車または先行車が二輪車
  - 道路状況（カーブやこう配、路面状況など）
  - 乗車している人数や荷物の量

アドバイス

- ハイビームアシストが正しく作動しなかったり、作動中にメーターにハイビームアシスト表示灯が点灯しないときは、ハイビームアシストが故障しているおそれがあります。日産販売会社で点検を受けてください。
➔ 表示灯 (P.264)

ヘッドライトの上向き、下向き切り替え

下向き：
レバーを中立位置にします。
上向き：
ヘッドライト点灯時にレバーを前方に押します。ライトスイッチがAUTOのときは、ハイビームアシスト★が作動します。
パッシング：
スイッチ位置に関係なく、レバーを手前に引きます。

上向き
下向き
上向き

アドバイス

- 対向車があるときや市街地走行などでは下向きにしてください。

フォグランプの点灯･消灯

ライトが点灯しているときに使えます。
霧などで視界が悪いときに使います。

- スイッチを回してマークを●の位置にあわせると点灯します。
（メーター内のフォグランプ表示灯が点灯）
- 消灯するときは、OFFに合わせます。
（メーター内のフォグランプ表示灯が消灯）

ライトスイッチ

電源ポジションがONのとき使えます。

方向指示器スイッチ

- スイッチを①の位置まで上または下に動かすと、方向指示器のランプが点滅します。
  （メーター内の表示灯が点滅）
- 車線変更などのときには、スイッチを②の位置まで上または下に軽く押さえます。
  スイッチを押さえている間は点滅し、手を離すと消灯します。
  また、スイッチを②の位置まで上または下に押さえたあと、すぐに手を離したときは3回点滅し消灯します。

アドバイス

- 方向指示器のランプとメーター内の方向指示表示灯の点滅が速くなったときは、方向指示器のランプの電球切れなどのおそれがあります。電球を交換してください。
  ➔ 電球（バルブ）交換 (P.418)

ワイパー・ウォッシャースイッチ

電源ポジションがONのときに作動します。

ワイパーの使いかた

スイッチを上下に動かします。

スイッチ位置	作動
MIST	1回作動
OFF	停止
INT	間けつ作動
LO	低速連続作動
HI	高速連続作動

ウォッシャーの使いかた

- スイッチを手前に引くと、ウォッシャー液が噴射しワイパーが数回作動します。

知識

- MISTの位置では、スイッチを押し上げている間ワイパーは作動し、手を離すと自動的にOFF位置に戻り停止します。
- ウォッシャースイッチを操作したあと、ガラスに残ったウォッシャー液をふき取るため、約3秒後に一度ワイパーが作動します。
  また、ナビゲーションシステムで作動・非作動を切り替えることができます。詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。
- 間けつ作動のときは、スイッチを回して作動間隔の長い、短いを調節することができます。
- 間けつ作動のときは、車速に応じてワイパー作動の調節を自動で行います。
  車速感知機能のON/OFFを切り替えたい場合は、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。
- ライトスイッチがAUTO位置のときにワイパーが数回作動すると、車外の明るさに関係なくライトが点灯します。

知識
オートライトシステムについて(P.326)

ワイパーアームを起こすとき（ライズアップ機能の使いかた）

1	電源ポジションをONからOFFにします。	
2	OFF にしてから1分以内にスイッチを2回連続で素早く(0.5秒以内)上に上げます。	
3	ワイパーアームの作動が途中で止まった後、ワイパーアームを起こします。	
4	元に戻すときは、ワイパーアームを倒してから、電源ポジションをONにし、ワイパーを1回作動します。	

⚠ 注意

- 電源ポジションがONでもライズアップ機能を作動させることができますが、ワイパーアームを起こすとき、思わぬ事故やケガをしないように次のことを必ずお守りください。
  – セレクトレバーが P にあることを確認する。
  – 同乗者が誤ってスイッチ操作しないように注意する。

アドバイス

- ワイパーアームを起こした状態でワイパーを作動させると、破損するおそれがあります。

知識

- **ライズアップ機能**
  ワイパーアームを起こすために、ワイパーの作動を途中で止める機能です。寒冷時の駐車やワイパー交換などのときに起こします。

ワイパー・ウォッシャーを使うときの注意事項

⚠ 警告

- 寒冷時は、ガラスに吹きつけられたウォッシャー液が凍結し、視界を妨げ、思わぬ事故につながるおそれがあります。ウォッシャー液を噴射する前に、ヒーターを使ってガラスを温めてください。また、ウォッシャー液は外気温に合わせた希釈割合にしてください。

アドバイス

- 雪が降りそうなときや降雪時にはワイパーアームを起こしておいてください。ワイパーに雪が積もり、破損するおそれがあります。
- ワイパー作動中、雪などの障害物によりワイパーが作動できなくなると、モーター保護のためにワイパーの作動が停止することがあります。その場合は、スイッチをOFFにし障害物を取り除いたあと、モーターが冷えるまで（約1分程度）待ってから、再度スイッチをONにしてください。ワイパーが作動を開始します。
- 凍結などでブレードがガラスに張り付いているときは、作動させないでください。ワイパーが損傷したり、モーターが故障するおそれがあります。
- 窓ガラスが乾いているときは、ウォッシャー液を噴射してからワイパーを使ってください。ガラスが乾いた状態でワイパーを使用すると、ガラスやブレード（ゴム部）を傷つけるおそれがあります。
- ウォッシャー液が出ないときは、そのままで30秒以上作動させないでください。モーターが故障する原因となります。
- ウォッシャー液を補給しても液が出ないときは、日産販売会社にご相談ください。

サンバイザー

- 前方からの日差しを防ぐときは、下に下げて使います。
- 横からの日差しを防ぐときは、下に下げてフックから外し、横にして使います。

- サンバイザーを横方向に引き出すと、より横からの日差しを防ぐことができます。

照明付きバニティミラー

● サンバイザー裏側にバニティミラー（鏡）が付いています。
● サンバイザーを下に下げ、ふたを開けて使います。

カードホルダー

● 領収書や通行券などを挟みます。

アドバイス

● 炎天下での駐車は車内が大変高温になるため、カードを入れたままにしないでください。カードが変形するおそれがあります。

マップランプ

● 次のようにマップランプの点灯･消灯のしかたを変えられます。

スイッチ	点灯･消灯のしかた
全点灯スイッチ	スイッチを押すと、マップランプおよびリヤパーソナルランプが常時点灯します。もう一度押すと消灯します。
ドア連動OFFスイッチ	スイッチを押すと、常時消灯します。
マップランプスイッチ	スイッチを押した方のマップランプが点灯します。もう一度押すと消灯します。

アドバイス

● 電源ポジションがOFFのときは、マップランプを長時間点灯させないでください。12Vバッテリーがあがるおそれがあります。

知識

● ドア連動OFFスイッチが押し込まれていないときは、次の条件で点灯します。
  - ドアが開いているとき
  - 電源ポジションをOFFにしてから約15秒間
  - 電源ポジションがOFFのとき、ドアを解錠してから約15秒間
  - 電源ポジションがOFFのとき、ドアを閉めてから約15秒間

● ナビゲーションシステムで室内照明の設定ができます。詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。

バッテリーセーバー

● 12Vバッテリーあがりを防止するため、室内照明は15分以上点灯し続けると、自動的に消灯します。

リヤパーソナルランプ

- スイッチを押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。

アドバイス

- 電源ポジションがOFFのときは、リヤパーソナルランプを長時間点灯させないでください。12Vバッテリーがあがるおそれがあります。

知識

- マップランプのドア連動OFFスイッチが押し込まれていないときは、次の条件で点灯します。
  – ドアが開いているとき
  – 電源ポジションをOFFにしてから約15秒間
  – 電源ポジションがOFFのとき、ドアを解錠してから約15秒間
  – 電源ポジションがOFFのとき、ドアを閉めてから約15秒間
- ナビゲーションシステムで室内照明の設定ができます。詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。

バッテリーセーバー

- 12Vバッテリーあがりを防止するため、室内照明は15分以上点灯し続けると、自動的に消灯します。

オーバーヘッドコンソールについて

サングラスなどを収納することができます。

- 開けるときは、ふたを押します。
- 閉めるときは、ロックするまで押し戻します。

⚠ 注意

- 開閉は停車中に行い、開けたまま走行しないでください。また、重量のある物を入れないでください。落下して思わぬケガにつながるおそれがあります。
- 炎天下での駐車は大変高温になりますので、サングラス、メガネ、ライターなどを入れたままにしないでください。変形するおそれがあります。

グローブボックス

開閉のしかた

- 開けるときは、ノブを手前に引きます。
- 閉めるときは、ロックするまでふたを押します。

施錠・解錠のしかた

- メカニカルキー（➔P.362）で施錠・解錠します。
- メカニカルキーは半分ぐらい差し込んだ状態で止まります。

解錠
施錠

⚠ 注意

- グローブボックスを開けたまま走行しないでください。ブレーキをかけたとき収納した物が飛び出したり、ふたに当たるなどして、思わぬケガをするおそれがあります。
- ふたを開けるときは、ゆっくり開けてください。ふたを全開にしたとき、身体に当たるおそれがあります。

センターコンソールボックス

センターコンソールボックスについて

- 開けるときは、ロックノブを引き上げながら、ふたを開けます。
- 閉めるときは、ロックするまでふたを押します。

注意

- コンソールボックスを開けたままにしないでください。開けたふたで思わぬケガをするおそれがあります。

知識

- コンソールボックス内には、電源ソケット、USBコネクタ、外部機器の入力端子（オーディオ、ビデオ）、SDカード挿し込み口があります。
  USBコネクタ、外部機器の入力端子（オーディオ、ビデオ）、SDカード挿し込み口については別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。
  ➔ 電源ソケット (P.350)

カップホルダー（前席）

- センターコンソールにあります。

⚠ 警告

- 運転中は、信号待ちなどの停車中に使ってください。走行中に飲み物を出し入れすると前方不注意となり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- 飲物の容器によっては確実に固定されないことがあるため、こぼさないよう注意してください。
- 車室内のスイッチや画面などに飲み物をこぼさないようにしてください。故障や火災のおそれがあります。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

カップホルダー／ボトルホルダー

カップホルダー（後席）

- リヤセンターアームレストにあります。
- ふたを開けて使います。
- 使わないときは、ふたを閉めます。

ボトルホルダー

- ボトルホルダーは、運転席および助手席のドアポケットにあります。

⚠ 警告

- 運転中は、信号待ちなどの停車中に使ってください。走行中に飲み物を出し入れすると前方不注意となり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ピンなどの硬いものは入れないでください。側面衝突などの事故のとき、重大な傷害につながるおそれがあります。

注意

- 飲物の容器のよっては確実に固定されないことがあるため、こぼさないよう注意してください。
- 車室内のスイッチや画面などに飲み物をこぼさないようにしてください。故障や火災のおそれがあります。

前席用灰皿

- センターコンソール前方にあります。
- 開けるときは、ふたを押します。
- 閉めるときは、ふたを押し戻します。
- 取り外すときは、灰皿内側のケースを持って引き出します。
- 取り付けるときは、そのまま押し込みます。

注意

- 灰皿を使ったあとはマッチやタバコの火が消えていることを確認し、ふたを必ず閉めてください。また、紙くずなど燃えやすい物は入れないでください。出火するおそれがあります。

アドバイス

- 灰皿内側のケースを水洗いしたときは、必ず完全に乾かしてから取り付けてください。水で濡れたまま取り付けると故障の原因になります。

後席用灰皿

- コンソールボックスの後ろにあります。
- ふたを引いて開けます。
- 取り外すときは、火消しの部分を押さえながら引き出します。
- 取り付けるときは、灰皿の下側を先に入れ、火消しの部分を押さえながら押し込みます。

⚠ 注意

- 灰皿を取り外すために火消しの部分を押さえるときは、火消しの部分が確実に冷えていることを確認してください。タバコの火を消した直後は高温になるため、すぐに触れるとやけどのおそれがあります。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

シガーライターについて

電源ポジションがACCまたはONのとき使えます。

① 前席用灰皿のふたを開けます。
② シガーライターを押し込み、手を離して約10秒待ちます。
③ 自動的に元の位置に戻ったら引き抜いて使います。

⚠ 注意

- シガーライターは信号待ちなどの停車中に使ってください。走行中に使うと前方不注意となり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- シガーライターの金属部分に触れないでください。やけどをするおそれがあります。
- シガーライターを押し込んだまま押さえないでください。過熱して焼損するおそれがあります。
- 他車のシガーライターを差し込まないでください。また、シガーライターの差し込み口からは、日産純正品以外の電気製品の電源を取り出さないでください。焼損や火災など、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- シガーライターを使用したあとは、必ずソケットへ戻してください。センターコンソールなどに放置すると、焼損や火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- 30秒たっても自動的に戻らないときは、元の位置まで引き戻し、日産販売会社で点検を受けてください。

電源ソケット

カーアクセサリーの電源をとるときに使います。
電源ポジションがACCまたはONのとき使えます。

電源ソケットについて

- センターコンソールボックス内にあります。
- ふたを開けて使います。
- 使わないときは、ふたを閉めます。
- 容量は、12V（ボルト）、10A（アンペア）、120W（ワット）です。
- 相手プラグを挿入したり抜いたりするときは、使用機器側の電源スイッチをOFFにするか、電源ポジションをOFFにしてください。

⚠ 注意

- 2マタソケットなどでタコ足配線をしないでください。
- 安全のため、消費電力120W以下のものを使ってください。
- 相手プラグをソケットの奥まできちんと挿入して使ってください。挿入が不完全だと、発熱し車両のヒューズが切れる場合があります。
- 使用中や使用直後はソケットや相手プラグが熱くなっていることがあるため、注意してください。
- シガーライターをソケットに差し込まないでください。
- ソケットに水をかけたり、指や金属などを入れたりしないでください。

アドバイス

- 12Vバッテリーあがりを防止するため、ハイブリッドシステムを始動した状態で使用してください。また、長時間使ったり、エアコン、ヘッドランプ、リヤデフォッガーなどを同時に使わないでください。

アシストグリップ／コートハンガーについて

● アシストグリップは前席および後席左右にあります。
● 後席左右にはコートハンガーが付いています。

コートハンガー

⚠ 注意

● コートハンガーにハンガーなど先のとがった物をかけないでください。SRSエアバッグが作動したときに飛ばされて、思わぬ傷害につながるおそれがあります。

アドバイス

● コートハンガーには1kg以上の物をかけないでください。

トランクフックについて

- 荷物の固定用としてネットなどをかけるときに使います。

アドバイス

- フックには大きな力がかからないようにしてください。破損するおそれがあります。
- 3kg以上の物をかけないでください。フックが破損するおそれがあります。

ゴルフバッグの収納のしかた

トランクにゴルフバッグを4個載せるときは、次のように組み合わせると乗せやすくなります。

① 1個目のゴルフバッグのヘッド側を左に向けて入れ、そのまま奥まで押し込みます。
② 2個目のゴルフバッグのヘッド側を右に向けて入れます。
③ 3個目のゴルフバッグのヘッド側を右に向けて入れ、①の上に押し込みます。
④ 4個目のゴルフバッグのヘッド側を左に向けて入れます。

知識

- 9インチのゴルフバッグまで収納できますが、形状・大きさにより収納できない場合があります。

アクティブ･ノイズ･コントロール

- 天井のマイクでエンジンのこもり音を検知し、スピーカーから自動的にこもり音を打ち消す音を出すことで車内の静粛性を高めます。

マイク
スピーカー
ウーファー★

アドバイス

- アクティブ･ノイズ･コントロールを正常に作動させるために以下のことをお守りください。
  - スピーカーの周辺に物を置かない
  - マイクの穴をふさがない
  - スピーカー（BOSE®サウンドシステム付車はウーファーも含む）、パワーアンプなどのオーディオ機器を交換または改造しない
  - スピーカーやマイク取り付け部周辺を改造（デッドニングなど）しない

知識

- 車両前方のマイクはマップランプにあります。
- スピーカーは全ドアにあります。
- マイクおよびマイク周辺をたたくと、スピーカーから音が出ることがありますが、異常ではありません。

アクティブ･サウンド･コントロール

- 走行時、エンジン回転数やドライブモードに応じた音をスピーカーから出すことで、車内で聞こえるエンジンサウンドの音質を高めます。

アドバイス

- アクティブ･サウンド･コントロールを正常に作動させるために次のことをお守りください。
  – スピーカーの周辺に物を置かない
  – スピーカー（BOSE®サウンドシステム付車はウーファーも含む）、パワーアンプなどのオーディオ機器を交換または改造しない
  – スピーカー取り付け部周辺を改造（デッドニングなど）しない

知識

- スピーカーは全ドアにあります。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

フロアカーペット

この車（年式）専用のフロアカーペットが設定されています。
床の上にしっかりと固定して正しく使用してください。

固定のしかた

- 床面には日産純正フロアカーペット用の固定クリップが付いています。
- フロアカーペットを床の形状に合わせて敷き、取り付け穴に固定クリップのピンを通して確実に固定します。
- 車種により、固定クリップ·ピンの形状や、各シートごとに設定されている数量は異なります。詳しい固定方法は、日産販売会社にお問い合わせください。

⚠ 警告

- この車（年式）専用のフロアカーペットを、床の上にしっかりと固定して正しく使用してください。フロアカーペットがずれて各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たりブレーキが効きづらくなるなど、重大な傷害につながるおそれがあります。
- 運転席にフロアカーペットを敷くときは、次のことをお守りください。
  - 日産純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアカーペットは使用しない
  - フロアカーペットでペダルを覆わない
  - フロアカーペットを重ねて敷かない
  - フロアカーペットがずれないように固定クリップで確実に固定する
  - 運転席専用のフロアカーペットを使用する
  - フロアカーペットを前後さかさまにしたり、裏返して使用しない
- 運転する前にフロアカーペットが正しく固定されていることを定期的に確認し、洗車後は必ず確認してくだ

⚠ 警告

さい。

● 運転する前、電源ポジションがOFFの状態でセレクトレバーが P のときに各ペダルをいっぱいに踏み込み、フロアカーペットと干渉しないで運転に支障がないことを確認してください。

ランフラットタイヤについて

この車両はランフラットタイヤを装着しているため、スペアタイヤを搭載していません。
ランフラットタイヤは、パンクした場合でも一時的に走行することができます。

- パンクしたときは、タイヤ空気圧警告灯（➔ 警告灯 (P.255)）の点灯およびメーター内のディスプレイの警告表示（➔ ドライブインジケーター (P.278)）と合わせて警報が鳴ります。
- 次のことを守って走行し、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。
  - 急加速、急ハンドル、急ブレーキを避ける
  - 時速80km/h以下で走行する
  - タイヤ交換まで150km以上走行しない
  - 段差などの乗り越えに注意する
- タイヤの損傷が激しいときは、タイヤを交換してください。

⚠ 注意

- パンクした状態での走行は一時的な応急用です。すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。
- パンクした状態での走行中、異常な音や振動を感じたときは、ただちに安全な場所へ停車し、日産販売会社へご連絡ください。
- 走行中に異常を感じる場合はトレーラーに車載してください。
- パンクした状態での走行可能距離は外気温や路面状況、その他の走行条件により変化します。
- 正常時に比べ、走行安定性が損なわれるため、規定の速度内においても急加速や急ブレーキ、急旋回は避けて注意して走行してください。
- パンク修理剤は使用しないでください。タイヤ空気圧警報システムが故障する原因になります。
  ➔ タイヤ空気圧警報システム (P.402)
- パンクした状態で、タイヤチェーンは使用しないでください。
- パンクした状態で、洗車機に入れないでください。車が洗車機と干渉し、損傷するおそれがあります。

知識

- メーター内のディスプレイで4輪のタイヤ内圧を確認することができます。
ドライブコンピューター (P.272)

メカニカルキーによる施錠・解錠

運転席ドアにある鍵穴にメカニカルキーを差し込んで回します。

- 車両前方にキーを回すと施錠します。
- 車両後方にキーを回すと解錠します。

解錠　施錠

知識

- メカニカルキーはインテリジェントキーに内蔵されています。

トラブルがおきたときは

インテリジェントキーで始動できない

インテリジェントキーの電池が切れたときや、使用環境によりインテリジェントキーと車両の通信が正常に行われていないときは、次の手順で始動してください。

始動のしかた

① ブレーキペダルを踏み、インテリジェントキーのロゴマーク裏面をパワースイッチに接触させます。（ブザーが“ピピッ”と鳴ります。）

② ブザーが鳴ってから10 秒以内に、ブレーキペダルを踏んだままパワースイッチを押すと、電源ポジションが切り替わります。

アドバイス

- 左記の手順で始動できない場合は、早めに日産販売会社に連絡してください。

知識

- 停止操作は通常と同じ手順です。
- ドアの施錠･解錠は、メカニカルキー（➔P.362）を使って行ってください。
- インテリジェントキーの電池が切れたときは、早めに電池を交換してください。
➔ インテリジェントキーの電池交換(P.302)

ジャンプスタートのしかた

12Vバッテリーがあがり、ハイブリッドシステムの始動ができなくなったときは救援車を依頼し、ブースターケーブル（別売り）をつないで始動してください。

①⊕
②⊕
③⊖
④⊖

ジャンプスタートのしかた

1	自車と救援車の電源ポジションをOFFにし、フードを開けます。 ➔ パワースイッチ (P.76)	
2	ブースターケーブルを自車のヒューズボックスの(+)端子に接続します。	
3	手順2のケーブルの反対側を救援車の12Vバッテリーの(+)端子に接続します。	
4	もう1本のブースターケーブルを救援車の12Vバッテリーの(-)端子に接続します。	

次のページに続く

ジャンプスタートのしかた

前のページから

5	手順4のケーブルの反対側を自車の車体（12Vバッテリーから離れたステーなど）に接続します。	
6	救援車のエンジンを始動し、回転数を少し高めにします。	
7	ブレーキペダルⒶをしっかりと踏みながら、パワースイッチⒷを1回押します。	
8	ハイブリッドシステムが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の手順で外します。	

⚠ 警告

- 12Vバッテリーを充電するときは換気を十分に行い、火気は近づけないでください。バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあります。
- 12Vバッテリー液は希硫酸です。目や皮膚に付着すると、失明や炎症など重大な傷害につながるおそれがあります。万一、付着したときは、すぐに　多量の水で洗浄し、飲み込んだときは多量の水を飲んで応急処置をしたあと、医師の診療を受けてください。
- ブースターケーブルをつなぐときは、以下のことを必ずお守りください。火花が発生し、12Vバッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発し、やけどなど重大な傷害につながるおそれがあります。
  - ブースターケーブルを正しい順番と位置でつなぐ
  - ブースターケーブルを自車バッテリーの(-)端子に直接つながない
  - ブースターケーブルの(+)端子と(-)端子を接触させせない

注意

- ブースターケーブルのワニグチクリップは、車体に触れたり、他のワニグチクリップと接触しないように注意してください。
- ブースターケーブルは、エンジン始動時の振動で外れたりしないように、確実につないでください。
- ブースターケーブルをつなぐときや外すときは、冷却ファンやベルトに巻き込まないように注意してください。

アドバイス

- 押しがけでの始動はできません。
- 救援車には12Vバッテリー仕様の車両を使用してください。

警告灯がついたときは

運転中に警告灯·表示灯が点灯または点滅したときは、次の対処方法に従ってください。
車両故障のおそれがない表示灯の説明は、➔ 警告灯·表示灯 (P.254)をお読みください。

名称	点灯·点滅する条件	説明·対処方法
故障警告灯（MIL）	● 正常なときは、電源ポジションをONにすると点灯し、ハイブリッドシステムが始動すると消灯します。 ● 電源ポジションがONのとき、エンジン電子制御システムに異常があると点灯または点滅します。	● 点灯または点滅したときは、すみやかに安全な場所に停車し、日産販売会社に連絡してください。
12V系充電警告灯	● 正常なときは、電源ポジションをONにすると点灯し、ハイブリッドシステムが始動すると消灯します。 ● 電源ポジションがONのとき、12Vバッテリーの充電系統に異常があると点灯します。	● 点灯したときは、すみやかに安全な場所に停車し、日産販売会社に連絡してください。
ブレーキ警告灯（赤色）	● 正常なときは、電源ポジションをONにすると点灯し、数秒後に消灯します。（パーキングブレーキをかけているときは消灯しません） ● 電源ポジションがONのとき、次の場合に点灯します。 – パーキングブレーキをかけたとき – ブレーキ液が不足しているとき – ブレーキシステムに異常があるとき	● パーキングブレーキがかかっているときは、パーキングブレーキを解除します。 ● パーキングブレーキを解除しても点灯するときは、ただちに安全な場所に停車して、日産販売会社に連絡してください。ブレーキの効きが悪いときは、ブレーキペダルを強く踏んで停車してください。 ● ブレーキ液が正常でABS警告灯と同時に点灯したときは、高速走行や急ブレーキを避け、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。

名称	点灯·点滅する条件	説明·対処方法
ブレーキシステム警告灯（黄色）	● 正常なときは、電源ポジションをONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● 電源ポジションがONのとき、次の機能に異常があると点灯します。 – ブレーキシステム – 回生協調ブレーキ – ヒルスタートアシスト – ブレーキ効き感向上機能	● パーキングブレーキを解除し、ブレーキ液量が正常でブレーキ警告灯（赤色）と同時に点灯したときは、ただちに安全な場所に停車して、日産販売会社に連絡してください。このときは、ブレーキの効きが極度に悪くなっているおそれがあります。ブレーキの効きが悪いときは、ブレーキペダルを強く踏んで停車してください。 ● ブレーキ警告灯（赤色）と同時に点灯していないときは、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。
ABS警告灯	● 正常なときは、電源ポジションをONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● ABSのシステムに異常があると点灯します。	● 電源ポジションをONにしても点灯しないとき、または点灯し続けるときは、高速走行や急ブレーキを避け、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。
シートベルト警告灯	● 電源ポジションがONのとき、シートベルトを着用していないと点灯します。 ● 点灯したまま走行すると、シートベルト非着用警報（シートベルトリマインダー）が鳴ります。 ● シートベルト警告灯は各座席ごとに点灯し、後席のシートベルト警告灯は、前席灰皿の上部にあります。 ● 後席シートベルトを外すと前席灰皿上部の警告灯の点灯と合わせてメーター内のディスプレイに警告表示します。	● シートベルトを着用してください。

警告灯がついたときは

名称	点灯･点滅する条件	説明･対処方法
燃料残量 警告灯	● 電源ポジションがONのとき、燃料の残量が少ないと点灯します。	● すみやかに指定の燃料を補給してください。
SRSエアバッグ 警告灯	● 正常なときは、電源ポジションをONにすると点灯し、約7秒後に消灯します。 ● 電源ポジションがONのとき、SRSエアバッグのシステム、プリテンショナー機能に異常があると、点灯または点滅を続けます。	● すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。
VDC警告灯	● 正常なときは、電源ポジションをONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● VDC作動中に点滅します。 ● 電源ポジションがONのとき、次のシステムに異常があると点灯します。 － VDC － 左右制動力分配機能 － ブレーキアシスト機能	● 点灯中は、左記のシステムの作動は停止しますが、それらのシステムのない普通の車として走行できます。滑りやすい路面では注意して走行し、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。
ポップアップエンジンフード警告灯	● 正常なときは、電源ポジションをONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● 電源ポジションがONのとき、ポップアップエンジンフードの電子制御システムに異常があると点灯します。	● 電源ポジションをONにしても点灯しないとき、または点灯し続けるときは、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。

警告灯がついたときは

名称	点灯･点滅する条件	説明･対処方法
パワーステアリング警告灯	● 正常なときは、電源ポジションをONにすると点灯し、ハイブリッドシステムが始動すると消灯します。 ● パワーステアリングのシステムに異常があると点灯します。	● すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。 ● 点灯しているときは、パワーステアリングは作動しませんが、マニュアルステアリングの性能は確保されています。この場合は、ハンドルの操作力が重くなります。
ハイブリッドシステム警告灯	● 正常なときは、電源ポジションをONにすると点灯し、ハイブリッドシステムが始動すると消灯します。 ● モーターや高電圧システムなどに異常が発生すると点灯します。 ● 走行中にリチウムイオンバッテリーの残量が低下し、走行できなくなるおそれがあると点滅します。	● 点灯したときは、すみやかに安全な場所に停車し、日産販売会社に連絡してください。 ● 点滅したときは、ブレーキを踏みすみやかに安全な場所に停車してください。点滅が消えたあとは、走行可能な状態になります。
タイヤ空気圧警告灯	● 正常なときは、電源ポジションをONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● タイヤ空気圧警報システムに異常があると、約１分間点滅したあと点灯します。 ● タイヤ空気圧が低下すると点灯し、メーター内のディスプレイに警告が表示されます。 ● タイヤがパンクすると点灯し、メーター内のディスプレイに警告が表示され、タイヤ空気圧警報が約10秒間鳴ります。	● タイヤ空気圧警報システムに異常があったときは、日産販売会社で点検を受けてください。 ● タイヤ空気圧が低下したときは、安全な場所に停車し、タイヤを確認してください。 ● パンクではなく、タイヤ空気圧が低下しているときは、指定の空気圧に調整してください。 ● タイヤがパンクしたときは、すみやかに日産販売店で点検を受けてください。 ● タイヤ空気圧の調整後は、必ずシステムのリセット操作をしてください。

名称	点灯･点滅する条件	説明･対処方法
エマージェンシーブレーキ警告灯★	● 正常なときは、電源ポジションをONにすると点灯し、ハイブリッドシステムが始動すると消灯します。 ● ハイブリッドシステムを始動しても点灯し続けるときは、次のことが考えられます。 － ナビゲーションシステムで、エマージェンシーブレーキをOFFにしている － VDCをOFFにしている － VDCが作動したとき － 周辺の電波源の影響を受けているとき － センサーの汚れなどで、エマージェンシーブレーキが一時的に作動できない状態になっている － エマージェンシーブレーキのシステムに異常が発生している	● ナビゲーションシステムでエマージェンシーブレーキをONにすると消灯します。 ● 一時的に作動できない状態になっていないか確認してください。 ● VDCをONにしてください。 ● 上記のことを確認しても点灯しているときは、日産販売会社で点検を受けてください。
マスターウォーニング	● メーターのディスプレイに警告メッセージが表示されたときに同時に点灯します。	● 警告メッセージを確認し、それぞれの対処方法に従ってください。 ● 警告が表示されたときは、すみやかに適切な処置をしてください。放置すると故障や思わぬ事故につながるおそれがあります。

ブザー（警報音）が鳴ったときは

車両盗難などを防ぐため、車内外でブザー（警報音）が鳴ることがあります。

<table>
<tr><th>どこで音が鳴りましたか？</th><th>どんな音が鳴りましたか？</th><th>何をしたときに鳴りましたか？</th><th>確認すること</th></tr>
<tr><td rowspan="7">車外</td><td rowspan="3">ピピピピ…</td><td>ドアハンドルのリクエストスイッチを押したとき</td><td>● 電源ポジションはOFFになっているか
● インテリジェントキーを車室内またはトランク内に置き忘れていないか
● いずれかのドアが半ドアになっていないか
● ドアを閉める前にリクエストスイッチを押していないか</td></tr>
<tr><td>インテリジェントキーのドア施錠スイッチを押したとき</td><td>● いずれかのドアが半ドアになっていないか
● ドアを閉める前に施錠スイッチを押してはいないか</td></tr>
<tr><td>ドアを閉めたとき</td><td>● 無意識にリクエストスイッチを押していないか</td></tr>
<tr><td>ピッピッピッ</td><td>ドアを閉めたとき</td><td>● 電源ポジションがACCまたはONのまま、インテリジェントキーが車外に持ち出されていないか</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ピー</td><td>ドアを閉めたとき</td><td>● セレクトレバーがPになっているか</td></tr>
<tr><td>トランクを閉めたとき</td><td>● インテリジェントキーをトランク内または車内に置き忘れていないか</td></tr>
<tr><td>キー(金属音)</td><td>走行中にブレーキペダルを踏んだとき</td><td>● ディスクブレーキのパッド(摩擦材)が摩耗していないか
● 金属音が発生したときは、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。そのまま走行を続けると、ブレーキが効かなくなり、事故につながるおそれがあります。</td></tr>
</table>

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

ブザー（警報音）が鳴ったときは

どこで音が鳴りましたか？	どんな音が鳴りましたか？	何をしたときに鳴りましたか？	確認すること
車室内	ポーン、ポーン、ポーン…	パワースイッチを押したとき	● 運転席ドアが開いていないか
	ピピッピピッピピッ	ドアを閉めたとき	● 電源ポジションがACCまたはONのまま、インテリジェントキーが車外に持ち出されていないか
		パワースイッチを押したとき	● インテリジェントキーを携帯しているか ● インテリジェントキーを携帯してもブザーが鳴るときは、インテリジェントキーの電池を交換してください
	ピピッピピッ…	運転席ドアを開けたとき	● 電源ポジションがONのままになっていないか ● セレクトレバーがＰになっているか

窓ガラスのくもりの取りかた

フロントの窓ガラスがくもるときは、デフロスタースイッチを押します。
電源ポジションがONのとき使えます。

デフロスタースイッチ

- スイッチを押すとデフロスターから風が吹き出し、吸い込み口が外気導入になります。
（表示灯が点灯）
- 止めるときは、もう一度スイッチを押します。
（表示灯が消灯）

表示灯

注意

- デフロスタースイッチをONにしているときにエアコンの設定温度を低くすると、フロントガラスの外側に露が付き、視界を妨げるおそれがあります。

アドバイス

- デフロスタースイッチをONにしているときは、内気循環にしないでください。くもりが取れにくくなります。

知識

- エアコンがOFFのとき、デフロスタースイッチを押すとエアコンも自動的に作動します。
- 早くくもりを取りたいときは、風量を強くしてください。
風量の調節のしかたは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。

窓ガラスのくもりの取りかた

リヤの窓ガラスがくもるときは、リヤデフォッガースイッチを押します。
電源ポジションがONのときに使えます。

リヤデフォッガースイッチ

- スイッチを押すと約15分間作動します。
  （表示灯が点灯）
- 止めるときは、もう一度スイッチを押します。
  （表示灯が消灯）

表示灯

アドバイス

- 連続して長時間使用しないでください。消費電力が大きいため12Vバッテリーあがりの原因になります。

知識

- リヤデフォッガースイッチを押すと、ドアミラーヒーターも同時に作動します。

オーバーヒートしたときの対処方法

次のようなときは、オーバーヒートです。
・メーター内のディスプレイに「オーバーヒート」と表示されたとき
・エンジンルームのすき間から蒸気が出ているとき

処置のしかた

1	ただちに安全な場所に停車します。	
2	ハイブリッドシステムを作動させたままエンジンフードを開け、風通しをよくしてエンジンを冷やします。 万一、冷却ファンが回っていないときは、ただちにハイブリッドシステムを停止し、自然冷却してください。	
3	メーター内のディスプレイの水温計がオーバーヒートの範囲より下がったら、ハイブリッドシステムを停止させしばらく待ちます。 エンジンが十分冷えてから冷却水の量、ホースなどからの水漏れを点検してください。	C H
4	冷却水が不足しているときは、エンジン冷却用のラジエーターとリザーバータンクに冷却水を補充してください。 補充後は、しっかりキャップを閉めてください。	冷却水補充 十分に冷えてからラジエーターキャップを外す

⚠ 警告

- エンジンルーム内は高温になっているため、エンジンフードを開けるときは十分に注意してください。
やけどなど重大な傷害につながるおそれがあります。
- 蒸気が出ているときは、エンジンフードを開けないでください。やけどなど重大な傷害につながるおそれがあります。
エンジンを止め、蒸気が出なくなるまで待ち、エンジンフードを開けてください。
- エンジンが十分に冷えていないときは、ラジエーターやリザーバータンクのキャップを外さないでください。蒸気や熱湯が噴き出し、やけどなど重大な傷害につながるおそれがあります。

次のページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

オーバーヒートしたときの対処方法

前のページから

5	走行中、再度「オーバーヒート」とメーター内のディスプレイに表示され、メーター内のディスプレイの水温計がオーバーヒートの範囲になったときは、手順1～手順4の作業を繰り返し行ってください。	C H
6	早めに日産販売会社で点検を受けてください。	

アドバイス

- 応急的に水だけを補充したときは、できるだけ早くエンジンクーラントを交換してください。

知識

- ハイブリッドシステムがオーバーヒートしたときは、メーター内のディスプレイに「ハイブリッドシステムオーバーヒート」と表示されます。
  ハイブリッドシステムのオーバーヒートについては、➔ ドライブインジケーター (P.278)をお読みください。

セレクトレバーが動かない

シフトロックの解除のしかた

万一セレクトレバーを P から動かせないときに使います。

① 安全のためパーキングブレーキをかけ、ブレーキペダルを踏み続けます。

② お手持ちのマイナスドライバーなどでふたを外します。
傷つきを防ぐため、ドライバーに布などを当てて外してください。

③ メカニカルキーでシフトロック解除ボタンを押しながらセレクトレバーのボタンを押して、セレクトレバーを動かします。
➔ メカニカルキーによる施錠･解錠(P.362)

アドバイス

- セレクトレバーを P から動かせないときは、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。

雪道やぬかるみからの脱出のしかた

砂地、雪道、ぬかるみなどから抜け出せなくなったときは、次の方法で脱出してください。

1	VDC OFFスイッチを押して、VDCをOFFにします。	
2	車両の前後に障害物が無いことを確認し、ハンドルを左右に回し、前輪の周囲をならします。 後輪周辺の雪や土を取り除き、必要に応じてタイヤの下に木材などをそえてください。	
3	ゆっくりとアクセルペダルを踏み、前進または後退します。 周囲の安全を確認したうえで、前進と後退を繰り返してください。	

警告

- 周囲の人や物との衝突を避けるため、前進と後退を繰り返すときは、周囲に何もないことを確認してください。特に脱出の瞬間は、車両が前方または後方に飛び出すおそれがあります。
- 必要以上にアクセルペダルを踏み込まないでください。急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意

- ぬかるみ、砂地、積雪路、側溝などから脱出するとき、過度にタイヤを空転させると、タイヤがバースト（破裂）したり駆動部品の異常過熱により思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

アドバイス

- 数回試しても脱出できないときは、日産販売会社またはJAFなどのロードサービスに連絡してください。

けん引について

けん引が必要なときは、日産販売会社またはJAFなどのロードサービスに依頼してください。

他車にけん引してもらうとき

1	先の細いお手持ちの工具を布などで覆い、フロントバンパーのカバーの溝に差し込んでカバーを外します。	
2	ホイールナットレンチを使って、けん引フックを取り付けます。 ➔ 工具類の格納場所 (P.388)	
3	自車および他車のけん引フックにロープを掛け、ロープ中央に30cm x 30cm以上の白い布を取り付けます。 ロープを掛けるときは、できるだけ同じ側で水平になるように掛けてください。	5m以内 25m以内
4	ハイブリッドシステムを始動させ、セレクトレバーをNにし、パーキングブレーキを解除します。 ハイブリッドシステムが始動できないときは、電源ポジションをACCまたはONにしてください。	

⚠ 警告

- 電源ポジションがLOCKで12Vバッテリーがあがると、ステアリングロックの解除ができなくなるため、このままの状態でけん引しないでください。けん引するときは救援車のバッテリーとつなぎ、電源ポジションをACCまたはONにしてハンドル操作ができる状態で行ってください。また、けん引中は電源ポジションをLOCKにしないでください。ハンドル操作ができなくなり危険です。

⚠ 注意

- ハイブリッドシステムが停止していると、ブレーキやパワーステアリングの倍力装置が働かなくなるため、極度にブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作力が重くなりますので注意してください。
- 長い下り坂では、ブレーキが過熱して効かなくなり、事故につながるおそれがあります。このような場所でけん引するときは、レッカー車で引いてもらってください。
- けん引フックに指定以外のフックは絶対に使わないでください。フック

注意

部が破損するおそれがあります。

- 4WD車はトレーラーに車載するか、4輪接地の状態でけん引してもらってください。2輪を上げた状態でけん引すると、上げた車輪が回転して、思わぬ事故や故障につながるおそれがあります。
- 前輪を上げてけん引するときは、電源ポジションをONにしないでください。VDCが作動しブレーキがかかることがあります。

アドバイス

- けん引してもらうときは、速度30km/h以下、距離30km以内にしてください。高速走行や長距離走行をすると、トランスミッションが破損するおそれがあります。できるだけレッカー車、またはトレーラーを依頼してください。
- けん引中はロープをたるませないように、前の車の制動灯に注意してください。
- けん引フックは他車をけん引するために使用しないでください。

知識

- けん引が終わったら、けん引フックを取り付けたときと逆の手順で取り外します。

けん引について

■ けん引するときは

- けん引が必要なときは、日産販売会社またはJAFなどのロードサービスに依頼してください。やむを得ずけん引するときは、できる限り短距離の移動のみとしてください。
- 車両が動かなかったり、異常な音がするときは、けん引せずに日産販売会社へご連絡ください。
- 車両を運搬するときは、2WD車は、後輪または4輪を、4WD車は4輪を持ち上げてください。
- トレーラーに車載するときは、車両をウインチ（巻き上げ機）などで引き上げてください。

■ 後ろ側のフックについて

● 後ろ側のフックは船舶輸送時の固定専用です。けん引やトレーラー輸送時などの固定には絶対に使わないでください。この車で他車をけん引することはできません。

アドバイス

● けん引用として使うと、車両を損傷するおそれがあります。
● トレーラーなどで輸送するときは、車両下側のタイダウンフックを使い固定してください。

● 船舶輸送時は、フロントのけん引フックとリヤのタイダウンフックを使い固定してください。

発炎筒の使いかた

故障や事故などで緊急停車したとき、周囲に危険を知らせるために使います。

1	助手席足元部のホルダーから発炎筒を外します。	
2	本体を回しながらケースから引き抜きます。	
3	ケースのすり薬で先端をこすって点火します。	

警告

- お子さまには触らせないでください。いたずらなどで発火するおそれがあり危険です。
- 可燃物の近くで使わないでください。引火する危険があります。
- 点火は必ず車外で行い、点火後は顔や身体に近づけないでください。やけどをする危険があります。
- トンネル内では使わないでください。煙で視界が悪くなり、他車の走行の妨げとなり事故をまねくおそれがあります。このときは非常点滅表示灯を使ってください。

アドバイス

- 点火後は約5分間燃え続けます。
- 発炎筒に記載してある使用方法、注意をあらかじめ確認しておいてください。
- 発炎筒には有効期限があります。期限が切れる前に日産販売会社でお買い求めください。

故障したときの対処方法

車両が故障したときは、次の手順を実施してください。

1	非常点滅表示灯で後続車に危険を知らせながら、できるだけ路肩に寄せて停車します。 路肩が無い場所では、可能な限り広いところまで自走します。	
2	同乗者をガードレールの外側などに避難させ、➔ 発炎筒の使いかた (P.385)や停止表示板（停止表示灯）を車両の後方に置きます。 高速道路や自動車専用道路では、50m以上後方に置いてください。	50m以上
3	運転者もガードレールの外側などに避難します。 ガードレールの外側に避難ができない場所では、車両から離れてガードレールに身を寄せます。	
4	非常電話や携帯電話などで救援依頼をします。	

⚠ 注意

- ハイブリッドシステムが停止していると、ブレーキやパワーステアリングの倍力装置が働かなくなるため、極度にブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルの操作力が重くなりますので注意してください。

アドバイス

- 高速道路や自動車専用道路では、停止表示板（停止表示灯）の表示が法律で義務づけられています。
- ガードレールの外側などに退避するときは、停止車両への追突事故が発生したときに巻き込まれないように、車両の後方に避難してください。
- 非常電話は、高速道路上に1kmごとに設置されています。

点検・整備

清掃・お手入れ

サービスデータ

点検･整備について

点検･整備の実施、記録、保存は法律で義務づけられています。
点検･整備については、別冊のメンテナンスノートをお読みください。

点検･整備の種類

- **日常点検**
  走行距離や使用時の状態から判断し、適切な時期にお客さまご自身で行う点検です。いつもと違うことに気がついたら日産販売会社で点検を受けてください。（音、振動、におい、水もれ、油もれなど）
- **定期点検**
  1年ごとに実施する点検です。12か月点検および24か月点検があります。
- **その他の点検**
  日産自動車が指定している、新車時の点検や厳しい使われかたをした場合に必要な点検があります。

知識

- 点検･整備および保証の内容は、別冊のメンテナンスノートに詳しく記載されていますので、必ずお読みください。

工具類の格納場所

- 工具は、トランクルーム下部に格納されています。

フロントけん引フック
ジャッキハンドル兼
ホイールナットレンチ

知識

- ジャッキとジャッキハンドルバーは標準で搭載されていませんので、必要に応じて準備してください。
  ジャッキ、ジャッキハンドルバーのご購入については、日産販売会社にご相談ください。

ジャッキハンドルのセットのしかた

● ジャッキにジャッキハンドルバーとジャッキハンドルをセットします。

ジャッキハンドル
ジャッキハンドルバー

ジャッキアップポイント

● ジャッキアップポイント以外のところにはジャッキをかけないでください。車体が変形するおそれがあります。

⚠ 注意

● ジャッキハンドルを回すときは、ジャッキハンドルバーをしっかり握って回してください。ジャッキハンドルバーが回転中に外れると、思わぬケガをするおそれがあります。

アドバイス

● ジャッキハンドルバーは、確実にジャッキハンドルの穴に差し込んでください。

ジャッキアップのしかた

1	交通の妨げにならず、安全に作業ができる地面(平坦な硬い場所)に停車し、人や荷物を車から降ろします。 停車･駐車のしかた (P.96)
2	ジャッキをかける位置と対角線の位置にあるタイヤに輪止めをします。 輪止めは、前輪をジャッキアップするときは後輪の後ろ側、後輪をジャッキアップするときは前輪の前側に置きます。
3	ジャッキを手で回し、ジャッキの溝がジャッキアップポイントの中央に入るまで上げます。
4	ジャッキハンドルを回して、タイヤと地面が少し離れるまで、ジャッキアップします。

輪止め
対角線

注意

- やわらかい地面の上では行わないでください。ジャッキが倒れ、事故につながるおそれがあります。
- やむを得ず傾斜地で作業する場合は、ジャッキをかける位置と対角線の位置にあるタイヤの下り側に輪止めをし、車が動き出さないようにしてください。

アドバイス

- ジャッキアップポイント以外のところにはジャッキをかけないでください。車体が変形するおそれがあります。

知識

- 輪止めは標準で搭載されていませんので必要に応じて準備してください。なお、輪止めはタイヤを固定できる大きさの石、木片などで代用できます。

エンジンルーム

エンジンルームを点検するときは安全な場所に駐車し、パーキングブレーキをかけた状態でフードを開けます。

フードの開閉

1	運転席右下にあるフードオープナーを引きます。 フードの先端が少し浮き上がります。	
2	フード先端のすき間に手を入れ、レバーを引き上げながらフードを持ち上げます。	レバー
3	閉めるときは、フードをゆっくり降ろし、左右の先端を押しつけ、確実にロックします。	

⚠ 警告

- 走行前に、フードが確実に閉まっていることを、必ず確認してください。ロックされていないと、走行中フードが開いて、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ポップアップエンジンフードが作動したときは、フードオープナーを引かないでください。
  フードオープナーを引くと、さらにフードが上がり視界の妨げとなるため危険です。また、フードを無理に押し戻さないでください。手動では下げることができないため、フードが変形したり、思わぬケガをするおそれがあります。
  ポップアップエンジンフードが作動したときは、必ず日産販売会社にご相談ください。

⚠ 注意

- 風が強いときに開けると、風にあおられますので、しっかり持ってゆっくり開けてください。
- フードを開けたときは、フードに頭などをぶつけないように注意してください。

⚠ 注意

- ラジエーターなどの高温部に触れないでください。やけどをするおそれがあります。
- フードを閉めるときは、手などを挟まないように注意して降ろしてください。

アドバイス

- ワイパーアームを起こしたままフードを開けないでください。フードやワイパーを損傷します。

エンジンルーム内の配置図

ブレーキリザーバータンク
エンジン冷却用ラジエーターキャップ
エンジンオイルフィラーキャップ
インバーター冷却用ラジエーターリザーバータンク
エアクリーナー
エンジン冷却用ラジエーターリザーバータンク
エンジンオイルレベルゲージ
ウォッシャータンク
ヒューズボックス
エアクリーナー

⚠ 警告

● エンジンルーム内の作業をするときは、電源ポジションをOFFにし、走行可能表示灯が消灯していることを確認してください。ハイブリッドシステム作動中にエンジンルーム内に手、衣服、工具などを入れると思わぬケガをするおそれがあります。

⚠ 注意

● 点検や清掃に使用した工具、布、紙類などを、エンジンルーム内に置き忘れないようにしてください。故障や車両火災につながるおそれがあります。

メンテナンス

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

ウォッシャー液の補給

ウォッシャー液が不足しているときは、ウォッシャー液を補給してください。

- ウォッシャータンクのキャップを外し、ウォッシャー液を補給してください。ウォッシャー液容器に記載してある凍結温度を参考に、外気温に応じた希釈割合（濃度）にして補給します。
- ふたの穴を押さえ、引き抜くと、スポイト式にウォッシャー液の残量が点検できます。
- 引き抜いたときにウォッシャー液がチューブ下端にしか入らないと、ウォッシャータンクはほぼ空の状態です。
- 日産純正ウインドーウォッシャー液をおすすめします。
➔ 交換油脂類 (P.433)

⚠ 注意

- ウォッシャー液を補給するときは、液を高温部にかけないようにしてください。出火するおそれがあります。

アドバイス

- ウォッシャー液の代わりに石けん水などを入れないでください。塗装面がしみになるおそれがあります。

冷却水の濃度点検

● 冷却水の凍結を防ぐため、クーラントの濃度を点検してください。

クーラントの濃度	凍結温度
50%	約－35℃

● 冷却水を補充･交換するときは、日産純正スーパーロングライフクーラント(50%希釈品)をお使いください。
交換油脂類 (P.433)

アドバイス

● 工場出荷時は、50%にしてあります。
● 冷却水の点検･補充･交換は日産販売会社にご相談ください。

車が凍結したら

● 凍った部分にお湯をかけて氷を溶かしてください。溶けたらすぐにふき取ってください。

アドバイス

● ドアなどの開閉部分を無理に開けないでください。ゴムがはがれたり損傷するおそれがあります。
● ワイパー、ドアミラー、パワーウインドーなどを無理に動かさないでください。装置が損傷するおそれがあります。
● ドアのキー穴部には、お湯をかけないでください。凍結するおそれがあります。

靴の雪を落とす

- 乗車時、靴に付いた雪はよく落としてください。ペダル類の操作時に滑ったり、窓ガラスのくもりの原因となります。

窓ガラスの雪や霜を落とす

- プラスチックの板などを使って、ガラスを傷つけないように落としてください。

⚠ 警告

- ルーフに積もった雪は落としてください。窓ガラスに雪が滑り落ちると視界の妨げとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

足回りの着氷を落とす

- 足回り（ブレーキホース、フェンダー裏側など）に付着した氷塊を、部品を破損しないように注意して取り除いてください。

滑りやすい路面の走りかた

- 滑りやすい路面での急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドルなど無理な運転は危険ですのでしないでください。雪道や凍結路では速度を落とし、車間距離を取り、ゆとりある運転をしてください。
- 雪道、凍結路では早めに冬用タイヤ、タイヤチェーンなどを装着して走行してください。
  ➔ タイヤチェーンについて (P.407)

走行中の雪の付着に注意

- ブレーキに付着した雪が凍結し、ブレーキの効きが悪くなることがあります。ときどきブレーキの効き具合を確認してください。効きが悪いときは、前後の車との距離を十分とり、低速走行で効きが回復するまでブレーキペダルを軽く踏んでください。
- フェンダーの裏側に付いた雪が積もり、ハンドルの切れが悪くなることがあります。時々確認して雪を取り除いてください。

長時間駐車するとき

- セレクトレバーをPに入れ、パーキングブレーキをかけずに輪止めをしてください。パーキングブレーキをかけると、ブレーキが凍結して解除できなくなるおそれがあります。
- 軒下や樹木の下には駐車しないでください。落雪で車が損傷するおそれがあります。
- 雪が降りそうなときや降雪時にはワイパーアームを起こしておいてください。ブレードと窓ガラスが凍結し、破損するおそれがあります。

タイヤが摩耗･損傷していたり、適正な空気圧でないと、安全な走行ができず乗り心地も損なわれます。
日常的に点検を行ってください。

タイヤの点検項目

■ タイヤ空気圧の点検

- タイヤの空気圧は、走行前のタイヤが冷えているときに点検･調整してください。タイヤ接地部のたわみが大きいときは、空気圧が不足しています。すみやかに調整するか、日産販売会社にご相談ください。偏平タイヤの空気圧はたわみ状態ではわかりにくいため、タイヤエアゲージを使用し点検してください。
- タイヤ空気圧は自然に少しずつ低下します。月に一度はタイヤエアゲージを使用してタイヤ空気圧が適正であるか点検してください。
- タイヤ空気圧は走行に伴い約1割程度上がることがあります。
- タイヤ空気圧は運転席ドア開口部に表示してあります。
- タイヤ空気圧の調整後は、必ずタイヤ空気圧警報システムのリセット操作をしてください。
  ➔ タイヤ空気圧警報システム (P.402)

■ タイヤ摩耗の点検

- 摩耗限界表示（ウェアインジケーター）が表れたら、タイヤを交換してください。

⚠ 注意

- タイヤの空気圧が不足したまま走行すると、バースト（破裂）するなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- タイヤはゴム製品のため、徐々に劣化します。5～7年を目安に必ず点検してください。

タイヤ·ロードホイールを交換するとき

- タイヤサイズは運転席ドア開口部のタイヤ空気圧表示を参照してください。
- ロードホイールを交換するときは、必ず指定サイズで同一種類のロードホイールを取り付けてください。ロードホイールのサイズは巻末のサービスデータに記載してあります。
- タイヤまたはロードホイールを交換したときは、必ずタイヤ空気圧警報システムのリセット操作をしてください。
➔ タイヤ空気圧警報システム (P.402)

⚠ 注意

- 指定サイズ以外のタイヤ·ロードホイールは絶対に取り付けないでください。不適合なタイヤ·ロードホイールを取り付けると、安全性が損なわれ、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- タイヤを交換するときは、４輪とも同時期に行い、必ず指定サイズで同一の銘柄、パターン（溝模様）のタイヤを取り付けてください。
- 特に4WD車は径が異なるタイヤを装着すると、車の機構に無理がかかり、重大な故障につながります。また、VDCシステムが正常に作動しないことがあります。次のようなタイヤの装着はしないでください。回転差を吸収する機構に無理がかかり、過熱し火災につながるおそれがあります。
  - 摩耗差の大きいタイヤの装着
  - 前輪または後輪だけに冬用タイヤを装着
  - サイズや種類の異なるタイヤを個々に装着
- タイヤの交換をするときは、日産販売会社にご相談ください。

アドバイス

- ロードホイールは、リムサイズやインセットが同じでも、他の車の物は使えない場合があります。お手持ちの物をご使用になるときは、日産販売会社にご相談ください。
- アルミロードホイールには荷重制限がありますので、交換するときは日産販売会社にご相談ください。
- タイヤやロードホイールを交換したときは、ホイールバランスを確実に取ってください。

タイヤ空気圧警報システムについて

- タイヤ空気圧センサーが付いていないロードホイールを装着すると、タイヤ空気圧警告灯が約1分間点滅後、点灯します。
  元のタイヤ空気圧センサーが付いているロードホイールを取り付けたあとは、必ずタイヤ空気圧警報システムのリセット操作をしてください。リセット後、タイヤ空気圧警告灯は消灯します。
- 新しいタイヤ空気圧センサーを取り付けた場合は、専用のIDコードを登録する必要があります。詳しくは、日産販売会社にご相談ください。

タイヤの位置交換（ローテーション）

左右それぞれで、前後タイヤの交換を行ってください。タイヤの偏摩耗を防ぎ、寿命を延ばすために、約5,000kmごとにタイヤのローテーション（位置交換）を行うことをおすすめします。

前後

⚠ 注意

- タイヤ間に著しい摩耗差があったり、空気圧が規定値より著しく異なると、車の性能が十分に発揮できなくなり、安全性を損なったり故障の原因になります。

アドバイス

- タイヤの位置交換と同時に空気圧も点検してください。
- タイヤの位置交換をしたときは、タイヤ空気圧警報システムのリセット操作をしてください。
➔ タイヤ空気圧警報システム(P.402)
- タイヤの位置交換については、日産販売会社にご相談ください。

タイヤ空気圧警報システム

■ タイヤ空気圧警報システム

タイヤ空気圧警報システムは、タイヤ空気圧が不足していることを知らせるシステムです

- 25km/h以上で走行したときに、作動します。
- タイヤ空気圧が低下すると、メーター内のタイヤ空気圧警告灯が点灯し、メーター内のディスプレイに警告を表示します。
- 空気圧を正しく調整したあと、必ずタイヤ空気圧警報システムのリセット操作をしてください。リセット後、タイヤ空気圧警告灯とメーター内のディスプレイの警告表示（➔ ドライブインジケーター (P.278)）が消灯します。
- バーストや急激な空気圧低下をした場合は、メーター内の警告表示がすぐに作動しないことがあります。
- システムに異常があるときは、タイヤ空気圧警告灯（➔ 警告灯 (P.255)）が約1分間点滅したあとに点灯を続けます。

⚠ 警告

- 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器（ICD）を使用している方は、アンテナから約22cm以内の範囲に装着部位が近づかないようにしてください。タイヤ空気圧警報システムの電波が植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器（ICD）の作動に影響を与えるおそれがあります。

アンテナ
アンテナ

メンテナンス

⚠ 警告

⚠ 警告

- 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器（ICD）以外の医療電気機器を使用している方は、インテリジェントキーの電波が医療電気機器の動作に影響を与える場合があるため、医療電気機器製造業者などへ影響を確認してからご使用ください。

⚠ 注意

- タイヤ空気圧警告灯が点灯し、警告が表示されたときは、安全な場所に停車し、タイヤを確認してください。放置して走行し続けると、タイヤがバースト（破裂）したり思わぬ事故につながるおそれがあります。
- タイヤ空気圧警告灯が約1分間点滅したあとに点灯を続けたときは、日産販売会社で点検を受けてください。
- パンク修理剤を使用する場合は、必ず日産純正品を使用してください。

アドバイス

- タイヤ空気圧警報システムは、日常点検を補助するものです。必ず日常点検でタイヤの空気圧を点検してください。
- タイヤ空気圧センサーは、日本の電波法の認証に適合しています。次の

アドバイス

ことを必ずお守りください。
  - 日本国内のみで使用する。
  - 正しい使用方法以外では使用しない。
  - 分解や改造はしない。（分解や改造したものを使用することは法律で禁止されています。）
- タイヤ空気圧センサーにはお客さまの車に適合する固有のIDコードが登録されています。他の車のタイヤ空気圧センサーを使用すると、システムが作動しません。
- タイヤを修理·交換するときはタイヤ空気圧センサーの取り付けやIDコードの登録をする必要があるため、日産販売会社へご相談ください。
- 以下の場合は、タイヤ空気圧警報システムが正常に作動しない場合があります。
  - タイヤ交換後や空気圧調整後に、タイヤ空気圧警報システムのリセットを行っていないとき。
  - タイヤチェーンを装着しているとき。
  - 日産純正品以外のタイヤやロードホイールを使用したとき。
  - 近くに同じような無線周波数を

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

アドバイス

使っている施設や器具があるとき。
- 車両、特にロードホイールハウスの周りに多くの雪や氷などが付いたとき。
- タイヤ空気圧センサーのIDコードがシステムに登録されていないとき。
- タイヤ空気圧センサーの電池が消耗したとき。
- 窓ガラスに金属性の部品を装着しているとき

- タイヤ空気圧センサーには、車両と通信するための電池が内蔵されています。走行中は、常時車両と通信しているため電池を消耗しており、電池が切れると、タイヤ空気圧警告灯が約1分間点滅後、点灯します。電池が消耗したときは、日産販売会社にご相談ください。電池単品での交換はできません。
- 凹凸のある道路を走行するときは注意して走行してください。タイヤ空気圧センサーを破損させるおそれがあります。

知識

- 温度による空気圧の変化や自然に空気圧が減少したときにもタイヤ空気圧警告灯が点灯しますが、適切な空気圧に調整して消灯すれば故障ではありません。
➔ タイヤ空気圧の点検 (P.398)
- 高速走行時はタイヤ空気圧警告灯が約1分間点滅したあと点灯することがありますが、減速して消灯すれば故障ではありません。

■ **タイヤ空気圧警報システムのリセット**

以下の場合はタイヤ空気圧警報システムのリセット操作が必要となります。

- タイヤ空気圧を調整したとき
- タイヤまたはホイールを交換したとき
- タイヤの位置交換（ローテーション）をしたとき

以下の手順に従って、タイヤ空気圧警報システムのリセット操作を行ってください。

1	安全な場所に停車します。	
2	パーキングブレーキをかけ、セレクトレバーを P にします。	
3	4輪すべてのタイヤを指定の空気圧に調整し、タイヤエアゲージを使用して確認します。	

次のページに続く

前のページから

4	ブレーキペダルを踏まずにパワースイッチを押して、電源ポジションをONにします。ハイブリッドシステムは始動させないでください。
5	ナビゲーションシステムで次の操作をして、タイヤ空気圧警報システムをリセットします。 MENU ⇒ 設定 ⇒ メーター設定 ⇒ タイヤ空気圧警報システム設定 ⇒ システムリセット ⇒ はい ⇒ OK
6	リセット操作後、タイヤ空気圧警告灯とメーター内のディスプレイの警告表示が消灯します。

リセット操作後も警告灯が点灯する場合は、日産販売会社で点検を受けてください。

➔ 警告灯 (P.255)

タイヤチェーンについて

タイヤチェーンは必ず後2輪に装着してください。4WD車も後2輪に装着してください。

装着の前に

安全に作業できる平坦な場所に停車してください。
パーキングブレーキをかけハイブリッドシステムを停止します。さらに、非常点滅表示灯を点滅させ、必要に応じて停止表示板（または停止表示灯）を置きます。

- お客様のタイヤサイズに合ったタイヤチェーンでも使用できない場合があります。タイヤチェーンはお客様の車に適合した日産純正品をおすすめします。適合するタイヤチェーンについては日産販売会社にご相談ください。

装着のしかた

- タイヤチェーンは付属の取扱説明書に従って正しく装着してください。

注意

- 不適正に装着したり、タイヤサイズに合わないものなどを使用すると、ブレーキ配管やフェンダーなどを破損するおそれがあります。

アドバイス

- タイヤチェーンを装着すると、アルミホイールを傷つけるおそれがあります。
- タイヤチェーンを装着したときはタイヤチェーンに付属の取扱説明書で指示された速度で走行してください。安全が損なわれたりタイヤチェーンが切れやすくなります。
- 雪のない舗装路ではチェーンを装着したまま走行しないでください。路面を損傷したり、チェーンの摩耗を早め、寿命が短くなります。また、

アドバイス

4WD車は機構に無理がかかり故障の原因となります。

● タイヤチェーンを装着しているときは、突起しているところや穴の上を走行したり、急ハンドルやタイヤがロックするようなブレーキ操作をしないでください。

ワイパーブレードを交換するときは、次の手順に従ってください。

ワイパーブレードの交換のしかた

1	ワイパーアームを起こし、ブレードを少し傾けます。 ワイパーアームを起こすとき（ライズアップ機能の使いかた）（P.334）	
2	ワイパーブレードのツメを押したままにします。	
3	ワイパーブレードを矢印の方向に動かして取り外します。	
4	新しいワイパーブレードを取り付けます。取り付けは取り外したときと逆の手順で行い、ワイパーブレードが確実に固定されていることを確認します。	ツメ

注意

- 交換するときは、ワイパーアームおよびワイパーブレードがガラスに当たらないよう気をつけてください。ガラスに当たるとガラスが破損するおそれがあります。

アドバイス

- ワイパーブレードに大きな力を加えて変形させないでください。ふき取りにくくなったり、破損するおそれがあります。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

ワイパーゴムの交換のしかた

1	ワイパーアームからワイパーブレードを取り外します。	
2	ワイパーゴムを矢印方向にスライドし、取り外します。	ストッパー
3	取り付けるときは、取り外したときと逆の手順で行います。 ● ワイパーゴムのストッパーがない方からブレードに沿って差し込みます。 ● ワイパーゴムのⒶ部をワイパーブレードの「SET」の位置で確実に押し込み、固定します。	Ⓐ SET

知識

● ワイパーゴムに石けん水を塗ると脱着しやすくなります。

ヒューズ

ランプがつかないときや電気系統の装置が作動しないときは、ヒューズ切れが考えられます。
故障の状況から、関係するヒューズを確認してください。

ヒューズを確認する前に

● ヒューズが切れているときは、同じ容量のヒューズと交換します。

■ ヒューズボックスの位置

● ヒューズボックスはエンジンルームと運転席足元、トランクルームにあります。
● 各ヒューズの位置は、エンジンルームおよび運転席足元はヒューズボックスのふたの裏側、トランクルームはふたの表側に表示してあります。

正　常

ヒューズ切れ

⚠ 警告

● 高電圧部位、サービス·プラグ、高電圧の配線（オレンジ色）およびそのコネクターに触れたり、取り外し、分解などは絶対に行わないでください。重大な傷害を受けるおそれがあります。
● 規定容量以外のヒューズや、ヒューズの代わりに針金、銀紙などは絶対に使わないでください。電装システムの故障や、配線などが過熱して火災につながるおそれがあります。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

ヒューズ抜きについて

- 運転席足元のヒューズボックス内にヒューズ抜きがあります。
- 電源ポジションをOFFにしてから、ヒューズ抜きをヒューズに差し込んで引き抜き、ヒューズが切れていないか確認します。

アドバイス

- 交換してもヒューズが切れるときは、日産販売会社で点検を受けてください。
- ヒューズを交換したときは、確実に差し込まれていることを確認してください。

ヒューズの交換のしかた（エンジンルーム）

エンジンルームのヒューズを点検･交換するときは、次の手順に従ってください。

1	電源ポジションをOFFにし、フードを開けます。 ➔ フードの開閉 (P.391)	
2	ツメを押しながら持ち上げ、ふたを外します。	
3	運転席足元のヒューズボックスにあるヒューズ抜きを使ってヒューズを取り外します。 ➔ ヒューズの交換のしかた（車室内）(P.415)	

メンテナンス

次のページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

前のページから

4	新しいヒューズと交換します。 交換したときは、確実に差し込まれていることを確認してください。	

ヒューズの交換のしかた（車室内）

車室内のヒューズを点検·交換するときは、次の手順に従ってください。

1	電源ポジションをOFFにします。	
2	運転席足元にあるふたのツメを押しながら手前に引いて外します。	
3	ヒューズ抜きでヒューズを取り外します。	

次のページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

前のページから

4	新しいヒューズと交換します。交換したあとは、確実に差し込まれていることを確認してください。	

アドバイス

- 次のイラストのような部品が付いている場合は、その部品の中にもヒューズがあります。中のヒューズを点検･交換するときは、Ⓐを上下につまみながら矢印の方向に引き抜いてください。

ヒューズの交換のしかた（トランクルーム）

1	電源ポジションをOFFにし、トランクを開けます。 ➔ トランクの開閉 (P.309)	
2	トランクカバーの中央を下に押し下げてカバーを外し、ツメを押しながらふたを開けます。	
3	ヒューズ抜きでヒューズを取り外します。	
4	新しいヒューズと交換します。交換したあとは、確実に差し込まれていることを確認してください。	

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

電球（バルブ）交換

外装ランプが点灯しないときは、バルブ切れが考えられます。
バルブの交換作業が不慣れな方や部品の破損などが心配な方は、日産販売会社にご相談ください。

各電球（バルブ）の位置

車幅灯／デイライト
ヘッドランプ（ロービーム）
ヘッドランプ（ハイビーム）
方向指示器 兼 非常点滅表示灯（側面）
方向指示器 兼 非常点滅表示灯（前面）
フォグランプ
ハイマウントストップランプ
方向指示器 兼 非常点滅表示灯（後面）
番号灯
制動灯／尾灯
後退灯
尾灯

⚠ 注意

- バルブ交換は、エンジンルームやバルブが冷えた状態で行ってください。やけどをするおそれがあります。
- バルブ交換をするときは、軍手などを着用して作業してください。
- ステーなどの端で指や腕をケガしないように十分注意してください。
- バルブは点灯中、表面が高温になります。バルブが正しく取り付けられていないと、走行中にバルブが外れ、周辺の部品に接触するなどし、発熱、発火につながるおそれがあります。

アドバイス

- 外した部品は確実に取り付けてください。水が入り故障の原因になるおそれがあります。
- バルブに油が付着したときは柔らかい布などでふき取ってください。また、素手でガラス部分に触れないでください。バルブの寿命が短くなったりバルブが破損するおそれがあります。

方向指示器 兼 非常点滅表示灯（後面）

1	トランクを開け、カバーⒶを外します。
2	ボルトを2本外し、レンズを車両外側に引いて取り外します。
3	バルブのソケットを矢印の方向に回して引き抜きます。
4	古いバルブを引き抜き、新しいバルブをソケットに取り付けます。 取り外したときと逆の手順で取り付けます。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

番号灯

1	カバーを左側に押しながら下側に引き抜きます。	
2	ソケットを矢印の方向に回して引き抜きます。	
3	古いバルブを引き抜き、新しいバルブをソケットに取り付けます。 取り付けるときは、カバーの右側を入れてから押し込みます。	バルブ ソケット

その他の電球（バルブ）

以下の電球が点灯しないときは日産販売会社で点検を受けてください。

- **前照灯（ハイビーム／ロービーム）（LED）**
- **フォグランプ（LED）**
- **車幅灯／デイライト（LED）**
- **方向指示器 兼 非常点滅表示灯（前面）（LED）**
- **方向指示器 兼 非常点滅表示灯（側面）（LED）**
- **制動灯／尾灯（LED）**
- **ハイマウントストップランプ（LED）**
- **後退灯（LED）**

エンジンオイルについて

- 交換時期についてはメンテナンスノートをお読みください。また、指定のエンジンオイルについては、巻末のサービスデータをお読みください。
➔ 交換油脂類 (P.433)
詳しくは日産販売会社にご相談ください。

⚠ 注意

- 適切なオイル交換が行われないと、エンジンの破損や火災など、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- オイルの点検をしたあとは、オイルレベルゲージを確実に差し込んでください。 オイルレベルゲージが根元まで差し込まれていないと、オイルが噴き出し火災の原因になるおそれがあります。
- エンジンオイルフィラーキャップは確実に閉めてください。走行時にキャップが外れエンジンオイルが噴き出すと、火災の原因になるおそれがあります。

12Vバッテリーについて

- 12Vバッテリーのメンテナンスについては、メンテナンスノートをお読みください。詳しくは日産販売会社にご相談ください。

⚠警告

- 12Vバッテリーを充電するときは換気を十分に行い、火気は近づけないでください。12Vバッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあります。
- 12Vバッテリー液は希硫酸です。目や皮膚に付着すると、失明や炎症など重大な傷害につながるおそれがあります。万一、付着したときは、すぐに 多量の水で洗浄し、飲み込んだときは多量の水を飲んで応急処置をしたあと、医師の診療を受けてください。

⚠注意

- 12Vバッテリーの(+)側端子が周辺の金属と接触しないようにしてください。接触するとショートして火災の原因となるおそれがあります。また、12Vバッテリーの端子の締め付けが緩いと、配線などが過熱、焼損し、火災につながるおそれがあります。
- 12Vバッテリーを交換するときは、必ず同じサイズ（型式）に交換し、動かないようにしっかりと固定してください。しっかり固定できていないと、ショートなどの原因となり火災につながるおそれがあります。詳しくは、日産販売会社にご相談ください。

洗車のしかた

塗装面の変色やサビなどを防止するために、適切なお手入れが大切です。

洗車のしかた

- 塗装面に付着した汚れをそのままにすると、変色やサビの原因となります。次のような場合は、すぐに洗車してください。
  - ばい煙、虫の死がいや鳥のふん、樹液、鉄粉、コールタールなどが付着したとき
  - 海岸地区、凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
  - ほこり、汚れがひどいとき

注意

- 下回りを洗うときはケガをしないように注意してください。
- エンジンルーム内に水をかけないでください。ハイブリッドシステムの始動不良や不調、電気部品の故障などの原因になるおそれがあります。また、電装品などに水がかかると、故障したり電気部品のショートにより車両火災につながるおそれがあり危険です。

アドバイス

- ケミカル用品などは用途により使い分けが必要です。用途にあった物をお使いください。
- ベンジン、シンナーなどの有機溶剤や酸、アルカリ性の溶液を使わないでください。変色やしみの原因となります。
- 硬いブラシや、たわしなどは使わないでください。塗装面を傷つけるおそれがあります。
- 寒冷時に洗車をするときは、ブレーキに直接水がかからないように注意してください。ブレーキ装置に水が入ると凍結し、走行できなくなるお

アドバイス

それがあります。

■ 水洗いするとき

① 水をかけながら下回りの汚れを洗い流します。
② 水をかけながら塗装面の高い位置から低い位置の順にセーム皮や柔らかいスポンジなどで汚れを落とします。汚れがひどいときは、ボディーシャンプーなどを使い、その後十分に水で洗い流します。
③ はん点が残らないように水をふき取ります。

■ 洗車機を使うとき

- 自動洗車機を使用するときは、ドアミラー（➔P.73）を格納してください。
- 高圧（コイン）洗車機を使用するときは、洗車ノズルと車体の距離を十分離して洗車してください。

アドバイス

- 自動洗車機で洗車すると、ブラシの傷がつき、塗装の光沢が失われたり劣化を早めることがあります。
- ドアガラスのまわりに高圧ノズルを近づけないでください。車内に水が漏れるおそれがあります。

ワックスをかけるとき

塗装面の変色やサビなどを防止するために、適切なお手入れが大切です。

- ワックスがけは 1 か月に 1 回程度、または水はじきが悪くなったときに行ってください。かけかたは普通塗装車、メタリックおよびパール塗装車とも同じです。

■ ワックスのかけかた

① 塗装面の汚れを洗車などで取り除きます。
② 塗装面が冷えているとき（体温以下が目安）にワックスをかけます。かけかたはワックス容器に記載してある説明に従ってください。

■ ワックスの選びかた

- コンパウンド（研磨剤）の入っていない、塗装に適したワックスを使ってください。日産純正カーワックスをおすすめします。詳しくは、日産販売会社にご相談ください。

アドバイス

- 塗装されていないバンパー、スポイラーなどの樹脂部品には、ワックスを使用しないでください。ムラになることがあります。
- コンパウンド（研磨剤）の入ったワックスを使うと、塗装面の光沢や水をはじく特性が失われることがあります。
- カメラのレンズ部にワックスを付けないでください。ワックスが付いた場合は、中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませ、ふき取ってください。

アルミロードホイールのお手入れ

- 中性洗剤を含ませたスポンジなどを使い、汚れを落としてください。日産純正クリーナーをおすすめします。詳しくは、日産販売会社にご相談ください。

アドバイス

- 変色やしみの原因になったり、傷をつけるおそれがあるため、次のことをお守りください。
  - 強酸性、強アルカリ性の洗剤は使わない
  - 洗剤はホイールの表面が冷えているときに使用する（体温以下が目安）
  - 洗剤を使用したあとは、早めに十分洗い流す
  - 硬いブラシやコンパウンド（研磨剤）の入った洗剤などは使わない

軽い補修のしかた

- 塗装面の小さい傷はタッチアップペイントを使い、早めに傷部を補修してください。サビの発生を防ぎ、塗装面を長持ちさせます。

カーペットの汚れ取り

- 電気掃除機でほこりを取り除き、日産純正ルームクリーナーなどで汚れを落としてください。フロアカーペットを取り外したときは、敷き直すときにフロアカーペットがずれないように固定クリップで正しく確実に固定してください。

➔ フロアカーペット (P.356)

⚠ 注意

- 車室内に水をかけないでください。オーディオやスイッチ類、フロア下の配線や電気部品などに水がかかると故障するおそれがあります。

アドバイス

- ベンジン、シンナーなどの有機溶剤や酸、アルカリ性の溶液を使わないでください。変色やしみの原因となります。また、各種クリーナー類には、これらの成分が含まれているおそれがありますので確認してから使ってください。

布、ビニールレザーの汚れ取り

- 中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませ、軽くふき取ります。さらに水に浸した布を固くしぼってふき取ります。汚れがひどいときは、日産純正ルームクリーナーなどで汚れを落としてください。

注意

- 車室内に水をかけないでください。オーディオやスイッチ類、フロア下の配線や電気部品などに水がかかると故障するおそれがあります。

アドバイス

- ベンジン、シンナーなどの有機溶剤や酸、アルカリ性の溶液を使わないでください。変色やしみの原因となります。また、各種クリーナー類には、これらの成分が含まれているおそれがありますので確認してから使ってください。

本革シートのお手入れ★

通常のお手入れ

- ガーゼなど柔らかい布でふきます。

水溶性の汚れを取るとき

- 柔らかい布をぬるま湯に浸し、固くしぼってからふき取ります。次に乾いた柔らかい布でふきます。

油性の汚れを取るとき

① ぬるま湯に中性洗剤を溶かし（濃度2～3%）、柔らかい布に含ませ汚れを取ります。
② 真水に浸した布を固くしぼってふき取ります。
③ 乾いた柔らかい布でふき、風通しのよい日陰で乾燥させます。

注意

- 車室内に水をかけないでください。オーディオやスイッチ類、フロア下の配線や電気部品などに水がかかると故障するおそれがあります。

アドバイス

- ベンジン、シンナーなどの有機溶剤や酸、アルカリ性の溶液を使わないでください。変色やしみの原因となります。また、各種クリーナー類には、これらの成分が含まれているおそれがありますので確認してから使ってください。
- 本革シートは、直射日光により変色、変質することがあるため、日よけに心がけてください。
- 本革シートが水などでぬれたときは早めにふき取ってください。皮革が硬化、収縮する原因となります。

知識

- 本革シートのお手入れ用品（クリーナーなど）のご購入については、日産販売会社にご相談ください。

リヤウインドーの清掃

- ガラスの内側を清掃するときは、熱線やアンテナ線を切らないように水を含ませた柔らかい布で熱線やアンテナ線にそって軽くふいてください。
- ガラスクリーナー、洗剤などは使わないでください。

メーター表面の汚れ取り

- 柔らかい布を真水に浸し、固くしぼってからふき取ります。

アドバイス

- 乾いた布やウエットティッシュなどを使用しないでください。傷がついたり、変色の原因になります。
- ワックスやコーティング剤、油などが付着した布ではふかないでください。変色の原因になります。

点検値

項目		点検値
ブレーキペダル※	遊び	2〜10mm
	床板とのすき間 ハイブリッドシステムが始動中で約196N（20kg）で踏んだとき	132mm以上
パーキングブレーキ	踏みしろ ハイブリッドシステムが始動中で約196N（20kg）で踏んだとき	2〜3ノッチ

※: ブレーキが正常に作動しないときは、必ず日産販売会社で点検を受けてください。また、ブレーキペダルの床板とのすき間の調節が必要なときも、日産販売会社にご相談ください。

交換油脂類

■ エンジンオイルについて

項目	適用	規定量（ ℓ ）※1		指定油脂（規格）
		オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換	
エンジンオイル	VQ35HR	4.6	4.9	日産純正SMストロングセーブ･XEスペシャル※2 （API: SM、SAE: 5W-30） ※外気温に適した粘度（SAE規格）のものをご使用ください。 外気温（℃）: -30 -20 -10 0 10 20 30 40 SAE 5W-30: -30〜40 SAE 10W-30: -20〜40

※1： 規定量は目安です。
※2： 工場出荷時に充てんされているオイルです。

■ その他の交換油脂類について

項目	適用	規定量（ℓ）※1	指定油脂（規格）
オートマチックトランスミッションフルード	全車	7.0	日産純正マチックフルードS ※2
フロントディファレンシャルオイル	4WD	0.65	日産純正デフオイルハイポイドスーパー（API: GL-5、SAE: 80W-90）
リヤディファレンシャルオイル	全車	1.05	日産純正デフオイルハイポイドスーパーS（API: GL-5、SAE: 75W-90）
トランスファーオイル	4WD	1.0	日産純正マチックフルードJ
ブレーキフルード	全車	—	日産純正ブレーキフルードNo.2500（DOT3）
エンジン冷却水	全車	2WD: 9.8※3 4WD: 10.3※3	日産純正スーパーロングライフクーラント ※4（エンジンクーラント）
インバーター冷却水	全車	2.4※5、※6	日産純正スーパーロングライフクーラント ※4（エンジンクーラント）
ウォッシャー液	全車	4.5	日産純正ウインドウォッシャー液 ● 外気温に応じて濃度を調節してください。

※1： 規定量は目安です。
※2： 必ず日産純正マチックフルードSを使用してください。日産純正マチックフルードS以外のフルードを使用するとオートマチックトランスミッションが破損するおそれがあります。
※3： リザーバータンクのMAXレベル容量（0.8ℓ）を含みます。
※4： 走行用モーターやインバーターなどが破損するおそれがあるため、市販されている水漏れ防止剤などの添加剤は冷却水に添加しないでください。冷却水は、日産純正スーパーロングライフクーラントを必ずご使用ください。
※5： リザーバータンクのMAXレベル容量（0.4ℓ）を含みます。
※6： インバーター冷却水が極端に不足しているときは、水漏れのおそれがあります。すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。

■ 指定のエンジンオイルについて

API 規格またはILSAC 規格に適合した指定油脂をお使いください。 なお、規格適合油にはイラストのマークが表示されています。
日産純正銘柄のご使用をおすすめします。
交換時期についてはメンテナンスノートをお読みください。 詳しくは日産販売会社にご相談ください。

API SERVICE SN
SAE
5W-30
RESOURCE CONSERVING

AMERICAN PETROLEUM INSTITUTE
FOR
GASOLINE
ENGINES
CERTIFIED

APIマーク　ILSACマーク

電球（バルブ）の容量

電球（バルブ）		容量（V-W）	バルブタイプ
前照灯（ヘッドランプ）	ロービーム	—	LED
	ハイビーム	—	LED
前部霧灯（フォグランプ）		—	LED
車幅灯／デイライト		—	LED
番号灯		12-5	W5W
制動灯／尾灯		—	LED
ハイマウントストップランプ		—	LED
後退灯		—	LED
方向指示器 兼 非常点滅表示灯	前面、側面	—	LED
	後面	12-21（アンバー）	WY21W

タイヤ・ロードホイールサイズ

タイヤサイズ	ロードホイールサイズ		
	リムサイズ	P.C.D.	インセット
245/40RF19	19 x 8-1/2J	114.3mm （5穴）	50mm
225/55RF17	17 x 7-1/2J		45mm

※　タイヤの空気圧は運転席ドアの開口部に表示してありますので、確認してください。

車両データの記録･蓄積について

この車両に装備されている以下システムの各コンピューターはEDR（イベントデータレコーダ）機能を備えています。
以下システムの各コンピューターは正常に作動しているかどうかを常に診断し、EDRで車両が衝突したときの車両データを記録･蓄積しています。

■ SRSエアバッグシステム

SRSエアバッグシステムが作動したときに下記車両データを記録･蓄積します。

- エアバッグシステムの作動に関する情報
- エアバッグシステムの故障診断情報

■ ポップアップエンジンフード

ポップアップエンジンフードが作動したと
きに下記車両データを記録･蓄積します。

- 車両速度
- ポップアップエンジンフードの作動に関する情報
- ポップアップエンジンフードの故障診断情報

データの扱いについて

日産自動車および日産自動車が委託した第三者は、EDRに記録されたデータを日産自動車の車両衝突安全性能の向上を目的として、取得･利用することがあります。
なお、日産自動車および日産自動車が委託した第三者は、取得したデータを以下の場合を除き、第三者へ開示･提供することはありません。

- 車両の使用者の同意がある場合
- 裁判所命令など、法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行うなど、使用者や車両が特定できないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

知識

- EDR（イベントデータレコーダ）は一般的なデータレコーダとは異なり、会話などの音声や映像は記録しません。

ア

イ

ウ

エ

オ

カ

キ

ク

ス

セ

ソ

タ

索引

ヒ

フ

ヘ

ホ

マ

ミ

メ

ユ

ヨ

ラ

リ

ル

レ

ロ

ワ

日産車の環境保全への取組みを詳細に紹介した「車種別環境情報」をインターネットでご覧いただけます。

(http://www.nissan.co.jp/INFO/E_NOTE/)

日産自動車へのご相談は下記にお願いいたします。

お客さま相談室

0120-315-232

受付時間：**9:00〜17:00**

お問い合わせ・ご相談内容につきましては、お客さま対応や品質向上のために記録し活用させていただいております。

なお、内容によっては、当社の販売会社等から回答させていただくことが適切と判断した場合には、必要な範囲で情報を開示し、当該販売会社等からお客さまにご連絡をとらせていただく場合もございますので、あらかじめご了承ください。

当社における個人情報の取り扱いの詳細については、日産自動車ホームページ（http://www.nissan.co.jp）にて掲載しています。

日産自動車株式会社

〒220-8686 神奈川県横浜市西区高島一丁目1番1号